

※ポリシーとの関連性 アジアの経済発展は、大きく変化している講義を通して、アジア各国の相違点や特徴について学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい アジア経済は1960年代以降大きな変化を遂げてきた。その成長は今後とも進むと思われ、シンガポールの一人当たりGDPは日本を上回り発展し続けている。アジア各国の経済発展を分析し、その要因について考える。	メッセージ 講義受講時間中は、常にテキストやパソコンに登録されている共通ファイルに目を通して臨むようようようにして下さい。 また講義はパワーポイントを使いますので、よく聞く事に重点を置いて受講して下さい。
	到達目標 本講義を通して アジア諸国の発展過程及び現在各国が抱えている問題点について明らかにし、分析すると共に、問題解決を考える。 また、日本企業の対外投資による県連製についても考えていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 韓国経済発展の軌跡	テキストの予習・復習
	2	第2週 1MF危機とは何だったのか	同上
	3	第3週 展望	同上
	4	第4週 台湾戦後の発展過程	同上
	5	第5週 受託製造を支柱とする産業構造	同上
	6	第6週 資金という新しい力	同上
	7	第7週 民主化と経済・中国との関係	同上
	8	第8週 中間テスト	
	9	第9週 香港経済の高度成長	テキストの予習・復習
	10	第10週 構造転換	同上
	11	第11週 サービス経済・経済政策	同上
	12	第12週 シンガポール独立以来の経済発展	同上
	13	第13週 産業構造	同上
14	第14週 開発体制	同上	
15	第15週 都市国家の課題	同上	
16	第16週 期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など テキスト・参考文献・資料など テキスト 渡辺利夫編『アジア経済読本』第4版 東洋経済 参考文献 アジア動向年報（図書館）・日本経済新聞（図書館）・			
学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡下さい。 2. テキストの予習・復習を十分に行うこと。 3. 質問があれば、いつでも手を挙げて下さい。 4. 質問が多い人は評価が高くなります。			
評価 1. 中間テスト（40%） 2. 期末テスト（60%） 3. 欠席が1/3を超える学生は単位を認定しない。 4. 評価は総合点をもって行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 国際経済論 2. 日本経済論
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアビジネス事情	後期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい テキストを読んで内容を理解できる。アジアを代表する情報通信系企業に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。県系企業の海外進出や県のアジア経済戦略を理解できる。	メッセージ 毎回、プリントを配布します。なお、テストに対応できる練習問題を配って、授業中に解答します。
	到達目標 初歩的なアジアビジネスの実際を理解できる。現実のIT産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。	

学びの準備	到達目標 初歩的なアジアビジネスの実際を理解できる。現実のIT産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	県内企業のアジア圏取引の現状と課題について	プリント読み
	2	台湾香港の情報化と人材育成	テキスト13章
	3	シンガポールにおける経済およびIT政策&東南アジアの概況	テキスト12章&10章
	4	沖縄の情報産業の展開&沖縄スマートハブの形成	テキスト8章&プリント読み
	5	アベノミクスの真相-TPPと成長戦略の实情	参考書読み
	6	ベトナムにおけるIT政策と人材育成	テキスト11章
	7	サンスムの二番手商法	プリント読み
	8	中国の暗転&中国のIT事情	プリント読み
	9	台湾IT企業の戦略(鴻海とSHARPの崩壊)	プリント読み
	10	華人ビジネスと沖縄(華人ネットワークの秘密 華南経済圏と沖縄 華人国家シンガポール)	参考書読み
	11	香港台湾経済の展望&沖縄香港台湾の学生運動	参考書読み
	12	アジア各国の市場今後の見通し&新中間層のコンテンツ・シェアリング行動	テキスト14章&プリント読み
	13	沖縄の外国人観光客評価&タイの医療ツーリズム	テキスト1章6章
	14	アジアの富裕層ビジネス&沖縄リゾートウェディングの課題	テキスト3章4章
	15	国際物流でアジアを制す(リージョナル物流ハブの可能性)	課題&テストの準備
16	期末テスト	課題の提出	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト 沖縄国際大学公開講座(2015) 沖縄国際大学産業総合研究所『沖縄の観光・環境・情報産業の新展開』 泉文堂
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①テキストは各自で購入する②レポート提出前に、関連する授業プリントを再確認しておくこと。
-------	--

学びの実践	評価 レポート・期末テストと平常点で総合的に評価する。レポート報告50点・期末テスト30点・平常点20点の割合で評価する。無断欠席が連続5回以上になると、期末テストの参加を認めない。平常点は出席・授業態度を確認する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「グローバル・マーケティング演習」、「グローバル・マーケティング総論」 次のステージ：授業で学んだと知識は現実のビジネス世界に活用できる。ITビジネス、沖縄の地域産業について、全般に知識を高められる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。 [ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	1年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。	本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解	
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出	
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出	
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出	
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出	
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出	
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出	
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出	
	9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出	
	10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出	
	11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出	
	12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出	
	13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（1）	教科書の理解・課題の提出	
	14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（2）	教科書の理解・課題の提出	
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出		
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：講義時に指定する 参考文献・資料など：講義時に紹介する。			
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>			
評価	評価は、出席状況(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。	メッセージ 本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
	到達目標 ・ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。 ・演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出
9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出	
10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出	
11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出	
12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出	
13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（1）Web素材作成	教科書の理解・課題の提出	
14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（2）アニメーション	教科書の理解・課題の提出	
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出	
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。 ・講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 ・質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。		
	評価 評価は、授業参加度(50点)と課題(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 ウェブプログラミング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平良 直之	前期	金 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい インターネットの普及とともにない、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	メッセージ 本講義では基礎的な情報技術をわかりやすく解説することに努めますが、情報リテラシーやプログラミング概論、プログラミングIを履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は、私たちが普段利用する情報システムの基礎技術に関するものであり、2年次後期の専門演習基礎でどのクラスに所属するかに限らず、履修することを強くお勧めします。
	到達目標 インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	次回講義の予習課題
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①(記述ルール、定数、配列)	当該講義の演習/次回講義の予習
	3	PHPの基礎②(制御文、ユーザ定義関数)	当該講義の演習/次回講義の予習
	4	演習: PHPの基礎	当該講義の演習/次回講義の予習
	5	PHPの組み込み関数①(文字列・配列の操作)	当該講義の演習/次回講義の予習
	6	PHPの組み込み関数②(ファイルの操作、メール送信)	当該講義の演習/次回講義の予習
	7	演習: PHPの組み込み関数	当該講義の演習/次回講義の予習
	8	WebでのPHP①(テキスト・ボタンの利用)	当該講義の演習/次回講義の予習
	9	WebでのPHP②(認証、セッション、外部コマンド)	当該講義の演習/次回講義の予習
	10	演習: WebでのPHP	当該講義の演習/次回講義の予習
	11	PHPにおけるクラス	当該講義の演習/次回講義の予習
	12	MySQLによるデータ操作の基本①(データの挿入、検索、更新、削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
	13	MySQLによるデータ操作の基本②(テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
	14	PHPにおけるデータベース利用①(データベース接続とデータの検索)	当該講義の演習/次回講義の予習
15	PHPにおけるデータベース利用②(データの挿入・更新・削除)	当該講義の演習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 未定(第一回目の講義で周知します) 参考資料: ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験と課題レポートの総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 ウェブプログラミング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平良 直之	前期	月 4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい インターネットの普及とともにない、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	メッセージ 本講義では基礎的な情報技術をわかりやすく解説することに努めますが、情報リテラシーやプログラミング概論、プログラミングIを履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は、私たちが普段利用する情報システムの基礎技術に関するものであり、2年次後期の専門演習基礎でどのクラスに所属するかに限らず、履修することを強くお勧めします。
	到達目標 インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	次回講義の予習課題
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①(記述ルール、定数、配列)	当該講義の演習/次回講義の予習
	3	PHPの基礎②(制御文、ユーザ定義関数)	当該講義の演習/次回講義の予習
	4	演習: PHPの基礎	当該講義の演習/次回講義の予習
	5	PHPの組み込み関数①(文字列・配列の操作)	当該講義の演習/次回講義の予習
	6	PHPの組み込み関数②(ファイルの操作、メール送信)	当該講義の演習/次回講義の予習
	7	演習: PHPの組み込み関数	当該講義の演習/次回講義の予習
	8	WebでのPHP①(テキスト・ボタンの利用)	当該講義の演習/次回講義の予習
	9	WebでのPHP②(認証、セッション、外部コマンド)	当該講義の演習/次回講義の予習
	10	演習: WebでのPHP	当該講義の演習/次回講義の予習
	11	PHPにおけるクラス	当該講義の演習/次回講義の予習
	12	MySQLによるデータ操作の基本①(データの挿入、検索、更新、削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
	13	MySQLによるデータ操作の基本②(テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
	14	PHPにおけるデータベース利用①(データベース接続とデータの検索)	当該講義の演習/次回講義の予習
15	PHPにおけるデータベース利用②(データの挿入・更新・削除)	当該講義の演習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 未定(第一回目の講義で周知します) 参考資料: ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験と課題レポートの総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブマーケティング	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	インターネットの登場によりこれまでの企業活動は新たな局面を迎え、ウェブテクノロジーによりパラダイムシフトを遂げた。本講義では、広告宣伝活動、電子商取引、顧客へのカスタマーサービス、市場調査などの事例を取り上げ、ウェブマーケティングの知識および技術を紹介していく。	近未来に対する解決力・創造力を養うための専門科目としての位置づけで、これから社会で必要とされるウェブマーケティング技術の取得を目指す。積極的に講義に参加し、おもしろいアイデアを見つけ出すというようなモチベーションで望んで欲しい。
到達目標	近未来に対する解決力・創造力を養うための専門科目としての位置づけで、これから社会で必要とされるウェブ技術の知識取得を目指す。これからの社会はインターネットなしでは考えられないため、このような技術が未来をどのように変えていくのかを自ら考え、積極的に参画していく社会はどのように変容していくのかを想像できるようになって欲しい。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	ウェブサイトからのダウンロード
	2	マーケティングとは	用語の復習
	3	インターネット	技術用語の復習
	4	ユビキタスコンピューティング	技術用語の復習
	5	ウェブテクノロジーとビジネス1	事例の考察
	6	ウェブテクノロジーとビジネス2	類似事例を自ら探す
	7	前半まとめ及び確認問題	全体の復習
	8	データマイニングとデータウェアハウス	技術用語の復習
	9	アクセスログ解析とクラウドコンピューティング1	事例研究
	10	アクセスログ解析とクラウドコンピューティング2	事例研究
	11	ウェブマーケティング1	技術用語の復習
	12	ウェブマーケティング2	事例研究
	13	SNSおよびウェブサイト構築関連技術1	技術用語の復習
14	SNSおよびウェブサイト構築関連技術2	事例研究	
15	最終試験	全体の復習	
16	総括	近未来インターネットの考察	
実践	テキスト・参考文献・資料など	ウェブサイトで講義時に使用する資料を配布（講義で使用する資料をPDF化し公開する）するため、初回の講義は必ず出席すること。参考文献は講義時に紹介する。	
学びの手立て	この講義で学んだウェブマーケティングの知識や技術を応用すれば、専門演習などの卒業論文等ですぐに利用することが可能である。また、卒業研究や社会に出てからインターネットをベースにしたマーケティング手法を利用したいと考える者は受講するのが望ましいと考える。インターネットを取り巻く環境は著しく変化し、これからは速いスピードで変容し続けるため、情報収集能力が必要となる。膨大かつ陳腐化が激しい情報を積極的に収集し、自ら考える能力を養うことが必要である。		
評価	定期試験および達成度確認テスト80%、授業への参加態度20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	経営情報システム論（情報機器を用いた経営分析、意思決定支援システム、経営情報システムなどを体系的および実践的に学ぶ）や専門ゼミ等でこの講義で学んだ技術や知識が生かせると考える。これから、起業する者、就職して本格的なウェブサイト運営する者、インターネットを利用したビジネスを考えている者などは、この講義で得た知識が役に立つと思われる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エグゼクティブ・セミナー	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 哲	2年	st-uechi@hkg.odn.ne.jp	

学びの準備	ねらい 産業社会の成り立ちと現状を理解し、県内外でビジネスを展開する経営者をゲストに招き話を聞くことで、自分自身の進路・就職・仕事、そして生き方を考える機会を提供する。	メッセージ 県内外で活躍する企業経営者やビジネスマンから直接体験を聞き、質問、議論することで、将来の進路や仕事、生き方に向き合ってもらいたい。
	到達目標 将来の生き方の方向性を設定できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス、産業社会の概論
	2	産業社会の成り立ち（歴史）と現在社会。沖縄の産業の実情。
	3	沖縄におけるICTの活用（NTT地域支援室）
	4	広告業界から見る沖縄の産業界
	5	地域特産品の全国展開
	6	沖縄の独自性を商品化
	7	eコマースのメリットとデメリット
	8	離島の優位性
	9	世界に誇る沖縄のものづくり
	10	建築業界の現状
	11	アパレル業界でも沖縄らしさを
	12	伝統工芸の産業化
	13	空手のビジネス
	14	六次産業
	15	ウェルネス産業
	16	テスト
テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。その都度参考文献は紹介します。		
学びの手立て 履修の心構え 無断欠席はしないこと。 居眠り、私語は退席してもらいます。		
評価 評価点 出席：50 レポート：40 テスト：10		

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後、気になったゲストで話した企業との関係を作ってもらいたい。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	2年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アポ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>景気や物価の変動など国全体の現実の経済構造を把握し、経済を成長させるにはどのような政策が必要かを考えるのが本講義のテーマである。この講義やテーマを通じて、大きな視点で見る、マクロの視点や、経済学的思考（定義や仮定の設定、モデル化、そこから得られた結論と現実の妥当性）を習得することを目的とする。</p>	<p>就職稼働は好況不況に大きく左右されます。経済や景気変動は世の中だけでなく、みなさんにとっても重要な影響を与えます。経済状況や景気は、企業の活動や人生設計の上で大きくかかわってきます。また経済学を学ぶことは経済学的思考を学ぶことででもあります。論理的・科学的に学ぶことは客観的に筋道を立てて考える訓練にもなります。</p>
到達目標	マクロ経済学の基礎的な内容・景気変動を理解できること	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	講義概要・マクロ経済学とは	
		2	国民経済計算①GDP	参考文献での復習
		3	国民経済計算②物価、インフレとデフレ	参考文献での復習
		4	国民経済計算③三面等価	参考文献での復習
		5	国民経済計算④ISバランス式	練習問題・計算問題
		6	財市場の分析①45度線モデル	参考文献での復習
		7	財市場の分析②乗数理論	参考文献での復習
		8	財市場の分析③乗数の計算	練習問題・計算問題
	9	資産市場①貨幣の定義	参考文献での復習	
	10	資産市場②金融政策	参考文献での復習	
	11	資産市場③金融政策の有効性	練習問題・計算問題	
	12	資産市場④投資の理論	参考文献での復習	
	13	IS-LM分析①マクロ経済政策、IS曲線	参考文献での復習	
	14	IS-LM分析②LM曲線、財市場の均衡	参考文献での復習	
	15	IS-LM分析③流動性の罍、クラウディングアウト	練習問題・計算問題	
	16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など	石川秀樹『試験攻略入門塾速習！応用マクロ経済学』中央経済社2011年		
	学びの手立て	<p>履修の心構えについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがあります。遅れず毎回出席してください</li> <li>約1か月の講義のサイクルが講義→課題→解説の3段階で行いますので、課題に取り組むには講義にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめる必要があります。そうすることで試験問題を解答することができます。</li> </ul>		
	評価	平常点3割・課題点2割・試験5割により評価を行う予定である。進捗状況によって上記の割合は変化するため、最終回で割合を発表する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>類似科目：経済原論 I・II</p> <p>関連科目：金融経済論、国際経済学、産業連関論、ビジネスエコノミクス I・II</p> <p>上位科目：応用マクロ経済学 I・II</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	①マクロ経済学の基礎知識をさらに深めます。 ②基礎知識を経済現象の説明に応用します。 GDP、デフレーション、失業、経済成長など	マクロ経済学の基本、応用を理解し、GDPやデフレ、失業といった日常の経済現象を考えていきましょう。		
学びの準備	到達目標			
	応用マクロ経済学Ⅰで学んだマクロ経済学の基本概念を基に、経済変動に対してマクロ経済政策（財政政策及び金融政策）によりどう対応するのか、またその有効性を中心に学びます。授業のテーマは、マクロ経済学の基本的な考え方をさらに学習し、現実の経済政策にどのように活かされているのかを理解することです。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）		
		第1回マクロ経済学の基本概念—国民所得、有効需要と乗数 第2回マクロ経済学の基本概念—貨幣および貨幣供給と物価 第3回マクロ経済政策の基本概念—財政政策と金融政策 第4回財政政策の目標と政策手段 第5回 IS—LM分析と財政政策の効果 第6回金融政策の目標と政策手段 第7回 IS—LM分析と金融政策の効果 第8回講義の総括① 第9回変動為替相場制度下におけるマクロ経済政策 第10回インフレーションと失業 第11回デフレーションと失業 第12回経済成長とそのメカニズム 第13回経済成長と技術革新 第14回少子高齢社会と財政①—少子高齢化の現状と財政の課題 第15回少子高齢社会と財政②—財政収支の長期的側面、望ましい税制 第16回講義の総括②		
	テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しません。毎回、資料を配布して講義を進めます。		
	学びの手立て	経済原論ⅠⅡ、応用マクロ経済学Ⅰを受講し、マクロ経済学の基本を理解することが望ましい。		
学びの継続	評価	授業参加度、課題の提出状況、定期試験の結果を基に総合して評価します。		
	次のステージ・関連科目	応用ミクロ経済学Ⅰ、応用ミクロ経済学Ⅱ、ファイナンシャルエコノミクス		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マイクロ経済学Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>経済学は限られた資源（土地、労働力、設備やお金など）で財・サービスを生産し、それを分配し、消費して生活をするという人間の経済活動について研究する。マイクロ経済学は、売り手と買い手が市場の価格を通じて意志決定を行うという市場メカニズムについて究明する。講義では主に「家計の経済活動における意志決定」、「企業の経済活動における意志決定」を取り上げる。</p>	<p>家計や企業の経済活動は複雑に見えますが、経済学の基本概念を用いて家計や企業の行動原理を学習します。</p>

到達目標	<p>①家計の経済行動を説明する無差別曲線、予算線、効用最大化の基本概念を学習する                  ②企業の経済行動を説明する生産関数、費用関数について学び、利潤最大の原理を学習する                  ③個別の消費者行動、企業行動の事例に基本概念を適用して理解を深める</p>
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第一回 家計の経済活動：選好と効用                  第二回 無差別曲線の性質①                  第三回 無差別曲線の性質②                  第四回 予算の制約                  第五回 需要量の決定①                  第六回 需要量の決定②                  第七回 所得変化・価格変化の効果                  第八回 企業の生産活動、生産関数①                  第九回 生産関数②                  第十回 費用曲線①                  第十一回 費用曲線②                  第十二回 産出量の決定①                  第十三回 産出量の決定②                  第十四回 供給変化の効果                  第十五回 期末試験                  第十六回 講義の総括</p>
-------	---

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は特に指定しません。参考文献は下記と通りです。                  ①伊藤元重、『マイクロ経済学』日本評論社                  ②ポールクルーグマン、ロビン・ウェル『マイクロ経済学』東洋経済                  ③N・G・マンキュー著、足立ほか訳、『マンキュー経済学Ⅰマイクロ編』、東洋経済新報社</p>
-------	--

学びの手立て	<p>共通科目の「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」、産業情報学科選択科目の「経済原論Ⅰ」「経済原論Ⅱ」で経済学の基本的な考え方を学んでおいてください。応用マイクロ経済学Ⅰでは、経済学の基本的な考え方を経済現象の説明に応用します。</p>
--------	---

評価	<p>授業参加度、レポート提出、定期試験を基に総合的に評価します。</p>
----	---------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>応用マイクロ経済学Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅱ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用ミクロ経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>応用ミクロ経済学Ⅰで学習した家計と企業の経済行動の知識を基に、市場の資源配分についてさらに学習を深める。まず、完全競争市場における資源配分の効率性についてふれ、次に独占市場や寡占市場、独善的競争市場について学ぶ。さらに、市場がうまく機能しない市場の失敗について学び、不完全な情報の下では経済行動に問題が生じ、資源配分がうまくいかないことについて学習する。</p>	<p>市場の働きは複雑に見えますが、経済学の基本概念を用いて市場を作動原理を学習します。基本概念を個別の経済事例に適用して理解を深めます。</p>
到達目標	<p>①市場について、完全競争、独占、寡占、独占的競争に類型して理解を深めます。 ②市場による資源配分は十分ではなく、「市場の失敗」が存在すること、その対応について学びます。 ③市場における情報は不完全であり、これを補う家計や企業、市場の対応について学習します。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回 応用ミクロ経済学Ⅱ概要説明 第2回 完全競争市場と資源配分① 第3回 完全競争市場と資源配分② 第4回 独占市場について① 第5回 独占市場について② 第6回 寡占市場について① 第7回 寡占市場について② 第8回 講義の総括① 第9回 独占的競争市場① 第10回 独占的競争市場② 第11回 市場の失敗① 第12回 市場の失敗② 第13回 不完全情報① 第14回 不完全情報② 第15回 期末試験 第16回 講義の総括②</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しません。参考文献を以下にあげます。 ①『ミクロ経済学』伊藤元重、日本評論社 ②ポールクルーグマン、ロビン・ウェルス『ミクロ経済学』東洋経済 ③マンキュー『ミクロ経済学』東洋経済新報社</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>共通科目「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」、産業情報学科選択科目「経済学概論Ⅰ」「経済学概論Ⅱ」で経済学の基本的な考え方を学習しておくことが必要です。</p>
評価	<p>授業参加度、課題の提出、定期試験の結果を総合して評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>応用マクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅱ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄型企業戦略特別講義	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_大森 洋介、_呉屋 真也	3年	yosuke.omori@i-ways.co.jp	

学びの準備	ねらい 観光に次ぐリーディング産業となったIT市場について、企業の戦略と最先端のテクノロジーを学習します。IT市場の求める人材像やスキルを講話から探り、地域振興の課題と可能性を捉えます。	メッセージ グローバルにも通ずるIT市場のトレンドを学習することで、身の回りにおこる変化を正確に把握できる人材を育成します。ITの魅力を一人でも多くの学生にお伝えし、産業人材育成に寄与します。  ※受講対象：産業情報学科3年次
	到達目標 デジタルマーケティングやITサービスなどテクノロジーを活用した社会の仕組みを理解し、施策を立案できるようになる事。ITスキルの重要性に気づき、さまざまな分野でIT技術を活かせる人材の育成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	IT社会の現状と今後	
	3	IT企業戦略1	
	4	IT企業戦略2	
	5	IT企業戦略3	
	6	マーケティングの変容理解	
	7	ITを活用した社会と働き方1	
	8	ITを活用した社会と働き方2	
9	ITを活用した社会と働き方3		
10	今後起こりうる変化1		
11	今後起こりうる変化2		
12	今後起こりうる変化3		
13	求められるスキル2		
14	求められるスキル3		
15	総括・まとめ		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 各回の講義ごとに、講師から準備された資料が配布されます。また、この講義に関する参考書はありません。適宜指示します。		
	学びの手立て 授業は、講義と対話/ケーススタディ等の組み合わせで構成されます。感じたことをその場でオープンに発言していただくことを期待しています。		
	評価 レポート・・・毎回学びをレポートとして提出する。企業の講話を通して、沖縄経済・人材育成について課題抽出し、提案があれば質により加点する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義で学習したITに関する知識を持ち、情報系科目・企業戦略科目に学習を発展させる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄新ITビジネス特別講義	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_松本 安立、_杉浦 哲郎、_岡田 良、_中西 利文、_大城 健、_岩本 潤一	2年	098-917-1560	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>県内ITビジネスで活躍する講師（企業経営者や実務家等）による講座に参加し、ITビジネスに対する興味を高め、更に知識を深めることで、実務者とのITビジネスに関する対話が可能となり、将来のキャリア形成に役立つことを目指します。</p>	<p>事前の専門知識は不要です。ITビジネスの現場で活躍する多数の講師で取り組みますので、この機会に、知識と人脈を増やして下さい。</p> <p>※受講対象：産業情報学科2・3年次</p>
到達目標	<p>これまでの業界の状況だけでなく、これからの産業振興の展開まで触れることで、受講生がITビジネスに対する造詣が深い人材として育つことを目標とします。参加者の中から近い将来、ITビジネスで活躍する人材が数多く輩出されることを願っています。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	IT産業概論	
	3	これからの沖縄IT産業	
	4	ネットワーク概論	
	5	これからのWebサイト制作	
	6	Webマーケティング概論	
	7	Webマーケティング実践	
8	Webマーケティング実践		
9	コンテンツ制作概論		
10	コンテンツ制作概論		
11	ソフトウェア開発概論		
12	ソフトウェア開発概論		
13	人工知能技術「ディープラーニング」の現状と今後		
14	人工知能技術「ディープラーニング」の現状と今後		
15	人工知能技術「ディープラーニング」の現状と今後		
16	※最新のトピックを紹介するため、講義内容が変更になる可能性もあります。		
テキスト・参考文献・資料など	<p>各回の講義ごとに、講師から準備された資料が配布されます。また、この講義に関する参考書はありません。適宜指示します。</p>		
学びの手立て	<p>授業は、複数企業による講師陣により、Web・ネットワーク・デジタルコンテンツ・プログラム・AI(人工知能)といった多種多様なテーマで、講義と対話/ケーススタディ等の組み合わせで構成しております。質問等、積極的な参加を期待しています。 ※講師の都合により講義スケジュールが変更になる場合もありますのでご容赦ください。</p>		
評価	<p>レポート 【100%】・・・レポート課題に対する課題抽出、分析、提案の質により評価を行います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義で学習した内容をきっかけとして、県内で展開されるITビジネス全般に関する知識を深め、卒業後のキャリア形成に役立てて頂けるとありがたいです。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境資源経済論 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域における産業経済活動と環境資源問題との相互関係について理解を深め、環境資源経済分析に関わる理論的・実践的知識を学ぶ。	メッセージ 現代社会における重要な課題である環境資源問題の実状、環境政策、環境の価値評価などについて、関心のある学生を歓迎し、共に考えよう。
	到達目標 ①環境資源問題の実状について理解を深める。 ②環境資源問題と経済発展との関係、代表的な環境政策の基礎的理論、環境資源評価の基礎的理論を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	環境資源問題の諸相	当日内容の復習と次回の予習
	3	経済発展と環境資源問題	同上
	4	環境資源と経済	同上
	5	市場の機能	同上
	6	市場の失敗	同上
	7	環境政策の原則と手段	前半の復習
	8	中間まとめと中間テスト	テスト結果の点検
	9	コマンド・アンド・コントロール戦略：環境基準	当日内容の復習と次回の予習
	10	誘因に依拠する政策戦略：排出課徴金と補助金	同上
	11	誘因に依拠する政策戦略：排出権	同上
	12	環境資源評価の経済理論	同上
	13	環境資源価値の評価方法	同上
	14	環境資源価値の評価方法の演習	当日内容の復習
15	まとめと復習	後半の復習	
16	期末テスト	期末テストの点検	
テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。			
学びの手立て ①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②PC教室で講義を行うため、講義中に講義内容と無関係なこと（スマートフォンの操作、講義内容と無関係なサイトの閲覧など）を行った場合は減点となる。			
評価 平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境資源経済論Ⅱ、専門演習ⅠⅡ、卒業論文演習ⅠⅡ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境資源経済論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域における産業経済活動と環境資源問題との相互関係について理解を深め、環境資源経済分析に関わる理論的・実践的知識を学ぶ。具体的に前半では、地域環境資源問題および地域環境資源の利用と保全に関わる基礎的内容について理解を深め、後半では地域活性化を図る地域資源や地域環境の活用について理論的・実践的に学ぶ。	観光資源、観光経済および地域発展戦略などに関心のある学生を歓迎し、共に考えよう。
到達目標	①環境資源問題に関する基礎的理論の習得。 ②地域資源や地域環境を活用した地域活性化の方策について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	環境資源問題とは	
	2	資源問題と資源経済学	当日内容の復習と次回の予習
	3	資源問題の展開とその根源	同上
	4	資源問題の基本概念（1）	同上
	5	資源問題の基本概念（2）	同上
	6	再生可能資源の経済学	同上
	7	枯渇生資源の経済学	前半の復習
	8	中間まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検
	9	地域資源の特性と活用	当日内容の復習と次回の予習
	10	地域資源の再評価	同上
	11	観光資源の開発と活用	同上
	12	観光資源の評価（1）	同上
	13	観光資源の評価（2）	同上
14	観光資源の評価（3）	当日内容の復習	
15	まとめと復習	後半の復習	
16	期末テスト	期末テスト結果の点検	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。		
学びの手立て	①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②PC教室で講義を行うため、講義中に講義内容と無関係なこと（スマートフォンの操作、講義内容と無関係なサイトの閲覧など）を行った場合は減点となる。		
評価	平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境資源経済論Ⅰ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ITの急速な発展を背景として、企業におけるIT活用の高度化はとどまることを知りません。次々と出現する技術あるいはコンセプトにより、この傾向はさらに加速度的に進行するものと思われます。本講義では、企業経営におけるITの役割に着目し、その段階的な進歩過程と各フェイズにおける企業サイドからのITへの期待の変容などを論理的考察しながらより定性的な理解を目指します。	情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く講義、演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。
到達目標	① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 情報の特質と価値 2週目 情報技術の進化 3週目 通信ネットワーク技術の進化 4週目 セキュリティシステムと暗号化技術 5週目 インターネットと企業 6週目 ケーススタディー（1）：情報化の歴史 7週目 情報の産業化：情報産業の発展 8週目 企業の情報化：企業における情報技術の活用 9週目 情報技術と競争優位の戦略① 10週目 情報技術と競争優位の戦略② 11週目 知的財産権と競争優位 12週目 ケーススタディー（2）：特許権と競争優位 13週目 ケーススタディー（3）：著作権と競争優位 14週目 デファクト・スタンダードと競争優位 15週目 ケーススタディー（4）：デファクト・スタンダード 16週目 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。
	学びの手立て ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解消してください。
評価	成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(20点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「企業情報論Ⅱ」の受講を推奨します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ITの発展は企業の高度情報化を促し、その構造を根本的に変革する重要なファクターとなっている。本講義では、企業情報論Ⅰで取り上げた企業と情報技術の多層的な関係を十分に理解したとの前提に基づき、企業における情報システムのマネジメントに着目し、様々なビジネスモデルにおける競争戦略上の優位性について解説する。また近年注目されているCGMなどについても取り上げる。	情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く講義、演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。
到達目標	① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 経営情報システムの進化 2週目 情報システムマネジメントの原理① 3週目 情報システムマネジメントの原理② 4週目 情報システムのマネジメントモデル 5週目 ITマネジメントとアウトソーシング 6週目 通信ネットワークを活用したアウトソーシング 7週目 ケーススタディ(1)：アウトソーシング 8週目 中小企業の情報システム 9週目 ECの現状 10週目 ケーススタディ(2)：EC向けASP 11週目 ECにおける法的課題 12週目 ビジネスモデル特許 13週目 遠隔地域における情報技術の戦略的活用 14週目 ロジスティックシステムとSCM 15週目 ケーススタディ(3)：物流の情報化 16週目 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。
	学びの手立て ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解消してください。
評価	成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(20点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「卒業論文演習Ⅰ」そして「卒業論文演習Ⅱ」における卒業論文の作成に役立ててもらえればと考えます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業と産業財産権	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-有賀 俊二	3年	ptt637@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業で知的財産権担当として実践できる実務的な講座とする。 1) 知的財産権の魅力を掴む。 2) 商標・特許の調査の特許庁のHPで実践する。 3) 特許庁へ商標出願を実践する。	メッセージ 「下町ロケット」「陸王」など知的財産権問題が注目される近年、増々重要性を増す、特許・商標などの産業財産権の魅力を実践を通して十分に味わってもらい、オンリーワンを自ら創造し、沖縄から世界を目指す人材になってもらいたい。
	到達目標 情報化社会において、即戦力となる知財スキルを備えた人材を育成する。知財の実践的な知識、知財の発想力・創造力、知財の実践力・対応力などの育成、特許庁の特許・商標・意匠検索システムの活用スキルを習得し、特許庁への出願実践スキルを習得。県内トップクラスの知財担当者となることができる。	

学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	知的財産権制度の全体概要：アイデアが財産となるオンリーワンのための権利	
	3	企業の知的財産権活用事例から学ぶ	
	4	商標制度の概要：商標はマークのアイデア権	オリジナル商標の検討
	5	特許制度の概要：特許は全ての企業が取れる時代	同上
	6	実用新案制度の概要：特許とここが違う	オリジナル商標の提出
	7	意匠制度の概要：意匠はデザインのアイデア権	同上
	8	著作権、不正競争防止法と知的財産権のライバル関係	同上
学びの実践	9	商標情報検索実習：無料で誰でも検索できる特許庁が世界に誇るテクノロジー	オリジナル商標の先願検索
	10	商標情報分析、調査報告書の作成演習：商標検索から見えてくるもの	同上
	11	意匠・特許情報検索実習：無料で誰でも検索できる特許庁が世界に誇るテクノロジー	商標調査報告書の提出
	12	商標出願書類の作成演習 1：オンリーワンの商標を創造しよう	同上
	13	商標出願書類の作成演習 2：オンリーワンの商標権者になろう	商標出願書類の作成
	14	意匠出願書類の作成演習：オンリーワンのデザインを創造しよう	商標出願書類の提出
	15	簡単な特許出願書類の作成演習：オンリーワンのアイデアを創造しよう	同上
	16	知財トラブル事例：出願課題提出	同上
テキスト・参考文献・資料など 毎回、オリジナルの資料をMoodleで提供します。			
学びの手立て 講義の資料、課題提出、オリジナル商標レポートなどすべてMoodleで配布、提出となります。Moodleの取扱いは、サポートの学生が付く予定です。 実践的講義です。講義の知識を活かしてオリジナル商標を自分で考え、自分で調査し、実際に特許庁に提出できる書類を作成します。オンリーワンを自ら創造する実践です。実際に在学中に商標権者となり、特許庁のHPに登録されている学生もいます。			
評価 講義において、課題を4回程度出します。 期末試験に替え、以下のオリジナル商標の各レポートを順次提出してもらいます。 1) 商標エントリー票、 2) 調査報告書、 3) 商標出願書類 配点は、課題(30%)、商標エントリー票(20%)、調査報告書(25%)、商標出願書類(25%)とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義で実際に特許庁に出願できる商標出願書類を作成します。実際に特許庁に出願して実績を作り、この実績を就職活動に活かすことができます。また、就職後の企業内知財担当を担うことができます。近年商標出願は企業における必須戦略です。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	基本的に演習開始前にグループごとで30秒プレゼンテーションを行います。 Scratchのアカウントを作成してもらうので積極的に作品を公開して欲しい。
到達目標	1. PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。 2. スクラッチによるプログラミングができる。 3. 簡単なシステムの企画・開発ができる。 4. 自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	図書館ガイダンス	課題提出
	5	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	スクラッチの基本操作 (3) サウンド制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	スクラッチの基本操作 (4) 見た目の制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	スクラッチの基本操作 (5) 条件分岐	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	シューティングゲームの作成 (1) 基本システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	シューティングゲームの作成 (2) 総合システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	シューティングゲームの作成 (3) システムの拡張	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	個人製作によるゲームの企画	ゲームの企画・開発
	14	個人製作によるゲームの開発	ゲームの企画・開発
15	最終発表会 (第1グループ)	発表準備・相互評価	
16	最終発表会 (第2グループ)	発表準備・相互評価	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：石原正雄「スクラッチ2.0アイデアブック」カットシステム (2014) 参考文献 ・ミッチェル・レズニック、村井裕実子、阿部和広、伊藤穰一、ケン・ロビンソン「ライフロング・キンダーガートン 創造的思考力を育む4つの原則」日経BP社 (2018) ・杉浦学、阿部和広「Scratchではじめよう! プログラミング入門」日経BP社 (2015) ・中植正剛、太田和志、鴨谷真知子「Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社 (2015)

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通達する。</li> <li>・学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎(必修科目)が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。</li> </ul>
--------	---

評価	出席回数が3分の2未満は不可。演習時の課題、最終成果物の完成度、ならびに、学生相互の評価を加味し、総合的に行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習の後は、後期の基礎演習 IIにて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習 I、専門演習 II、卒業論文演習 I、卒業論文演習 IIへと連続するため、誠心誠意に取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1 年	ohi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。

到達目標
1. PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。 2. 認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 3. スクラッチによるプログラミングができる。 4. ミニゲームの企画・開発ができる。 5. 自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	配布資料の理解・課題の作成
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	配布資料の理解・課題の提出
	4	スクラッチの基本操作①－スプライトの動き	配布資料の理解・課題の作成
	5	スクラッチの基本操作②－制御命令	配布資料の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作③－サウンド制御	配布資料の理解・課題の作成
	7	スクラッチの基本操作④－見た目の制御	配布資料の理解・課題の提出
	8	スクラッチの基本操作⑤－条件分岐	配布資料の理解・課題の作成
	9	シューティングゲームの作成①	配布資料の理解・課題の提出
	10	シューティングゲームの作成②	配布資料の理解・課題の作成
	11	シューティングゲームの作成③	配布資料の理解・課題の提出
	12	個人製作によるゲームの企画・開発①	配布資料の理解・課題の作成
	13	個人製作によるゲームの企画・開発②	プレゼンテーションの準備
	14	最終発表会①	プレゼンテーションの準備
15	最終発表会②	プレゼンテーションの準備	
16	総括		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	・石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム ・阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社 資料は随時配布します。また参考文献等は講義時にて紹介します。

学びの手立て
・演習科目のため皆出席を原則とします。 ・実習を含む講義内容であるため、パソコン教室での講義となる。 ・学籍番号毎にクラスが割り当てられているため、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めません。 ・本演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要です。

評価
通常課題（合計50点満点）、最終課題（50点満点）をもとに以下のような評価を算定する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 本演習の後、後期の「基礎演習Ⅱ」にて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の「専門演習基礎」に臨むこととなります。またその後も必須科目である、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「卒業論文演習Ⅰ」、「卒業論文演習Ⅱ」へと関係するため、誠心誠意取り組んでもらいたいと考えます。

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	1 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。</p>	<p>プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。</li> <li>認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>スクラッチによるプログラミングができる。</li> <li>ミニゲームの企画・開発ができる。</li> <li>自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	配布資料の理解・課題の提出
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	配布資料の理解・課題の提出
	4	図書館オリエンテーション	課題の提出
	5	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き	教科書の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令	教科書の理解・課題の提出
	7	スクラッチの基本操作 (3) 相互プロジェクト	教科書の理解・課題の提出
	8	スクラッチの基本操作 (4) タイピングソフト	教科書の理解・課題の提出
	9	スクラッチの基本操作 (5) インベーダーゲーム	教科書の理解・課題の提出
	10	スクラッチの基本操作 (6) さんすうドリル	教科書の理解・課題の提出
	11	スクラッチの基本操作 (7) ネコ探偵物語	教科書の理解・課題の提出
	12	ゲーム制作 (1) 企画	課題の提出
	13	ゲーム制作 (2) 開発	課題の提出
	14	最終発表会 (1) 第1グループ	課題の提出
15	最終発表会 (2) 第2グループ	課題の提出	
16	総括		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石原正雄「スクラッチ2.0アイデアブック」カットシステム</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社</li> </ul>
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・ 実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・ 授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通達する。</li> <li>・ 学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。</li> <li>・ この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎(必修科目)が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>通常課題(合計50点満点)、最終課題(50点満点)および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。          (通常課題得点+最終課題得点) × (授業参加度)</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習の後は、後期の基礎演習Ⅱにて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと連携するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1 年	k. ooyama@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。</p>	<p>プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。</li> <li>認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>スクラッチによるプログラミングができる。</li> <li>ミニゲームの企画・開発ができる。</li> <li>自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	配布資料の理解・課題の提出
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	配布資料の理解・課題の提出
	4	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き	教科書の理解・課題の提出
	5	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令	教科書の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作 (3) サウンド制御	教科書の理解・課題の提出
	7	スクラッチの基本操作 (4) 見た目の制御	教科書の理解・課題の提出
	8	スクラッチの基本操作 (5) 条件分岐	教科書の理解・課題の提出
	9	シューティングゲームの作成 (1)	教科書の理解・課題の提出
	10	シューティングゲームの作成 (2)	教科書の理解・課題の提出
	11	シューティングゲームの作成 (3)	教科書の理解・課題の提出
	12	個人製作によるゲームの企画・開発 (1)	教科書の理解・課題の提出
	13	個人製作によるゲームの企画・開発 (2)	教科書の理解・課題の提出
	14	最終発表会 (1)	教科書の理解・課題の提出
15	最終発表会 (2)	教科書の理解・課題の提出	
16	総括		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義時に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム</li> <li>阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社</li> </ul>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・ 実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・ 授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通達する。</li> <li>・ 学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。</li> <li>・ この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎(必修科目)が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>通常課題(合計50点満点)、最終課題(50点満点)および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。</p> <p>(通常課題点数+最終課題点数) × (授業参加度)</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習の後は、後期の基礎演習Ⅱにて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	1年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代社会における経済統計情報を基に情報の収集、統計データの基本的な分析およびプレゼンテーションについて学ぶ。	メッセージ 現代社会においては、問題発見力、情報収集力、分析力などが求められています。基礎演習Ⅱでは、これらに関する基礎をしっかりと学んでください。
	到達目標 ①Wordによる文書作成、Excelによるデータ処理およびPowerPointによるプレゼンテーション原稿作成の基本技法の習得。 ②主にインターネットを用いて政府公表の情報や統計データを収集する技能の習得。 ③現代社会における経済産業に関わる基本概念の理解。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	Wordによる文書作成の応用演習
	3	Excelによる関数の応用演習（1）
	4	Excelによる関数の応用演習（2）
	5	人口に関する統計情報収集とデータ処理演習
	6	労働に関する統計情報収集とデータ処理演習
	7	物価に関する統計情報収集とデータ処理演習
	8	景気に関する統計情報収集とデータ処理演習
9	企業に関する統計情報収集とデータ処理演習	
10	家計に関する統計情報収集とデータ処理演習	
11	財政金融に関する統計情報収集とデータ処理演習	
12	国民経済に関する統計情報収集とデータ処理演習	
13	国際経済に関する統計情報収集とデータ処理演習	
14	プレゼンテーションの基本（1）	
15	プレゼンテーションの基本（2）	
16	総括	
		時間外学習の内容
		Wordの操作テクニックの練習
		Excelの操作テクニックの練習
		Excelの操作テクニックの練習
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		プレゼンテーション原稿作成
		ディスカッションの準備
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材プリントやPDFファイルを配布する。	
	学びの手立て ①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。 ②やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容を時間外で学習し、不明な点は質問する。 ③演習中に講義と関係ないこと（スマートフォンの操作、講義内容と無関係のサイトの閲覧など）を行った場合は減点となる。	
	評価 平常点（60%）、レポートの報告・提出（40%）。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎、ビジネス情報分析ⅠⅡ
-------	----------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Excelの表計算・グラフ作成をを自分で実行できるようになる。 国内総支出の考え方によって景気を観察する力を身につける。 経済が「働く、給料をもらう、買い物をする」世の中の仕組みであることを理解する。	メッセージ 初学者を対象にした実習です。 PCやインターネットを使った経済学の学習に興味を持つきっかけにしたいと思います。
	到達目標 Excelによる表計算、グラフ作成の結果を説明できる。 国内総支出・県内総支出のデータと式を使って景気を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	沖縄県と全国データの観察①	利用データのWebサイトを確認
	3	沖縄県と全国データの観察②	データの金額・規模を確認する
	4	沖縄県と全国データの観察③	経済の仕組みとデータを復習
	5	生産・分配・支出とデータ	生産・分配・支出について復習
	6	実物部門・金融部門とデータ	実物部門・金融部門について復習
	7	表計算とグラフ作成の基礎	Excelの入力を復習する
	8	国民経済計算・県民経済計算	Excelの表計算を復習する
9	GDPの観察:支出面①	設備投資の考え方・計算を復習	
10	GDPの観察:支出面②	政府支出の考え方・計算を復習	
11	対前年比の表計算とグラフ作成①	$Y=C+I+G+(EX-IM)$ の計算を復習	
12	対前年比の表計算とグラフ作成②	$Y=C+I+G+(EX-IM)$ の計算を理解	
13	経済成長率と寄与度①	寄与度の考え方・計算の復習	
14	経済成長率と寄与度②	寄与度の計算結果を理解する	
15	回帰分析の基礎	回帰分析の計算を復習する	
16	学習内容のまとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布する。 参考文献 [1]唐渡広志『44の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2013年。 [2]山本祐・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。		
	評価 提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：国内総支出・県内総支出について、Excelを利用した計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 PCやインターネットを使った経済学の学習を続けてもらいたい。 関連科目として、「産業情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「データ解析論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	1年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代社会における経済統計情報を基に情報の収集、統計データの基本的な分析およびプレゼンテーションについて学ぶ。	メッセージ 現代社会においては、問題発見力、情報収集力、分析力などが求められています。基礎演習Ⅱでは、これらに関する基礎をしっかりと学んでください。
	到達目標 ①Wordによる文書作成、Excelによるデータ処理およびPowerPointによるプレゼンテーション原稿作成の基本技法の習得。 ②主にインターネットを用いて政府公表の情報や統計データを収集する技能の習得。 ③現代社会における経済産業に関わる基本概念の理解。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	Wordによる文書作成の応用演習
	3	Excelによる関数の応用演習（1）
	4	Excelによる関数の応用演習（2）
	5	人口に関する統計情報収集とデータ処理演習
	6	労働に関する統計情報収集とデータ処理演習
	7	物価に関する統計情報収集とデータ処理演習
	8	景気に関する統計情報収集とデータ処理演習
9	企業に関する統計情報収集とデータ処理演習	
10	家計に関する統計情報収集とデータ処理演習	
11	財政金融に関する統計情報収集とデータ処理演習	
12	国民経済に関する統計情報収集とデータ処理演習	
13	国際経済に関する統計情報収集とデータ処理演習	
14	プレゼンテーションの基本（1）	
15	プレゼンテーションの基本（2）	
16	総括	
		時間外学習の内容
		Wordの操作テクニックの練習
		Excelの操作テクニックの練習
		Excelの操作テクニックの練習
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		プレゼンテーション原稿作成
		ディスカッションの準備
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材プリントやPDFファイルを配布する。	
	学びの手立て ①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。 ②やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容を時間外で学習し、不明な点は質問する。 ③演習中に講義と関係ないこと（スマートフォンの操作、講義内容と無関係のサイトの閲覧など）を行った場合は減点となる。	
	評価 平常点（60%）、レポートの報告・提出（40%）。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎、ビジネス情報分析ⅠⅡ
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新任	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎数学	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 数学への取り組み方を見なおす。具体的には、 ①解答を待たずに自分で計算する。 ②計算プロセスを省略せずに丁寧に記述する。 ③復習に利用できるノートを作成する。 の3つを実行する。	メッセージ 専門科目を受講するための基礎学力の養成が目的です。 また、本講義程度の計算力は、就職試験でも必要になります。頑張りましょう。
	到達目標 高校数学Ⅰ・Aの主な学習内容について、計算ミスなく解答できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済情報と数学：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	式と計算①	テキスト第6章問題A 1~3
	3	式と計算②	第3回練習問題(配布プリント)
	4	直線と1次関数	第4回練習問題(配布プリント)
	5	まとめと問題練習1	第5回配布プリントの復習
	6	2次関数と最大・最小①	第6回練習問題(配布プリント)
	7	2次関数と最大・最小②	第7回練習問題(配布プリント)
	8	2次関数と最大・最小③	第6・7回練習問題の復習
9	2次不等式	第9回練習問題(配布プリント)	
10	指数と対数、いろいろな関数	第10回練習問題(配布プリント)	
11	まとめと問題練習2	第11回配布プリントの復習	
12	個数の処理と確率①	第12回練習問題(配布プリント)	
13	個数の処理と確率②	第13回練習問題(配布プリント)	
14	個数の処理と確率③	第14回練習問題(配布プリント)	
15	まとめと問題練習3	第15回配布プリントの復習	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト [1]木村哲三・浦田健二『経済学を学ぶための基礎数学 第2版』同文館出版、2010年。 参考文献 [1]浅利一郎・山下隆之『はじめよう経済数学』日本評論社、2003年。 [2]尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学:高校数学からきちんと攻める』日本評論社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義中は自分のアタマと手を使って計算する。ノート記述だけでは理解につながらないので注意すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：基本計算から2次関数まで計算ミスなく解答できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎学力として、本講義程度の計算力は維持してもらいたい。 関連科目として、「経済原論Ⅰ・Ⅱ」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎数学	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	1年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ（情報）を作り出すことを情報処理という。本講義では情報処理に必要な基本的な知識を学ぶ。	メッセージ 本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。
	到達目標 専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	
	2	式と計算(i)	講義の復習および課題演習
	3	式と計算(ii)	講義の復習および課題演習
	4	関数(i)	講義の復習および課題演習
	5	関数(ii)	講義の復習および課題演習
	6	平面図形と式(i)	講義の復習および課題演習
	7	平面図形と式(ii)	講義の復習および課題演習
	8	方程式と不等式(i)	講義の復習および課題演習
	9	方程式と不等式(ii)	講義の復習および課題演習
	10	方程式と不等式(iii)	講義の復習および課題演習
	11	順列と組合せ(i)	講義の復習および課題演習
	12	順列と組合せ(ii)	講義の復習および課題演習
	13	確率(i)	講義の復習および課題演習
	14	確率(ii)	講義の復習および課題演習
	15	確率(iii)	講義の復習
	16	試験・総括	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・石村園子「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」共立出版 ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版		
	学びの手立て		
	「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価		
	試験結果（80%），課題レポート（20%）により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報数学」および「経済数学」がある。また、情報処理に関連する講義科目が関連科目となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融経済論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習内容が実生活の何処のことか常にイメージして受講する。 貯める立場・借りる立場で金融を考える。 経済学を使って金融を考える。	メッセージ 金融は「貯める・借りる」世の中の仕組みの事です。 「実生活に役立つ知識」として金融論を身につけるきっかけにしてください。
	到達目標 金融政策を自分の言葉で説明できる。 金融システムを自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	貨幣	マネーの定義を復習する。
	3	金利①	金利の重要概念を復習する。
	4	金利②	金利と債券価格を復習する。
	5	金融政策のためのマクロ経済学①	IS-LMモデルを復習する。
	6	金融政策のためのマクロ経済学②	金融政策の枠組みを復習する。
	7	金融政策の課題と日本銀行	日本の金融政策を復習する。
	8	金融政策の基本手段と新しい展開	非伝統的金融政策を復習する。
	9	金融システムと金融仲介機関の枠割	信用創造を復習する。
	10	銀行以外の金融機関	諸金融機関について復習する。
	11	金融システム安定化のための政策	ブルーデンス政策を復習する。
	12	金融機関の破綻への対応策	セーフティ・ネットを復習する。
	13	金融市場に関する規制	諸金融規制について復習する。
	14	間接金融型の金融商品	間接金融型の金融商品を復習する。
	15	直接金融型の金融商品	直接金融型の金融商品を復習する。
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。 参考文献 [1]家森信善『金融論』中央経済社、2016年。 [2]島村高嘉・中島真志『金融読本 第30版』東洋経済新報社、2017年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。	
	学びの手立て	履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 教材プリントの内容を理解するための解説を行う。講義中は集中して説明を聞き、ノート記述すること。	
	評価	期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：金融政策・ブルーデンス政策について説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済論が、「貯める・借りる」世の中の仕組みを説明する経済学の一分野であることを覚えてもらいたい。 関連科目として、「国際金融論」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「産業社会における情報化や国際化の進展」に対応できる英語力とコミュニケーション力を身につけることを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 グローバルオフィスコミュニケーション	期別 前期	曜日・時限 木 1	単位 2
	担当者 上原 千登勢	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ c. uehara@okiu. ac. jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい コミュニケーション力を重視しながら様々なビジネスシーンやシチュエーションに対応できる英語力を身につけることをねらいとする。またビジネスマナー、外国人対応、異文化の知識と理解を深めることを目指す。	メッセージ この授業ではできる限り“ENGLISH ONLY”の時間帯を設けるのでとにかく出来る限り英語だけで意思の疎通を試みてください！きっと自信と英語でコミュニケーションを取る楽しさが実感できると思います！See you in class! 【重要】受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。
	到達目標 ・ビジネス・オフィスを想定したシチュエーションで、英語でコミュニケーションが取れる。 ・英語を使わなければならない場面で自分なりに考え、行動できる。 ・英語で意思の疎通を図るために必要な学習方法や手段が身につく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance	Unit 1予習
	2	Unit 1: Jobs	Unit 1復習、Unit 2予習
	3	Unit 2: Products & Services	Unit 2復習、Unit 3予習
	4	Unit 3: Location	Unit 3復習、Unit 4予習
	5	Unit 4: Technology	Unit 4復習、Unit 5予習
	6	Unit 5: Communication	Unit 5復習、Unit 6予習
	7	Unit 6: Contacts	Unit 1-6復習
	8	Reveiw Units 1-6	Unit 7予習
	9	Unit 7: Departments	Unit 7復習、Unit 8予習
	10	Unit 8: Employment	Unit 8復習、Unit 9予習
	11	Unit 9: Competition	Unit 9復習、Unit 10予習
	12	Unit 10: Teamwork	Unit 10復習、Unit 11予習
	13	Unit 11: Travel	Unit 11復習、Unit 12予習
	14	Unit 12: Schedules	Unit 12復習、プレゼン準備
	15	Getting to know TOEIC(R) & Review Units 7-12	Unit 1-12復習
16	Final Examination 期末試験		

テキスト・参考文献・資料など  
Business Result Elementary Student Book Pack and DVD-ROM（朝野書房やアマゾンなどで購入可）  
その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。

学びの手立て  
・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。  
・私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。  
・ほぼ毎回クイズを行い、学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。学習目安は復習、予習ともに週1時間以上が望ましい。  
・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。

評価  
①授業態度、授業への参加・積極性（25%）②Self-Reflection/ Can-do（25%）③クイズ・小テスト（25%）④期末テスト（25%）を総合的に判断して評価する。  
また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。

次のステージ・関連科目  
より正確でプロフェッショナルな英語力を身につけるため英検やTOEIC(R)などの資格試験などにもチャレンジしてほしい。また異文化理解を深めるため国際理解課題研究I、IIなども積極的に受講してほしい。海外留学やのインターンシップなどにチャレンジし、積極的に英語でコミュニケーションを取る環境に身を置くと更にスキルアップできる。

※ポリシーとの関連性

「産業社会における情報化や国際化の進展」に伴い、グローバルな視点で物事を考え、意見や情報を発信できることを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバルメディアスタディーズ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	メディアを通して世界を知り、日本（沖縄）がどう世界から捉えられているかを知ることを目指す。また英語を用いて情報収集や情報発信を行う。	皆さんは海外の情報をどこから得ていますか？この授業ではテレビやネットなどのメディアを活用し、海外と日本（沖縄）を比較・分析していきます。楽しみながら世界のこと、日本のこと、そして沖縄のことをもっと知りましょう！See you in class! 【重要】受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を使用し、国内外の情報を収集できる。</li> <li>海外の情報を分析し、自分なりの見解を述べられる。</li> <li>英語を使い日本・沖縄の情報を海外に発信できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance	課題
	2	Education & Schools ①	課題・発表準備
	3	Education & Schools ②	課題・予習
	4	Entertainment ①	課題・発表準備
	5	Entertainment②	課題・予習
	6	Food ①	課題
	7	Food②	課題・発表準備
	8	Food ③	課題・予習
	9	Travel: World①	課題
	10	Travel: World②	課題・発表準備
	11	Travel: Japan①	課題
	12	Travel : Japan②	課題・発表準備
	13	Travel: Okinawa①	課題
	14	Travel: Okinawa②	課題・発表準備
15	Presentation Practice	発表準備	
16	Final Presentation		

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは特にないが、ビデオ、DVD、Youtubeなどを多く使用する。また自身で情報収集、クラスメートと情報共有を積極的に行って欲しい。

学びの手立て  
 ・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。  
 ・私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。  
 ・グループワークが多いので授業以外でも定期的集まれるような環境作りをし、メンバー同士で積極的にコミュニケーションを取ることを心がけること。欠席した際、授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。

評価  
 ①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection（25%）②個人課題（25%）③グループ課題（25%）④ Final Presentation（25%）を総合的に判断して評価する。  
 また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 日頃から海外の情報を積極的に取り入れ、より広い視野を持ち、グローバルなものの見方ができるようにして欲しい。国内の情報と比較し、共通点や相違点を分析し、その理由も理解・説明できると良い。更に国際理解課題研究I、IIも受講し、よりクリティカルに、グローバルに様々なトピックについて考えることができれば貴重な人材になれるだろう。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営科学	後期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業経営における最適戦略を模索する上で様々な科学的アプローチが提案されている。これらは第二次世界大戦中の軍事目的の取り組みが発端だと言われており、複雑化・多様化した現代社会においては合理的な判断は必須となっている。本講義では、経営に関する科学的アプローチについて紹介し議論する。	具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。

到達目標	企業における業務計画の科学的アプローチを理解する。
------	---------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	次回講義の予習
	2	線形計画法(i)	当該講義の演習/次回講義の予習
	3	線形計画法(ii)	当該講義の演習/次回講義の予習
	4	線形計画法(iii)	当該講義の演習/次回講義の予習
	5	日程計画とPERT(i)	当該講義の演習/次回講義の予習
	6	日程計画とPERT(ii)	当該講義の演習/次回講義の予習
	7	日程計画とPERT(iii)	当該講義の演習/次回講義の予習
	8	日程計画とPERT(iv)	当該講義の演習/次回講義の予習
	9	在庫管理(i)	当該講義の演習/次回講義の予習
	10	在庫管理(ii)	当該講義の演習/次回講義の予習
	11	在庫管理(iii)	当該講義の演習/次回講義の予習
	12	在庫管理(iv)	当該講義の演習/次回講義の予習
	13	待ち行列理論(i)	当該講義の演習/次回講義の予習
	14	待ち行列理論(ii)	当該講義の演習/次回講義の予習
	15	待ち行列理論(iii)	当該講義の演習
	16	試験・総括	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：未定（第一回目の講義で周知します）</p> <p>参考資料：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福田，児玉，中道「OR入門」多賀出版</li> <li>・ 大村平「ORの話」日科技連</li> </ul>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」</p> <p>初回講義を欠席した者は，仮登録を取り消すので注意すること。</p> <p>遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので，必ず取り組むこと。</p> <p>「学びを深めるために」</p> <p>指定テキストだけでなく，参考文献も適宜調べること。</p>
	<p>評価</p> <p>試験結果（80%），レポート（20%）により評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「知的情報処理」がある。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営ビジネス情報論 I	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新任教員	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論 I	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新任	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習内容が生活の何処のことかイメージできるようにする。 経済学の考える手順に慣れる。 現実の経済現象をどのように考えたらよいか、理解する。	メッセージ 初学者を対象にした講義です。 経済に興味を持つ、経済分野の学習を始める、きっかけにしても らいたいです。
	到達目標 買い手と売り手それぞれの考え方について自分の言葉で説明できる。 有効需要とマクロ経済政策について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済学とはどのような学問か：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	需要と供給①	テキスト第1章
	3	需要と供給②	テキスト第1章
	4	需要曲線と消費者行動①	テキスト第2章
	5	需要曲線と消費者行動②	テキスト第2章
	6	費用の構造と供給行動①	テキスト第3章
	7	費用の構造と供給行動②	テキスト第3章
	8	学習内容の復習1	テキスト第1～3章の演習問題
9	経済をマクロからとらえる①	テキスト第9章	
10	経済をマクロからとらえる②	テキスト第9章	
11	有効需要と乗数メカニズム①	テキスト第10章	
12	有効需要と乗数メカニズム②	テキスト第10章	
13	マクロ経済政策①	テキスト第12章	
14	マクロ経済政策②	テキスト第12章	
15	学習内容の復習2	テキスト第9・10・12章の演習問題	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト [1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社、2015年。 参考文献 [1]安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。 [2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義内容の要点をつかむためのプリントを毎回配布する。講義中は集中して説明を聞き、記述すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：買い手と売り手について経済学の考える手順で説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世の中の仕組みを説明するための道具として、経済学を身に付けてもらいたい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習内容が生活の何処のことかイメージできるようにする。 経済学の考える手順に慣れる。 現実の経済現象をどのように考えたらよいか、理解する。	メッセージ 初学者を対象にした講義です。 経済に興味を持つ、経済分野の学習を始める、きっかけにしてみたいです。
	到達目標 資源配分の視点で市場の諸問題を自分の言葉で説明する。 マクロ経済の諸問題を自分の言葉で説明する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済学について：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	市場取引と資源配分①	テキスト第4章
	3	市場取引と資源配分②	テキスト第4章
	4	独占と競争の理論①	テキスト第5章
	5	独占と競争の理論②	テキスト第5章
	6	市場の失敗①	テキスト第6章
	7	市場の失敗②	テキスト第6章
	8	学習内容の復習1	テキスト第4～6章の演習問題
9	貨幣の機能①	テキスト第11章	
10	貨幣の機能②	テキスト第11章	
11	インフレ・デフレと失業①	テキスト第13章	
12	インフレ・デフレと失業②	テキスト第13章	
13	経済成長と経済発展①	テキスト第15章	
14	経済成長と経済発展②	テキスト第15章	
15	学習内容の復習2	テキスト第11・13・15章の演習問題	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト [1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社、2015年。 参考文献 [1]安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。 [2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義内容の要点をつかむためのプリントを毎回配布する。講義中は集中して説明を聞き、記述すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：買い手と売り手について経済学の考える手順で説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世の中の仕組みを説明するための道具として、経済学を身に付けてもらいたい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 公式の計算を着実に実行する。 解答に到達するために必要な基本計算をミスなく実行する。 経済学で利用する数学がどの様なものか、大まかに理解する。	メッセージ 2年次以降の専門科目を学習する準備がねらいです。 数学の得意・不得意よりも、講義内容をコツコツ復習計算する学びの態度がポイントです。
	到達目標 偏微分と線形代数の基本内容について、計算ミスなく解答できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済情報と数学：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	微分の基本計算	第2回練習問題(プリント配布)
	3	微分の公式と計算①	第3・4回練習問題(プリント配布)
	4	微分の公式と計算②	第3・4回練習問題(プリント配布)
	5	1変数関数の極大・極小	第5回練習問題(プリント配布)
	6	偏微分と全微分①	第6回練習問題(プリント配布)
	7	偏微分と全微分②	第7回練習問題(プリント配布)
	8	偏微分と全微分③	第8回練習問題(プリント配布)
	9	まとめと問題練習1	第9回配布プリントの復習
	10	線形代数の基礎①	第10回練習問題(プリント配布)
	11	線形代数の基礎②	第11回練習問題(プリント配布)
	12	行列式と固有値①	第12回練習問題(プリント配布)
	13	行列式と固有値②	第13回練習問題(プリント配布)
	14	行列式と固有値③	第14回練習問題(プリント配布)
15	まとめと問題練習2	第15回配布プリントの復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。 参考文献 [1] 浅利一郎・山下隆之『はじめよう経済数学』日本評論社、2003年。 [2] 尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学:高校数学からきちんと攻める』日本評論社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義中は自分のアタマと手を使って計算する。ノート記述だけでは理解につながらないので注意すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：微分の基本計算から偏微分まで計算ミスなく解答できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の学習を、経済学の様々な分野を学ぶきっかけにしてもらいたい。 関連科目として、「経済原論Ⅰ・Ⅱ」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゲーム開発演習	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	E-mail: k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい コンピュータの発達と共に高度な表現が可能となった現在、ゲーム開発技術の習得および関連する分野への応用など社会における重要性が高まっている。本演習では、EPIC Games社のUnreal Engineを用いてゲーム開発を行い、その機能と役割について学び、技術の習得を目指す。	メッセージ ゲーム開発を通して開発技術を習得し、技術や手法を応用した創造力や問題解決力について学ぶ。また、演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組んでほしい。
	到達目標 ・ゲーム開発に関する基本的な概念と役割について理解し、演習を通して総合的な技術を習得する。 ・ゲーム開発を通して創造力を身に付け、関連分野および社会への応用について学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ゲーム概論	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (1) デジタル技術	基本概念の理解及び講義の復習
	4	表現と技術史 (2) プラットフォーム	基本概念の理解及び講義の復習
	5	基本操作と概要	基本概念の理解及び講義の復習
	6	システム構築の基礎技術	基本概念の理解及び講義の復習
	7	プロトタイピング	基本概念の理解及び講義の復習
	8	アニメーションの実装	基本概念の理解及び講義の復習
	9	ルールの実装	基本概念の理解及び講義の復習
	10	AIの実装	基本概念の理解及び講義の復習
	11	応用課題	基本概念の理解・課題
	12	ゲーム開発演習 (1) 企画	基本概念の理解・課題
	13	ゲーム開発演習 (2) プロトタイプ	基本概念の理解・課題
	14	ゲーム開発演習 (3) 実装	基本概念の理解・課題
15	ゲーム開発演習 (4) 検証	基本概念の理解・課題	
16	統括		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。 参考書：「作れる！学べる！ Unreal Engine4 ゲーム開発入門」荒川巧也 著、翔泳社、「Unreal Engine 4で極めるゲーム開発」湊 和久 著、株式会社ボーンデジタル		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。		
	評価 授業参加度（20%）及び講義内での通常課題（20%）、最終課題（60%）を総合的に評価する。 総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：3DCGアニメーション演習、コンテンツマネジメント論、UIデザイン概論
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際金融論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 自国と他国のお金(通貨)の交換比率、外国為替レートが実生活の何処と関わって決定するのか、常にイメージして受講する。 外国為替レートの決定理論と円/ドルレートの実際を比較する。	メッセージ 国際金融論では、外国為替レートが決定する仕組みを主に学習します。 「実生活に役立つ知識」として国際金融論を身につけるきっかけにしてください。
	到達目標 外国為替レートの決定理論を自分の言葉で説明できる。 外国為替レート動向の実際と為替介入について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	為替レートの変動	為替レートの基本概念を復習する。
3	為替レートと経済活動	復習：純輸出と貯蓄超過・財政黒字	
4	外国為替市場とは？	外国為替取引の種類を復習する。	
5	為替制度と金融政策	復習：固定・変動相場と金融政策	
6	長期の為替レート決定理論：購買力平価	絶対的PPPと相対的PPPを復習する。	
7	購買力平価と円ドルレート	ビッグマックPPPを復習する。	
8	短期の為替レート決定理論：金利平価	復習：カバー付き・なし金利平価	
9	金利平価モデル化成り立たない理由は？	先物プレミアム・パズルの復習。	
10	マネタリー・アプローチと為替レート	マネタリー・アプローチの復習。	
11	金融緩和政策と為替レート	復習：為替レート決定式と実際	
12	超短期の為替レート変動①：効率的市場	効率的市場を復習する。	
13	超短期の為替レート変動②：マイクロストラクチャー	マイクロストラクチャーの復習。	
14	為替介入の仕組み	為替介入の効果経路の復習。	
15	日本の通貨当局の為替介入	復習：日本の通貨当局の為替介入	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。 参考文献 [1]永易淳・江坂太郎・吉田裕司『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣、2015年。 [2]清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融：理論から実践まで』日本評論社、2016年。 [3]小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 教材プリントの内容を理解するための解説を行う。講義中は集中して説明を聞き、ノート記述すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：長期・短期・超短期の外国為替レート決定理論について説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際金融論が、外国為替レート(例えば円/ドルレート)に関わる世の中の仕組みを説明する、経済学の一分野であることを覚えてもらいたい。 関連科目として、「応用マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得する。	講義内容について不明な点があったら、積極的に質問し理解に努めてほしい。

到達目標
①国際経済学の基礎的理論を習得する。 ②国際貿易と経済発展との関係を理解する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際経済学とは何か	
	2	国際経済の動き	当日内容の復習と次回の予習
	3	国際貿易の基礎理論（自由貿易の利益）	同上
	4	国際貿易の基礎理論（リカード・モデル）	同上
	5	国際貿易の基礎理論（ヘクシャー＝オーリン・モデル）	同上
	6	新しい国際貿易の理論	前半の復習
	7	まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検
	8	貿易政策	当日内容の復習と次回の予習
	9	貿易と経済発展	同上
	10	生産要素の国際移動	同上
	11	国民所得と国際収支	同上
	12	為替レート	同上
	13	アジアの経済発展	同上
14	中国の経済発展	当日内容の復習	
15	まとめと復習	後半の復習	
16	期末テスト	期末テスト結果の点検	
テキスト・参考文献・資料など			
テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。 参考図書：澤田康幸『基礎コース国際経済学』新世社、井川一宏ほか『基礎 国際経済学』中央経済社、上野秀夫ほか『国際経済学』ミネルバ書房など。			
学びの手立て			
①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と無関係なこと（私語、スマートフォンの操作など）を行った場合は減点となる。			
評価			
平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジアビジネス事情、アジア経済論など
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、コンテンツマネジメントについて学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンテンツマネジメント論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	E-mail: k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、コンテンツ制作における技術やメディア、運営、法制度等の仕組みや構造について学び、マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。また、ウェブサイト構築における規格や言語、情報の視覚化、著作権問題、運営等を総合的に学ぶ。	メッセージ コンテンツ制作における技術や運営、法制度等の産業別の仕組みや構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な総合的な知識を習得してほしい。
	到達目標 ・コンテンツ制作に関する技術や構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	コンテンツマネジメント概要	基本概念の理解
	3	メディアと技術 (1) Web・モバイル	講義の予習・復習
	4	メディアと技術 (2) 放送	講義の予習・復習
	5	デジタルコンテンツ (1) コンテンツ振興	講義の予習・復習
	6	デジタルコンテンツ (2) 業界構造	講義の予習・復習
	7	インターネットとコンテンツ	講義の予習・復習
	8	コンテンツの権利と法制度	講義の予習・復習
9	コンテンツとデジタル技術 (1) ゲーム	講義の予習・復習	
10	コンテンツとデジタル技術 (2) 動画像	講義の予習・復習	
11	コンテンツとデジタル技術 (3) アーカイブ	講義の予習・復習	
12	企画とプロセス	講義の予習・復習	
13	制作と進行	講義の予習・復習	
14	事例 (1) マネジメント	講義の予習・復習	
15	事例 (2) 環境と人材	講義の予習・復習	
16	統括		
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。		
	学びの手立て 欠席した場合は、必ず欠席届を提出すること。 資料、参考書等をもとに講義を進めるため、講義内容を理解するためのノート記述を行うこと。		
	評価 講義内で定期試験を実施 (80%)、授業への参加度 (20%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、情報リテラシー演習、UIデザイン概論、ゲーム開発演習
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	最適化概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、組合せ最適化問題について、我々の身近なところに現れる具体例を用いて学ぶことをねらいとしている。	メッセージ 実社会で役立つ、ゲーム理論や工学の分野の最適化問題とそれを解決するためのいくつかの手法を学びます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 ゲーム理論における各種解法の習得と組合せ最適化における実社会の問題の解法を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	組合せ最適化についてのあらし	授業共有ファイル その1
	2	線形計画法を用いた組合せ最適化 I	授業共有ファイル その2
	3	線形計画法を用いた組合せ最適化 II	授業共有ファイル その3
	4	ゲーム理論 I (囚人のジレンマゲーム・支配戦略均衡点)	授業共有ファイル その4
	5	ゲーム理論 II (パレート最適、交渉ゲーム)	授業共有ファイル その5
	6	ゲーム理論 III (ミニマックスゲーム、ナッシュ解)	授業共有ファイル その6
	7	ゲーム理論 III (シャープレイ値、コア)	授業共有ファイル その7
	8	工学における組合せ最適化問題について	授業共有ファイル その8
	9	割り当て問題	授業共有ファイル その9
	10	ナップザック問題	授業共有ファイル その10
	11	2次割り当て問題	授業共有ファイル その11
	12	多角形詰め込み問題	授業共有ファイル その12
	13	最適解と局所解、組合せ問題の難しさ (厳密解法と近似解法)	授業共有ファイル その13
	14	進化計算手法による組合せ問題の解法 I	授業共有ファイル その14
15	進化計算手法による組合せ問題の解法 II	授業共有ファイル その15	
16	テスト	授業共有ファイル その1~15	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定は、ありません。 必要な資料は、pdf形式かパワーポイント形式でポータル授業共有ファイルにアップロードしますのでダウンロードして、テキストとしてください。		
	学びの手立て 毎時間、授業共有ファイルにアップロードされる電子ファイルを参照すること。		
	評価 出席：規定通り。 試験：規定通り。 提出物：1~2回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例：おしゃべり等)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎。専門演習。卒業論文演習。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅱ（経営と情報）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠山 光一郎	2年	授業終了後、教室又はemail(toyama.sin@gmail.com)にて	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	グローバル化が加速する中、沖縄においても各業種各分野でのビジネスもグローバル化が進んでいる。沖縄と繋がり深いアセアン諸国の基礎的内容を学び、各分野で進むグローバル化に対応する基礎知識を構築する。	一口にアセアンと言っても、多民族、多宗教構成、経済格差があり、各国に特徴がある。本講義では広く、各国、各分野の基礎的内容を学び、各分野で外国人、海外企業とのコミュニケーションに必要な相手のバックグラウンドの理解、グローバル人材育成の基礎的部分を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アセアン各国の基礎的部分が理解できる</li> <li>○アセアン各国の違いについて説明できる</li> <li>○留学、就職時の目標設定時に役立つ</li> <li>○アセアン、グローバル化の今を実感出来き時事事情がより理解できる</li> <li>○各分野を学ぶので、専門以外でも知識が付き柔軟な対応を将来可能となる</li> <li>○各分野でグローバル化が進んでおり、将来必要なアドバンテージ知識が得られる</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス&アセアンとは	インターネット活用し授業内容予習
	2	アセアンの歴史、文化、宗教	インターネット活用し授業内容予習
	3	アセアンの政治、経済体制	インターネット活用し授業内容予習
	4	アセアンの財閥、ビジネス状況	インターネット活用し授業内容予習
	5	アセアンのIT、インフラ	インターネット活用し授業内容予習
	6	アセアンの若者文化、芸能	インターネット活用し授業内容予習
	7	ケーススタディー（シンガポール）	インターネット活用し授業内容予習
8	ケーススタディー（ベトナム）	インターネット活用し授業内容予習	
9	グループプロジェクト1（グループごとにテーマを決めて発表準備）	プロジェクト準備	
10	グループプロジェクト2（グループごとに発表）	プロジェクト準備	
11	日系企業のアセアン展開	インターネット活用し授業内容予習	
12	沖縄県のアセアン展開1	インターネット活用し授業内容予習	
13	沖縄県のアセアン展開2	インターネット活用し授業内容予習	
14	沖縄県のアセアン展開3	インターネット活用し授業内容予習	
15	テスト（筆記、論文）		
16	全体総括		
テキスト・参考文献・資料など	特に教科書は指定しない。		
学びの手立て	授業内容の予習は文献にくわえ、インターネットを活用し事前に内容テーマを検索し、いろいろな基礎知識をつけておくこと。		
評価	テスト形式（50%）、グループプロジェクト（40%）、受講態度（10%）での総合計点で評価することを予定している。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)関連科目 グローバルオフィスコミュニケーション、グローバルメディアスタディーズ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱ、経営ビジネス情報論Ⅰ・Ⅱ、アジア経済論</p> <p>(2)次のステージ グローバル化は様々な内容で身近なものとなる。受講終了後はそれぞれの進路に合わせて各自学習し、同時によりわかりやすくなった時事問題について考える時間をそれぞれ持ち専門性を高めてほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅳ（産業と情報）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	丸茂俊彦 大田原準	2年		

学びの準備	ねらい この講義では、日本企業（主に金融業と製造業）を取り巻く経営課題を発見し、その対応策について自ら考え解決できる能力を養うことを目的として、日本企業の競争力と経営課題について講義します。講義前半では、日本の金融システムの特徴、金融業の競争力、金融技術革新と経営課題について、講義後半では、製造業の競争力分析、競争優位企業の事例研究を中心に講義します。	メッセージ 金融業や製造業に関する時事問題を授業の中で適宜紹介し、学生の学習意欲を高めるような授業を行います。
	到達目標 金融や企業の仕組みに関する基本知識を習得し、それらの知識を用いて日本企業が現実に直面する諸問題の本質を理解できるようになる。具体的には、新聞やニュースなどで日々取り上げられる金融や企業の経済活動と課題について、その背景や本質を正しく理解し、適切な解決策を講じることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>はじめに－日本の金融業・製造業の競争力</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>金融業の競争力分析1：銀行と間接金融システム</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>金融業の競争力分析2：証券会社と直接金融システム</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>金融業の事例研究：決済システム</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>金融業の事例研究：地域金融</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>金融技術革新の波及1：デリバティブと証券化</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>金融技術革新の波及2：フィンテック</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>講義前半のまとめと小テスト</td><td>1～7回目の講義ノートを復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>製造業の競争力分析1：競争力の3層構造</td><td>事前配布の講義レジュメを予習復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>製造業の競争力分析2：組織能力と進化能力</td><td>事前配布の講義ノートの予習復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>競争優位企業の事例研究1：トヨタとホンダの事例</td><td>事前配布の講義レジュメを予習復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>競争優位企業の事例研究2：P&amp;Gとネスレの事例</td><td>事前配布の講義レジュメを予習復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>技術経営の波及1：サウスウェスト航空の競争優位</td><td>事前配布の講義レジュメを予習復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>技術経営の波及2：三重県型パブリックマネジメントの事例</td><td>事前配布の講義レジュメを予習復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>講義後半のまとめと小テスト</td><td>9～15回目の講義ノートを復習</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td>すべての講義ノートを復習</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	はじめに－日本の金融業・製造業の競争力	事前配布の講義ノートの予習復習	2	金融業の競争力分析1：銀行と間接金融システム	事前配布の講義ノートの予習復習	3	金融業の競争力分析2：証券会社と直接金融システム	事前配布の講義ノートの予習復習	4	金融業の事例研究：決済システム	事前配布の講義ノートの予習復習	5	金融業の事例研究：地域金融	事前配布の講義ノートの予習復習	6	金融技術革新の波及1：デリバティブと証券化	事前配布の講義ノートの予習復習	7	金融技術革新の波及2：フィンテック	事前配布の講義ノートの予習復習	8	講義前半のまとめと小テスト	1～7回目の講義ノートを復習	9	製造業の競争力分析1：競争力の3層構造	事前配布の講義レジュメを予習復習	10	製造業の競争力分析2：組織能力と進化能力	事前配布の講義ノートの予習復習	11	競争優位企業の事例研究1：トヨタとホンダの事例	事前配布の講義レジュメを予習復習	12	競争優位企業の事例研究2：P&Gとネスレの事例	事前配布の講義レジュメを予習復習	13	技術経営の波及1：サウスウェスト航空の競争優位	事前配布の講義レジュメを予習復習	14	技術経営の波及2：三重県型パブリックマネジメントの事例	事前配布の講義レジュメを予習復習	15	講義後半のまとめと小テスト	9～15回目の講義ノートを復習	16	期末試験	すべての講義ノートを復習	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	はじめに－日本の金融業・製造業の競争力	事前配布の講義ノートの予習復習																																																		
2	金融業の競争力分析1：銀行と間接金融システム	事前配布の講義ノートの予習復習																																																			
3	金融業の競争力分析2：証券会社と直接金融システム	事前配布の講義ノートの予習復習																																																			
4	金融業の事例研究：決済システム	事前配布の講義ノートの予習復習																																																			
5	金融業の事例研究：地域金融	事前配布の講義ノートの予習復習																																																			
6	金融技術革新の波及1：デリバティブと証券化	事前配布の講義ノートの予習復習																																																			
7	金融技術革新の波及2：フィンテック	事前配布の講義ノートの予習復習																																																			
8	講義前半のまとめと小テスト	1～7回目の講義ノートを復習																																																			
9	製造業の競争力分析1：競争力の3層構造	事前配布の講義レジュメを予習復習																																																			
10	製造業の競争力分析2：組織能力と進化能力	事前配布の講義ノートの予習復習																																																			
11	競争優位企業の事例研究1：トヨタとホンダの事例	事前配布の講義レジュメを予習復習																																																			
12	競争優位企業の事例研究2：P&Gとネスレの事例	事前配布の講義レジュメを予習復習																																																			
13	技術経営の波及1：サウスウェスト航空の競争優位	事前配布の講義レジュメを予習復習																																																			
14	技術経営の波及2：三重県型パブリックマネジメントの事例	事前配布の講義レジュメを予習復習																																																			
15	講義後半のまとめと小テスト	9～15回目の講義ノートを復習																																																			
16	期末試験	すべての講義ノートを復習																																																			
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。 参考者は、金融と経営について下記図書を1冊ずつ指定します。 植田宏文・丸茂俊彦・五百旗頭真吾『エッセンシャル金融論』中央経済社、2015年。 藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、2003年 講義ノートおよび講義資料は、電子媒体またはコピーにしたものを講義前に配布します。																																																				
	学びの手立て ①「履修の心構え」授業は講義形式で行うが、毎回出席するようにしてください。 ②「学を深めるために」金融業や製造業などの企業システムを学ぶ上で、理論と現実制度の双方を理解することが大切です。日頃から新聞やニュースなどに触れ、金融問題や企業問題に関心を持つように心がけてください。																																																				
	評価 評価方法：期末試験80%、小テスト20% 評価基準：講義で説明する用語や基礎概念を正しく理解できているかを問います。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融論や企業論に関連した他の授業やゼミナールを受講し、日本の金融業や製造業が直面する経営課題についてより深く学ぶ努力を継続してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報論	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、情報通信技術の産業分野における活用、産業構造や産業の仕組みに与える影響などの理解の上に、この情報化を支える情報通信や情報サービス等の情報産業の構造、技術動向、人材ニーズについて学ぶ。また情報化の進展に伴い重要性が増してきた情報モラルとプライバシー保護、知的所有権、セキュリティ管理等、産業の情報化及び情報の産業化に伴う動向等についても概説する。</p>	<p>情報技術の基本的な理解の上に、産業そして社会におけるその活用を学ぶ本講義は、続く講義、演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。</p>
到達目標	<p>① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。                  ② 情報通信技術や情報システムが産業に与える影響を理解する。                  ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。                  ④ 情報モラル、プライバシー保護、知的所有権などの情報リテラシーを習得する。                  ⑤ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業情報論で何を学ぶ	配布資料を読み、出席すること。
	2	情報についての基本的理解①－分類と特性	配布資料を読み、出席すること。
	3	情報についての基本的理解②－経営資源と情報	配布資料を読み、出席すること。
	4	情報化の進展と社会そして産業との関わり	配布資料を読み、出席すること。
	5	卸・小売・物流業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	6	金融・サービス業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	7	製造・建設業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
8	情報産業の発展と社会①－情報産業の構造と市場	配布資料を熟読してもらいたい。	
9	情報産業の発展と社会②－情報産業の技術と人材	配布資料を熟読してもらいたい。	
10	身近な事例研究①－コンテンツ産業	日常を情報技術から考える。	
11	身近な事例研究②－外食産業	日常を情報技術から考える。	
12	身近な事例研究③－アパレル産業	日常を情報技術から考える。	
13	情報化基盤と新技術の開発動向	配布資料を読み、出席すること。	
14	情報化基盤と周辺環境の変化	配布資料を読み、出席すること。	
15	情報化基盤と新たなビジネスモデル	配布資料を読み、出席すること。	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。                  ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。                  ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。                  ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解消してください。</p>		
評価	<p>学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(20点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習において習得した、情報技術そして社会・産業・生活への活用といった基本的理解の展開として、2年次より履修が可能となる、「ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「経営科学」、「情報と職業」の受講を推奨します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業ネットワーク論	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當銘 栄一	3年	ptt467@okiu.ac.jp (電子メール)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、あらゆる事例や各種データを用いた演習などを通して、経済学の専的な視点からの物事を捉える力(専門性)を確保すること、さらにビジネスシーンで求められる自律性や問題解決力の向上を目的としている。	目まぐるしく変化する経済社会の中において、将来的にどのような職種に就くにしても専門的な見地からの説明力(客観性)、自律性や問題解決力(実行力)は必須条件となっている。本講義を通して、あらゆる情報を自分なりに読み解き、分析する力などを養ってほしい。

到達目標
①専門性の確保：各種データ分析などから今起きていることを自ら整理し、それらを読み解くことで地域経済の個性(産業構造など)を読み解けるようにしたい。さらに、地域経済の個性を牽引するものは何なのか、当該産業のみならずそれらを取り巻く環境(他者とのつながり)を踏まえたマクロ的な視点での分析力を身につけることができるようにしたい。②自律性と問題解決力の向上：講義で毎回行う予定の演習などを通して、先述①の視点を踏まえた上で自らの考えをまとめながらアウトプットし、ビジネスシーンで求められる客観的な視点での提案力を培うことができるようにしたい。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域経済の個性とは①(県内産業を取り巻く環境)	
	2	地域経済の個性とは②(本県における産業構造の把握など)	
	3	産業ネットワークの視点からみた本県の経済構造①(産業間の取引構造を知る)	
	4	産業ネットワークの視点からみた本県の経済構造②(産業連関分析)	
	5	小テスト①(本県における産業構造の特徴とは?)	
	6	産業ネットワーク強化による持続的な経済発展を考える(産業まつりの事例)	
	7	産業ネットワークと景気動向(つながるメリットとデメリット)	
	8	地域をよくするために必要なこと①(産業ネットワークを見える化する)	
	9	地域をよくするために必要なこと②(外から稼ぐ産業と内で稼ぐ産業)	
	10	小テスト②(持続的な経済発展にむけて必要なこととは?)	
	11	事例研究(台頭するシェアリング・エコノミーと沖縄経済)	
	12	事例研究(外で稼ぐ産業とは)	
	13	事例研究(内で稼ぐ産業とは)	
	14	本県にとって必要な産業政策とは(試案プランニング)	
15	本県にとって必要な産業政策とは(まとめと総復習)		
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。講義時に必要な資料やデータを提供する。。
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義内容は積み上げ方式で進行するので、なるべく休まないこと。(欠席する場合は翌週までに欠席届と添付資料を提出すること)</li> <li>講義中の私語は厳禁とする。</li> </ul>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価配分：期末試験70%、講義への参加度30%</li> <li>評価基準：毎回の演習や定期的なテストにおいて、講義内容をベースとして客観性を踏まえた上で自らの考えが述べられているか、受講態度(講義への参加や熱意)などを評価する。</li> </ul>
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文や各種レポート作成時に、本講義で習得した手法や考え方などを活かしてほしい
-------	---



科目基本情報	科目名 産業連関論	期別	曜日・時限	単位
	担当者 田口 順等	前期	木 3	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい 「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場する言葉であるが、これらの計算には産業連関表を用いられている。産業連関表を用いた分析である産業連関分析は、経済波及効果に限らずさまざまな分析に用いられる有用な手法である。この講義では、産業連関表や産業連関分析を解説し、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、実習を行う。	メッセージ 産業連関分析や経済波及効果は分析手法の一つで卒論などで取り上げない限りは役に立たない知識かもしれません。Excelの操作や数学（特に行列の知識）やマクロ経済学といった様々な学問・知識を総動員して授業や課題に当たることは、問題解決能力を養い、将来形を変えて役に立ちます。ちょうどプロを目指さないのにスポーツをすることは無意味ではなく、体力・精神力を鍛えるように。
	到達目標 1. 産業連関表から経済の循環を知る。 マクロ経済学の知識を産業連関表に当てはめて理解しましょう。 2. 数学（特に行列の知識）、Excel操作を習得する。 行列やExcel操作で方程式や逆行列の計算方法を理解しましょう。 3. 経済波及効果を情報リテラシーを使って考察する。 経済波及効果の限界と問題点を知り、経済波及効果の実例を検証しましょう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要	
	2	産業連関分析の基本①：産業連関表について、基本取引表	マクロ経済学の復習
	3	産業連関分析の基本②：投入係数表、自給率など	Excelの操作と課題
	4	行列①：行列、逆行列の概念	数学（行列）の復習
	5	行列②：表計算ソフトによる計算	Excelの操作と課題
	6	産業連関分析の基本③：逆行列係数表	Excelの操作と課題
	7	産業連関分析の基本④：付帯表	Excelの操作と課題
	8	産業連関分析の応用①：経済波及効果	Excelの操作と課題
	9	直接効果の計算①：具体事例	事例の考察と課題
	10	直接効果の計算②：社会調査、アンケート調査など	事例の考察と課題
	11	産業連関分析の応用②：表計算ソフトによる計算	これまでの講義内容の復習
	12	産業連関分析の応用③：経済波及効果の計算	Excelの操作と課題
	13	産業連関分析の応用④：経済波及効果の事例分析	事例の考察と課題
	14	演習①：経済波及効果	これまでの講義内容の復習
	15	まとめ	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年 藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらくIO入門』日本評論社2005年 土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構えについて ・遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがあります。遅れず毎回出席してください ・授業内容は単独でその場限りではなく、その知識を積み重ねて授業内容は発展していきます。最初は簡単に思っても、徐々に習得した知識を前提にした授業になり、油断や欠席をすると理解できなくなってしまうので、欠席は極力せず、真摯に取り組んでください。 ・数学・特に行列の知識が必要で授業はこの分野を避けて通れません。またマクロ経済学の分野にも該当し、経済学基礎や情報数学を履修し、内容覚えていなければ理解できない部分があります。
-------	--

学びの実践	評価 平常点3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。 授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報数学・経済数学などの数学科目、情報処理基礎、経済学概論Ⅱ（マクロ経済学分野） 類似科目：産業連関の基礎、産業連関の応用（どちらも地域環境政策学科提供科目）
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	システム開発と情報化	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業と法務，経営戦略に関する基礎的な内容を修得する。	メッセージ 基本情報技術者試験の基礎理論，企業と法務，経営戦略の分野について学びます。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎理論としての応用数学等を理解し，説明できる</li> <li>・企業活動と法務について理解し，説明できる</li> <li>・経営戦略マネジメントについて理解し，説明できる</li> <li>・技術戦略マネジメントについて理解し，説明できる</li> <li>・ビジネスインダストリアルについて理解し，説明できる</li> </ul>	

学びの準備	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎理論としての応用数学等を理解し，説明できる</li> <li>・企業活動と法務について理解し，説明できる</li> <li>・経営戦略マネジメントについて理解し，説明できる</li> <li>・技術戦略マネジメントについて理解し，説明できる</li> <li>・ビジネスインダストリアルについて理解し，説明できる</li> </ul>
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・企業活動	当該講義の復習／次回講義の予習
	2	企業会計	当該講義の復習／次回講義の予習
	3	応用数学：集合・命題	当該講義の復習／次回講義の予習
	4	応用数学：確率・統計	当該講義の復習／次回講義の予習
	5	応用数学：待ち行列理論・グラフ理論	当該講義の復習／次回講義の予習
	6	OR（オペレーションズリサーチ）	当該講義の復習／次回講義の予習
	7	IE分析手法・QC手法	当該講義の復習／次回講義の予習
	8	業務分析	当該講義の復習／次回講義の予習
	9	知的財産権・セキュリティ関連法規	当該講義の復習／次回講義の予習
	10	法務と標準化	当該講義の復習／次回講義の予習
	11	経営戦略手法	当該講義の復習／次回講義の予習
	12	マーケティング・ビジネス戦略	当該講義の復習／次回講義の予習
	13	ビジネス戦略・技術開発戦略	当該講義の復習／次回講義の予習
	14	ビジネスシステム	当該講義の復習／次回講義の予習
	15	e-ビジネス	当該講義の復習
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ（2017） 参考書：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2017）
-------	---

学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので，必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく，参考文献も適宜調べること。
-------	--

学びの実践	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し，総合的に行う。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論，プログラミング理論，プログラミング I，データベース，情報処理システム論
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化社会と教育	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会と教育（初等、中等、高等）の関係を、多角的に捉える視野を育む。	メッセージ 情報技術の発展は、教育のあり方に対して大きな変化をもたらしています。まずは現状を整理し、そして今後も革新が進む情報技術を、教育にどのように活かしていくか、広い視野を持って考えていきましょう。
	到達目標 ・情報と教育との関係を説明できる ・教育における情報化社会の持つ意味と課題を説明できる ・メディア教育の持つ意味と課題を説明できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・情報と教育	ガイダンスの理解
	2	大学の授業改革と情報通信技術	復習・課題
	3	インターネット大学	復習・課題
	4	大規模公開オンライン授業	復習・課題
	5	情報化社会と高等教育の未来	復習・課題
	6	学校における児童・生徒を取り巻く情報化社会への対応	復習・課題
	7	情報化社会と小学校の授業の実際・学校の取り組み	復習・課題
	8	情報化社会と中学校の授業の実際・学校の取り組み	復習・課題
9	情報化社会と高等学校の授業の実際・学校の取り組み	復習・課題	
10	家庭・地域における児童・生徒をとりまく情報化社会への対応	復習・課題	
11	メディア・リテラシーの概要	復習・課題	
12	メディア教育の歴史的展開	復習・課題	
13	メディア教育の内容と方法	復習・課題	
14	学校教育におけるメディア教育	復習・課題	
15	メディア教育を支援する教材とガイド	復習・課題	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する 参考文献：「情報化社会と教育」放送大学教育振興会		
	学びの手立て ・自身の意見を述べるよう積極性を持つこと。 ・課題（締め切り厳守）を提出しない者には期末試験の受験を認めない。		
	評価 各課題（合計100点満点）および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。 (各課題得点) × (授業参加度)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育者を目指すものは、情報化社会と教育における世の情勢を捉えながらも、自身の考えを以て創意工夫を凝らした教育を志すように望む。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化と法	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-有賀 俊二	3年	ptt637@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>コンピュータ・ネットワークの急激な発達に伴って、法制度が追いついていない現状の中で、どのような問題がクリアできるのか、どのような情報を活用すべきなのかを自ら考える。</p>	<p>今やインターネットなくして企業は成り立たないといわれる今日、次代の情報化社会の中心を担う、君たち産業情報学部学生こそ、情報化に伴う様々な問題の適格な対応スキルを身に付け、沖縄から世界を目指す人材となってもらいたい。</p>
到達目標	<p>急激な発展に伴う情報化社会の様々な問題に対して、的確に対応できるスキルを身に付ける。</p> <p>1) 情報化における様々な法的問題の知識を習得する。 2) 情報化により発生する様々な問題への対応力を身に付ける。 3) 情報化戦略としての商標出願スキルを身に付ける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	情報化と法との関わり：情報が法で保護される理由？	課題1 予定
	3	情報化と知的財産権（1）：特許や商標とは？	オリジナル商標の検討
	4	情報化と知的財産権（2）：著作権とは？	課題2 予定
	5	コンピュータ・プログラムの法的保護：プログラムも著作権で保護？	オリジナル商標の検討
	6	表示の法的保護：商品名や商品のデザインの保護？	課題3 予定
	7	営業秘密の法的保護：企業の機密情報の保護？	オリジナル商標の検討
8	企業情報開示の問題：企業の営業情報の保護？	オリジナル商標の検索	
9	情報公開制度：行政の情報の保護？	課題4 予定	
10	個人情報保護：企業が入手する個人情報の保護？	オリジナル商標の検索	
11	電子商取引に関する問題：インターネット売買の保護？	オリジナル商標の検索	
12	製造物責任と情報提供：商品等の欠陥情報？	オリジナル商標の提出	
13	情報モラルとサイバー犯罪：ネット運営の責任？	オリジナル商標出願書類作成	
14	商標戦略：商標は企業を輝かせる？	オリジナル商標出願書類作成	
15	情報化と法的問題の事例：こんなことが実際に？	オリジナル商標出願書類作成	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回、オリジナルの資料をMoodleで提供します。</p>		
学びの手立て	<p>講義の資料、課題提出などすべてMoodleで配布、提出となります。 Moodleの取扱いは、サポートの学生が付く予定です。 事例を中心とし、実務的な講義です。一般的には知られていないが、産業情報技術を事業に活かすために、これだけは掴んでおきたい、掴んでおけば効果的に展開できるスキルです。オリジナル商標を考えます。</p>		
評価	<p>講義において、課題を4回程度出します。 課題提出（商標エントリーを含む）、期末試験を総合的に評価します。 配点は、課題（70%）、期末試験（30%）とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>特に知的財産権の中で商標に関しては、自分で考え、自分で調べ、自分で出願できるスキルが身につく、企業の知財担当者としてのスキルともなります。前記の「企業と産業財産権」の講義と連動しています。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ハードウェア、情報処理システム、ネットワークなど、情報処理技術の基礎的な内容を修得する。	メッセージ 2017年度以降の入学生は、上級情報処理士の資格取得、基本情報技術者試験 午前試験免除制度の適用に必要な科目です。 情報処理技術の基本を本講義では学ぶが、入学時のベースがかなり異なるため、今までに全く学んだことがない者は予習・復習を必ず行うこと。それでも、わからない場合は授業外に質問すること。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	コンピュータの歴史／コンピュータの五大装置	教科書・参考書の内容確認
	2	中央処理装置の構成・主記憶装置の構成	当該講義の復習／次回講義の予習
	3	命令とアドレッシング・ALUの構成回路・高速化技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	4	補助記憶媒体・装置	当該講義の復習／次回講義の予習
	5	入出力装置・入出力インタフェース	当該講義の復習／次回講義の予習
	6	さまざまな処理システム	当該講義の復習／次回講義の予習
	7	処理能力の評価	当該講義の復習／次回講義の予習
	8	信頼性の評価	当該講義の復習／次回講義の予習
	9	ヒューマンインタフェース技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	10	マルチメディア技術と応用	当該講義の復習／次回講義の予習
	11	ネットワークの基本構成	当該講義の復習／次回講義の予習
	12	ネットワークの基礎技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	13	LANの基礎技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	14	インターネットサービス・TCP/IPプロトコル	当該講義の復習／次回講義の予習
15	ネットワーク運用管理／ネットワーク管理手法	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2018） 参考書： ロージー・ディキンズ「なるほどわかった コンピューターとプログラミング」ひさかたチャイルド（2017） アंक「パソコンの仕組みの絵本」翔泳社（2010） アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社（2009） アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社（2003）		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義形式：プログラミング理論、情報処理システム論、情報通信ネットワーク論 演習形式：プログラミングI・II、ウェブプログラミング、データベース、情報処理システム演習、ロボットプログラミングシミュレーション
-------	--

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に位置づけられます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイン画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	メッセージ Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル その1&その2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	授業共有ファイル その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	授業共有ファイル その9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	授業共有ファイル その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル その13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル その14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	授業共有ファイル その15	
16	課題提出	授業共有ファイル その1～15	
	テキスト・参考文献・資料など APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、ポータルの授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。 Android関連書籍。関連Webページ。		
	学びの手立て 授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。		
	評価 出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に位置づけられます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。</p>	<p>Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。</p>
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル	その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル	その1 & その2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	授業共有ファイル	その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル	その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル	その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル	その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル	その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル	その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	授業共有ファイル	その9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	授業共有ファイル	その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル	その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル	その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル	その13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル	その14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	授業共有ファイル	その15	
16	課題提出	授業共有ファイル	その1～15	
テキスト・参考文献・資料など	<p>APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、ポータル授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。 Android関連書籍。関連Webページ</p>			
学びの手立て	<p>授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。</p>			
評価	<p>出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。</p>
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査と内部監査に関する基礎的な内容を修得する。	基本情報技術者試験のシステム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの分野について学びます。

学びの準備	到達目標
	高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる ・システム戦略・システム企画について理解し、説明できる ・システム開発技術について理解し、説明できる ・ソフトウェア開発管理技術について理解し、説明できる ・プロジェクトマネジメントについて理解し、説明できる ・サービスマネジメント・システム監査について理解し、説明できる

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、情報システム戦略の概要	次回講義の予習
	2	情報システム企画	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	システム開発プロセス	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	ソフトウェア実装プロセス：要件定義～詳細設計	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	ソフトウェア実装プロセス：構築～受入れ支援	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	保守・廃棄プロセス	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	ソフトウェア開発手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	ソフトウェア設計手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	システム開発環境	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	プロジェクトマネジメントの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	サブジェクトグループのマネジメント	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	サービスマネジメントの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	サービスマネジメントの手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	サービスの運用	当該講義の復習/次回講義の予習
15	システム監査と内部統制	当該講義の復習	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	教科書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ (2017) 参考書：「ITワールド」インフォテック・サーブ (2017)

学びの実践	学びの手立て
	「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。

学びの実践	評価
	出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「情報処理概論」「プログラミング理論」「システム開発と情報化」 次のステージとして「ロボットシミュレーション（ロボットプログラミング）」がある。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報数学	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-八幡 幸司	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 本講義では、情報数学 I に引き続き情報処理に必要なとなる基本的な数学を学ぶ。具体的には、集合と論理、n進数、情報科学分野で必須となるベクトルと行列について学習する。	メッセージ 本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。
	到達目標 集合と論理、n進数、ベクトルと行列など、専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	
	2	集合と論理 (i)	講義の復習および課題演習
	3	集合と論理 (ii)	講義の復習および課題演習
	4	集合と論理 (iii)	講義の復習および課題演習
	5	n進数 (i)	講義の復習および課題演習
	6	n進数 (ii)	講義の復習および課題演習
	7	n進数 (iii)	講義の復習および課題演習
	8	ベクトル (i)	講義の復習および課題演習
	9	ベクトル (ii)	講義の復習および課題演習
	10	ベクトル (iii)	講義の復習および課題演習
	11	行列 (i)	講義の復習および課題演習
	12	行列 (ii)	講義の復習および課題演習
	13	行列の応用 (i)	講義の復習および課題演習
	14	行列の応用 (ii)	講義の復習および課題演習
15	行列の応用 (iii)	講義の復習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：石原光，小堆光喜「入門 情報処理数学」実教出版 参考資料： ・石村園子「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」共立出版 ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版店		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験結果，出席状況，課題レポートにより評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理に関連する講義科目が次のステージとなる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報通信ネットワーク論	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-八幡 幸司	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい インターネットや携帯電話の普及により情報通信ネットワークは私たちの生活に欠かすことができないものとなりました。また、ネットワークの存在を前提とした各種社会サービスの普及により、企業や行政が正常に機能するためには必須なものとなりました。本講義では、その情報通信ネットワークを利用するだけでなく、構築・運用するのに必要な知識の習得を目指します。	メッセージ インターネットで使われるプロトコルの基本からネットワークの応用技術まで学ぶ、情報処理概論などにおいてネットワークの基本的な知識を学習済みであることが望ましい。
	到達目標 プロトコル階層モデルを理解する インターネットでの実用面での運用法について理解する 基本的なセキュリティ技術について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・情報ネットワークの歴史
	2	情報ネットワークのプロトコル
	3	データリンク層プロトコル
	4	ネットワーク層プロトコル
	5	トランスポート層プロトコル
	6	アプリケーション層プロトコル
	7	トラヒック理論の基礎
	8	ネットワーク層プロトコルの実際
		時間外学習の内容
		次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習/次回講義の予習
		当該講義の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：池田博昌，山本幹「情報ネットワーク工学」（2008） 参考文献： ・インフォテック・サーブ「ITワールド」インフォテック・サーブ（2015） ・アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社（2009） ・アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社（2003） ・山内雪路「よくわかる情報通信ネットワーク」東京電機大学出版局（2010）	
	学びの手立て 難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献，またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。	
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「情報処理概論」「情報通信ネットワーク実習」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報と職業	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-岡田 良	2年	ptt697@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県は観光やIT産業を中心に自立的経済発展を目指している。とりわけここ15年で様変わりしたIT産業の変遷と発展要因を学ぶとともに、現在及び近い将来の業界トレンドを理解する。さらに職種に関する理解を深め各人の卒業前就職活動もしくは卒業後の就労に際し高いモチベーションをもつことを目的としている。現実的・具体的な職種の現状を正しく理解することをねらいとしている。</p>	<p>将来、IT業界への就労に世海を持つ学生はもちろん、他業界においても情報技術はどのように貢献しているのかを知りたい学生向きの講義としています。(私は)産業振興のプロフェッショナルとして地域の振興の考え方についても述べていきます。さらに就職活動に対する考え方についてや面接などの対応方法についても取り組んでいきます。</p>
到達目標	<p>今日の学生は仕事に関する知識に乏しいため目指す職種像が描けていないでしょう。このような状態でやみくもに就職活動に挑んでも必ずしも良い結果につながるとは言えないと考えています。本講義履修後はIT業界だけでなく様々な職種の理解ができるようになるとともに、企業が内定を出すまでの経緯を学ぶことにより、以て就労するための過程を知ることになります。本講義を通して学生の”人間力”を養えればと考えております。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	本講義の目的と概要をガイダンス。	
	2	講義スケジュール説明後、県内産業の動向について簡単に解説する。	
	3	さまざまな産業の動向やその職種や企業活動について理解を深める。	
	4	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解する(その1)。	
	5	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解する(その2)。	
	6	沖縄県および自治体の政策を学び、IT業界の変遷と業界の動向を学ぶ。	
	7	過去15年を振り返りながら、近い将来におけるIT業界の動向を模索する。	
	8	講師自身の職務(IM)や実践に触れながら地域振興の必要性と理解を深める。	
	9	企業成長→事業創成⇒産業創造への発展要因を解説する。	
	10	国・地方行政またはその職員が産業振興に果たす役割を解説する。	
	11	これからの大学の在り方と学生に求められるものについて論じる。	
	12	企業では内定者を決めるまでにどのような過程を経ているのかを知る。	
	13	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する(1)。	
14	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する(2)。		
15	講義のまとめ		
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	学びの手立て		
	評価	<p>出席状況および学期末試験の結果を総合的に判断し評価します。なお、学期末試験時にはノート、書籍等参考になるもの持ち込みは可とします。また、やむ負えない事情で試験当日欠席した者についてはメールによるきめられた期限内での提出を認めることとします。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術について、プログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。後半は少人数のグループごとに個別のテーマを企画し、Webサイトを作成し公開する。	メッセージ CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。
	到達目標 ・Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。 ・演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。 ・学んだ知識・スキルを活用してチームによる課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	Webデザイン：Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	3	Webデザイン：情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	4	Webデザイン：素材の制作1 文字	教科書の予習・復習
	5	Webデザイン：素材の制作2 画像処理	教科書の予習・復習
	6	Webデザイン：素材の制作3 動画像	教科書の予習・復習
	7	Webページを実現する技術：HTMLの基礎	教科書の予習・復習
8	Webページを実現する技術：CSSの基礎	教科書の予習・復習	
9	Webページを実現する技術：文書要素の制御	教科書の予習・復習	
10	Webページを実現する技術：文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習	
11	Webページを実現する技術：CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習	
12	グループワークの準備・言語と規格	グループごとにWebサイト作成	
13	Webサイトの運用	グループごとにWebサイト作成	
14	知的財産権	グループごとにWebサイト作成	
15	課題発表：グループごとのWebサイト	グループごとにWebサイト作成	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会 参考書：「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会 「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 ・質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。		
	評価 授業への参加度ならびに、各回での作成課題（20%）、最終課題（80%）を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、ウェブプログラミング、UIデザイン概論
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	1年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術について、プログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。後半は少人数のグループごとに個別のテーマを企画し、Webサイトを作成し公開する。	CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> <li>学んだ知識・スキルを活用してチームによる課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	Webデザイン：Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	3	Webデザイン：情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	4	Webデザイン：素材の制作1	教科書の予習・復習
	5	Webデザイン：素材の制作2	教科書の予習・復習
	6	Webデザイン：素材の制作3	教科書の予習・復習
	7	Webページを実現する技術：HTMLの基礎	教科書の予習・復習
	8	Webページを実現する技術：CSSの基礎	教科書の予習・復習
	9	Webページを実現する技術：文書要素の制御	教科書の予習・復習
	10	Webページを実現する技術：文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習
	11	Webページを実現する技術：CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習
	12	グループワークの準備・言語と規格	教科書の予習・復習
	13	Webサイトの運用	グループごとにWebサイト作成
14	知的財産権	グループごとにWebサイト作成	
15	課題発表：グループごとのWebサイト	グループごとにWebサイト作成	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など			
教科書：「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会 参考書：「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会 「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>			
評価			
講義への参加状況、各回での作成課題（20%）、ならびに最終課題（80%）を重視し、総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、ウェブプログラミング
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人工知能概論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>スマートフォンや自動車、Webサービスなど、社会のあらゆる分野において人工知能は重要な役割を担うようになりました。そこにはディープラーニングという技術の存在があります。</p> <p>本講義では講義と演習を通して、ディープラーニングの原理を学びます。</p>	<p>講義だけでなく、実際にコードを書いたり、デバッグしたりと多くの時間がかかりますが、演習を通じてより深く理解していきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>Python の基礎を理解し、説明できる。</li> <li>ディープラーニングやその基礎となる理論を理解し、説明できる。</li> <li>ディープラーニングを利用し、その方法を説明できる。</li> <li>ディープラーニングの応用例について理解し、説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解・教科書の通読
	2	Python入門	教科書の理解と課題の提出
	3	パーセプトロン (1) パーセプトロンとは	教科書の理解と課題の提出
	4	パーセプトロン (2) 多相パーセプトロン	教科書の理解と課題の提出
	5	ニューラルネットワーク (1) パーセプトロンからニューラルネットワークへ	教科書の理解と課題の提出
	6	ニューラルネットワーク (2) 3層ニューラルネットワークの実装	教科書の理解と課題の提出
	7	ニューラルネットワークの学習 (1) データから学習する	教科書の理解と課題の提出
8	ニューラルネットワークの学習 (2) 学習アルゴリズムの実装	教科書の理解と課題の提出	
9	誤差逆伝播法 (1) 計算グラフ	教科書の理解と課題の提出	
10	誤差逆伝播法 (2) 活性化関数レイヤの実装	教科書の理解と課題の提出	
11	学習に関するテクニック (1) パラメータの更新	教科書の理解と課題の提出	
12	学習に関するテクニック (2) 正則化	教科書の理解と課題の提出	
13	畳み込みニューラルネットワーク	教科書の理解と課題の提出	
14	ディープラーニング	教科書の理解と課題の提出	
15	期末試験	試験勉強・採点後の復習	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト ・斎藤 康毅「ゼロから作るDeep Learning」 (2016)		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>Python の理解に努めましょう。</li> <li>演習を通して、深い理解に繋げましょう。</li> <li>複雑な理論も、焦らずじっくり時間を掛けて理解しましょう。</li> </ul>		
評価	期末試験 (100点満点) および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。 (期末試験得点) × (授業参加度)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義において学んだディープラーニングの原理を足がかりに、最先端技術の理解や自身のシステムの開発に役立てていきましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	数的処理	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報処理は情報科学分野のみならず経済学分野、経営科学においても必須の技能である。しかしながら、専門分野における情報処理は、特定の専門業種を除き、実際の仕事の場で必要とされる機会は少ない。本講義では、専門分野における情報処理ではなく、社会人となる学生に身に付けてほしいデータ処理技法について解説する。	具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。

到達目標	SPIにおける非言語分野や公務員試験における数的推理など、社会人に必要な基礎的なデータ処理技法を習得する。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	次回講義の予習
	2	幾何図形の基本性質	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	数値データの規則性と基本性質	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	問題の定式化とデータ処理(i)	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	問題の定式化とデータ処理(ii)	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	組み合わせ論の基礎	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	確率の基礎	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	加法定理と乗法定理	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	幾何図形におけるデータ処理(i)	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	幾何図形におけるデータ処理(ii)	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	進数の基礎	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	集合の基礎	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	演繹法と帰納法	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	逆転の発想によるデータ処理(i)	当該講義の復習/次回講義の予習
15	逆転の発想によるデータ処理(ii)	当該講義の復習	
16	試験・総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト： 未定（第一回目の講義で周知します） 参考文献・資料： 授業時に適宜配付する。

学びの実践	学びの手立て
	「履修の心構え」 初回講義を欠席した者は、仮登録を取り消すので注意すること。 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。

学びの実践	評価
	試験結果（80%），レポート（20%）により評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次のステージは、大学で学んだ知識・技能を就職先の業務に活かすことである。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、アニメーション制作の基礎技術を学びます

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	3DCGアニメーション演習	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アニメーション表現は、デジタル技術の発達と共に様々な分野で用いられ、コンテンツ産業においても重要な役割を担っている。本演習では、Autodesk社Mayaなどのアプリケーションを用いて、3DCGアニメーションの制作を行い、その概要と表現について学び技術の習得を目指す。	メッセージ 3DCGアニメーション制作を通して、アニメーション表現の技術を習得し、技術や手法を応用した創造力や問題解決力について学ぶ。また、演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組んでほしい。
	到達目標 ・アニメーションに関する基本的な概念と表現について理解し、演習を通して3DCGアニメーションの総合的な技術を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・アニメーション概論	ガイダンスの理解
	2	表現と技術史 (1) 誕生	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (2) 発展と可能性	基本概念の理解及び講義の復習
	4	基本操作と概要	基本概念の理解及び講義の復習
	5	アニメーション表現 (1) 動きの種類	基本概念の理解及び講義の復習
	6	アニメーション表現 (2) 基礎技術	基本概念の理解及び講義の復習
	7	アニメーション表現 (3) 応用	基本概念の理解及び講義の復習
	8	キャラクターアニメーションの基礎技術	基本概念の理解及び講義の復習
	9	リギング (1) 基本構造	基本概念の理解及び講義の復習
	10	リギング (2) 基礎技術	基本概念の理解及び講義の復習
	11	リギング (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	12	アニメーション演習 (1) 課題設定	技術の応用・課題の提出
	13	アニメーション演習 (2) 構造構築	技術の応用・課題の提出
	14	アニメーション演習 (3) 技術の応用	技術の応用・課題の提出
15	アニメーション演習 (4) 課題制作	技術の応用・課題の提出	
16	統括	課題の提出	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。			
学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。			
評価 授業参加度 (20%) 及び講義内での通常課題 (20%)、最終課題 (60%) を総合的に評価する。 総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ゲーム開発演習、UIデザイン概論
-------	--------------------------------------



※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、アニメーション制作の基礎技術を学びます

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	3DCGアニメーション演習	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アニメーション表現は、デジタル技術の発達と共に様々な分野で用いられ、コンテンツ産業においても重要な役割を担っている。本演習では、Autodesk社Mayaなどのアプリケーションを用いて、3DCGアニメーションの制作を行い、その概要と表現について学び技術の習得を目指す。	メッセージ 3DCGアニメーション制作を通して、アニメーション表現の技術を習得し、技術や手法を応用した創造力や問題解決力について学ぶ。また、演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組んでほしい。
	到達目標 アニメーションに関する基本的な概念と表現について理解し、演習を通して3DCGアニメーションの総合的な技術を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・アニメーション概論	ガイダンスの理解
	2	表現と技術史 (1) 誕生	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (2) 発展と可能性	基本概念の理解及び講義の復習
	4	基本操作と概要	基本概念の理解及び講義の復習
	5	アニメーション表現 (1) 動きの種類	基本概念の理解及び講義の復習
	6	アニメーション表現 (2) 基礎技術	基本概念の理解及び講義の復習
	7	アニメーション表現 (3) 応用	基本概念の理解及び講義の復習
	8	キャラクターアニメーションの基礎技術	基本概念の理解及び講義の復習
	9	リギング (1) 基本構造	基本概念の理解及び講義の復習
	10	リギング (2) 基礎技術	基本概念の理解及び講義の復習
	11	リギング (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	12	アニメーション演習 (1) 課題設定	技術の応用・課題の提出
	13	アニメーション演習 (2) 構造構築	技術の応用・課題の提出
	14	アニメーション演習 (3) 技術の応用	技術の応用・課題の提出
15	アニメーション演習 (4) 課題制作	技術の応用・課題の提出	
16	統括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。		
	評価 授業参加度 (20%) 及び講義内での通常課題 (20%)、最終課題 (60%) を総合的に評価する。 総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ゲーム開発演習、UIデザイン概論
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に、暗号化とセキュリティがあります。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セキュリティ概論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨今、個人情報や企業の機密情報の流出が、社会的に深刻なものとなってきている。情報漏洩を防ぐ方法、本人確認の手法など暗号の重要性が見直されている。本講義では、暗号の歴史から現在の主な暗号方法、そして近未来の量子暗号まで、それらの概要を学ぶことをねらいとしている。</p>	<p>私達は、知らず知らずのうちに暗号化技術を利用しています。暗号化技術を知ることが、高度情報社会を知ることと個人情報の大切さを理解することになります。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。</p>
到達目標	R S A公開鍵暗号方式とエルガマル暗号方式における暗号化と復号を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ギリシア・ローマ時代の暗号（シーザー暗号、スキュレータ）	授業共有ファイル その1
	2	江戸時代の暗号（上杉暗号）	授業共有ファイル その2
	3	第二次世界大戦と暗号技術（赤／紫暗号、エニグマ）	授業共有ファイル その3
	4	情報化による文明構造の変革（デジタル技術とマルチメディア）	授業共有ファイル その4
	5	情報セキュリティの登場	授業共有ファイル その5
	6	社会基盤としての暗号	授業共有ファイル その6
	7	現代社会と暗号利用（電子マネー、電子決済、デジタル放送など）	授業共有ファイル その7
	8	DES型暗号	授業共有ファイル その8
	9	共通鍵暗号	授業共有ファイル その9
	10	公開鍵暗号	授業共有ファイル その10
	11	素数と余りと法の世界	授業共有ファイル その11
	12	R S A暗号方式	授業共有ファイル その12
	13	エルガマル暗号方式	授業共有ファイル その13
	14	電子署名・ハッシュ関数／ハッシュ値	授業共有ファイル その14
15	未来の暗号（楕円曲線暗号／量子暗号方式）	授業共有ファイル その15	
16	テスト	授業共有ファイル その1～15	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは、毎回、ポータルにアップロードされます。また必要な資料も、pdf形式やパワーポイント形式でポータルの授業共有ファイルにアップロードされます。それらを参考文献としてください。</p>		
学びの手立て	<p>毎時間、授業共有ファイルにアップロードされる電子ファイルを参照すること。</p>		
評価	<p>出席：規定通り。 試験：規定通り。 提出物：1～2回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>最適化概論。専門演習。情報処理システム演習。卒業論文演習。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能の基礎部分を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。</li> <li>・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義時に指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、3年次の専門演習Ⅰ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>最終課題（100点満点）および授業参加度をもとに以下のように評価を算定する。 （最終課題得点）×（授業参加度）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に専門演習ⅠⅡおよび卒業論文演習ⅠⅡの履修や卒業論文の作成に役立てるように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1~2回、また適宜懇親会をやりませ。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。
到達目標	(1) 文献の輪読や討論を通じて、ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身につける。 (2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。 (3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身につけ、分析力を高める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	データ分析1（相関関係分析）	当日内容の復習、次回の予習
	3	データ分析2（相関関係分析）	同上
	4	データ分析3（相関関係分析）	同上
	5	データ分析4（相関関係分析）	同上
	6	データ分析5（因果関係分析）	同上
	7	データ分析6（因果関係分析）	同上
	8	データ分析7（因果関係分析）	同上
	9	輪読・討論1（論理的な考え方）	同上
	10	輪読・討論2（論理的な考え方）	同上
	11	輪読・討論3（論理的な考え方）	同上
	12	輪読・討論4（論理的な考え方）	同上
	13	輪読・討論5（論理的な考え方）	同上
14	輪読・討論6（論理的な考え方）	同上	
15	輪読・討論7（論理的な考え方）	当日内容の復習	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定していないが、講義に必要な教材はプリントまたはPDFファイルで配布する。		
学びの手立て	(1) 情報処理基礎科目を履修し、パソコン操作、Word、Excel、Powerpointの基本操作に慣れてほしい。 (2) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。 (3) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。		
評価	平常点：60%（普段の学習態度、学習状況など）、発表点：40%（文献輪読当番の資料作成や発表状況など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次の専門演習ⅠⅡ
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を持ち、  
解決力、創造力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 演習の目的は、地域の振興で財政がどのように関わっていくのか、どのような役割をはたしたほうが望ましいのかを研究することである。沖縄県は、地域経済と自治体の財政の関係が深い。まず、わが国経済の動向を学習した後、沖縄県経済について学習する。次に、沖縄の振興と財政の役割について検討していく。	メッセージ 身近な沖縄県の経済、産業について学び、さらに経済や地域を振興していくにはどうすればよいかいっしょに考えていきましょう。
	到達目標 ①基本的な情報収集力、情報の取捨選択力を見につける。 ②取捨選択した情報を読み取る能力を身につけ、テーマを設定する力をつける ③課題レポートに取り組み、テーマ設定、論理展開力、プレゼンテーション力を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 専門演習基礎のオリエンテーション 第2回 日本経済の概要① 第3回 日本経済の概要② 第4回 日本経済の概要③ 第5回 沖縄県経済の概要① 第6回 沖縄県経済の概要② 第7回 沖縄県経済の概要③ 第8回 地域振興と財政① 第9回 地域振興と財政② 第10回 地域振興と財政③ 第11回 沖縄振興計画① 第12回 沖縄振興計画② 第13回 沖縄振興計画③ 第14回 専門演習基礎の総括① 第15回 専門演習基礎の総括②
	テキスト・参考文献・資料など 第一回の演習の時間に説明します。資料は印刷物、PDFファイルとして配布する予定です。
	学びの手立て はじめに日本経済の概要について学び、次に沖縄県の産業、経済について学びます。この過程から、各自の関心のあるテーマを探っていきます。
	評価 授業参加度、課題の提出状況、プレゼンテーションの内容等で総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行う。 (1) テーマ絞り込みのための調査研究 (2) テーマに沿った研究	メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について切磋琢磨すること。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。		
	到達目標 テーマに沿った研究成果の報告書の提出。2月末。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 9月～11月：テーマに沿った調査研究を行い、2～3度、プレゼンテーションをしてもらう。 12月～2月：テーマに沿った研究成果の報告書を提出する。			
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った、資料など。			
	学びの手立て 常に最新技術動向やグローバル社会について関心を払うこと。			
	評価 出席：規定通り。 試験：規定通り。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等） 授業態度50%。提出物25%。プレゼンテーション25%。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、Ⅱ。卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい 講義当初はハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術の習得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を義務付けます。また本演習は、続く「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の基盤を形成する大切な科目であることに留意してもらいたいと考えます。	メッセージ 毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができず。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。
	到達目標 ①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 ガイダンス 2週目 コンピュータ・グラフィックス①（基礎的な技術） 3週目 コンピュータ・グラフィックス②（企業システムへの応用） 4週目 マルチメディア①（基礎的な技術） 5週目 マルチメディア②（企業システムへの応用） 6週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識① 7週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識② 8週目 データベース・システム①（基礎的な技術） 9週目 データベース・システム②（企業システムにおけるデータベースの役割） 10週目 データベース・システムの設計 11週目 データベース・プログラミング① 12週目 データベース・プログラミング② 13週目 システム部門で必要とされる情報セキュリティの知識 14週目 企業内ネットワーク・システムの知識 15週目 企業内情報システムの問題解決技法 16週目 データの集計と統計処理技法
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。 栢木 厚『イメージ&クレーパー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』技術評論社 城田 比佐子『情報処理教科書 出るところだけ! ITパスポート』翔泳社 五十嵐 聡『ITパスポートパーフェクトラーニング過去問題集』技術評論社
	学びの手立て ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。 ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。 ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。 ④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。
評価	受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習に続く科目としては、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習Ⅱ」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	E-mail: k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、情報技術に関する基礎知識をベースとして、デジタル技術を活用したコンテンツ制作およびメディア表現（コンピュータグラフィックス、映像メディア、デザイン等）に必要な知識と技能習得を目的とする。	メッセージ 本演習では、コンテンツ制作に必要な基礎知識ならびに技術習得を目指すため、講義外での取り組みが必要となる。また資格取得などに積極的に取り組むこと。
	到達目標 情報技術に関する基礎技術を修得し、コンテンツ制作に必要な基本技能を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  第1回：ガイダンス 第2回～10回：個別の研究テーマの基礎となる情報技術、メディア技術に関する課題制作および研究に必要な調査に取り組む。また関連技術の学習および課題制作を行い、進捗状況の報告を行う。 第11回～14回：課題制作、研究調査を踏まえた成果の発表資料等の作成 第15回：課題発表 第16回：総括
	テキスト・参考文献・資料など ・初回の講義で周知する。
	学びの手立て 個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。 より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。
	評価 評価は、課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」がある。
-------	---



※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>計算機の高機能低価格化およびインターネットの普及にともない、業務の効率化や顧客サービスの充実を実現する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものとなっている。また、近年の複雑化した経済状況を分析する上でも情報処理技術は必須だと言える。本演習では、受講生がシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目的とする。</p>	<p>本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。</p>
到達目標	システム開発プロセスについて理解し、Webシステム開発等に必要プログラミング技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/受講受付	次回講義の予習課題
	2	要件定義(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	3	要件定義(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	4	基本設計(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	5	基本設計(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	6	詳細設計(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	7	詳細設計(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
8	テスト計画(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題	
9	テスト計画(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題	
10	コーディングとデバッグ(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題	
11	コーディングとデバッグ(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題	
12	テスト(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題	
13	テスト(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題	
14	発表会(i)		
15	発表会(ii)		
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト未定 (第一回目の講義で周知します)。 参考文献・資料 (1) 高橋麻奈 著 「やさしいJava」, ソフトバンク (2) 廣川・桑村 著 「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ</p>		
学びの手立て	<p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>		
評価	基本的に欠席は認めない。演習課題 (100%) で判断する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「専門演習 I」, 「専門演習 II」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 様々な経済データを利用してExcel計算を行う。表計算を通じ、分散・標準偏差・相関係数・回帰分析の計算の仕組みを理解する。データ分析機能を使ったExcel計算を使いこなすようになる。	メッセージ 初学者を対象にした演習です。Excelを使った経済学の学習に興味を持つ、きっかけをつくっていきます。
	到達目標 分散・標準偏差の計算結果を説明できる。 相関係数・回帰分析の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	Excelの基本操作	絶対参照・複合参照の復習
	3	基本統計量①：計算	データ分析の設定を復習する
	4	基本統計量②：計算結果の理解	統計量の概念を復習する
	5	分散・標準偏差の計算の仕組み①：表計算	計算の仕組みを復習する
	6	分散・標準偏差の計算の仕組み②：様々なデータによる計算	計算の仕組みを理解する
	7	相関分析①：データ分析機能による計算	相関係数の概念を復習する
	8	相関分析②：表計算	計算の仕組みを復習する
	9	相関分析③：様々なデータによる計算	計算の仕組みを理解する
	10	学習内容の復習1	計算結果を説明する
	11	回帰分析①：データ分析機能による計算	回帰分析の概念を復習する
	12	回帰分析②：表計算	計算の仕組みを復習する
	13	回帰分析③：様々なデータによる計算	計算の仕組みを理解する
	14	学習内容の復習2	計算結果を説明する
	15	学習内容の復習3	学習内容を大まかに理解する
16	4年次卒業論文発表会	最終的な到達目標を知る	

実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布して開設する。 参考文献 [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。 [2] 唐渡広志『44の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2013年。 [3] 山本祐・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。
----	---

学びの手立て	履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。
--------	---

評価	提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：基本統計量・相関係数・回帰分析のExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、調べる演習を続けます。 関連科目として、「産業情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を受講しておくとい良いでしょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。 [ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	Processing (Javaベースのオープンソース統合環境) によるプログラミングを通して問題解決能力の養成, 基本的な情報技術に関する知識の習得を目指す。また, プログラミングのみならずフィジカルコンピューティングについても検討を行っていく。	AR (拡張現実感), VR (仮想現実感) などのインタフェースについても検討を行います。最後には各自で課題作成に取り組み, ゼミ内で発表会を行います。

到達目標	Java/Processingに関する一般的な知識を有し, 小規模なプログラムが適切に書ける。AR/VRに関する一般的な概念を理解し, 簡単なシステムを構築できる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	Processing プログラミングの基礎 (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	Processing プログラミングの基礎 (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	Processing プログラミングの基礎 (3)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	2Dグラフィック (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	2Dグラフィック (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	アニメーションと3Dグラフィック	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	イベント処理	課題作成・発表準備
	9	課題発表 (イベントを利用したアプリケーション)	課題作成・発表準備
	10	ライブラリの活用	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	Processing と外部機器の接続	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	ARプログラミング (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	ARプログラミング (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	14	個人製作によるシステムの企画・開発 (1)	課題作成・発表準備
15	個人製作によるシステムの企画・開発 (2)	課題作成・発表準備	
16	最終発表会		

テキスト・参考文献・資料など	田所淳「Processing クリエイティブ・コーディング入門」技術評論社 (2017) 【参考文献】 Casey Reas 他「Processingをはじめよう 第2版」オライリージャパン (2016) 西田竜太「遊んで学ぶ はじめてのプログラミング (GAME DEVELOPER BOOKS)」秀和システム (2016) 橋本直「ARプログラミング Processingでつくる拡張現実感のレシピ」オーム社 (2012)
----------------	---

学びの手立て	「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので, 必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく, 参考文献も適宜調べること。 演習時間以外にも課外活動 (情報関連シンポジウム参加, 情報系ゼミの卒論発表会参加等) を紹介しますので, 積極的に参加するようにしましょう。
--------	---

評価	出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	2年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学における講義はレポート・論文の作成やプレゼンテーション（発表）など自分の意見や主張を述べ、文章に表すなど高校までの授業や勉強方法とは異なる方法で課題や試験を回答・提出しなければならない。そこでこの講義では、問題解決能力、情報の収集、レポートの作成方法や発表についての技術・方法について紹介し、実際に練習・演習を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 問題解決能力に必要な考える「型」を学ぶ 問題に取り組む方法はすでに先人の知識として蓄積されています。まずはそれを真似て、自分なりに応用してみましょう</p> <p>2. レポート・卒論など文章の書き方を学ぶ 長文や文章の書き方もコツと練習の繰り返しで上手になります。まずは簡単なものから学びましょう。文章表現は就活のエントリーシートや面接での自己PRにも役に立ちます。</p>	<p>中国のことわざに「魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ」というものがあります。考え方や行動の仕方を身につけることでどんな分野でも応用することができます。大学で学んだことが直接社会で仕事で役に立たないと嘆くのではなく、その過程で得た苦労や考え方は一生役に立つものです。これが問題解決能力です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習案内、注意点	自己紹介の準備
	2	表現方法①	
	3	表現方法②	
	4	制約条件、時間管理①	スケジュールの管理
	5	制約条件、時間管理②	
	6	問題の設定①定義	
	7	問題の設定②応用（就職活動を事例に）	内容に関する意見・自分への適応
	8	レポート・論文の作成①定義・手順	課題（感想文）
	9	レポート・論文の作成②書き方	
	10	レポート・論文の作成③構成	
	11	論理的思考能力①	課題の設定
	12	論理的思考能力②	
	13	グループディスカッション①議論の手法	
	14	グループディスカッション②演習	アイデアの創出
15	グループディスカッション③発表	資料の準備	
16			

テキスト・参考文献・資料など  
講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

学びの手立て

トレーニングを続けることで筋力をつけることができますが、適切な指導を受けないと効率的に筋力はずかえってケガをしてしまいます。能力も同じで、方法と練習を適切に行うことで上達していきます。これは日本の伝統的な守破離の精神に通じるものがあります。まずは「守」練習で忠実に真似をし、「破」で教えを少し変えてみる、そして「離」で教えから離れて新しい技術・考え方を編み出すといったものです。簡単な課題から始め徐々にレベルを上げ、練習と実践を繰り返し、能力を身につけていきましょう。

評価

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

上位科目：専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ  
関連科目：基礎演習Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3 年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付けます。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、モノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたいと考えます。	毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。
到達目標	①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：ガイダンス</li> <li>2：研究資料の収集方法①</li> <li>3：研究資料の収集方法②</li> <li>4：研究資料の収集方法③</li> <li>5：データの整理と解析手法①</li> <li>6：データの整理と解析手法②</li> <li>7：データの整理と解析手法③</li> <li>8：資料に基づく調査結果報告①</li> <li>9：資料に基づく調査結果報告②</li> <li>10：資料に基づく調査結果報告③</li> <li>11：資料に基づく調査結果報告④</li> <li>12：資料に基づく調査結果報告⑤</li> <li>13：資料に基づく調査結果報告⑥</li> <li>14：専門演習 I 発表会①</li> <li>15：専門演習 I 発表会②</li> <li>16：専門演習 I 発表会の総括</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</li> <li>② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。</li> <li>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</li> <li>④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</li> </ol>
評価	<p>受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習に続く科目としては、「専門演習 II」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習 II」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「  
実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習基礎で身につけたプログラミング技能を基に、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。</p> <p>（1週目）ガイダンス・担当スケジュールの調整</p> <p>（2-13週目）進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>（14週目）発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>（15週目）発表会 時間外の学習内容：取組課題の整理</p> <p>（16週目）総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料</p> <p>(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク</p> <p>(2) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ</p> <p>※その他、適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	取組成果（100%）で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「専門演習 II」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 最小2乗法(OLS)に関するExcelの諸計算を自分で実行できるようになる。 貨幣需要関数の計量経済分析を通じて現実の金融経済を理解する力を身に着ける。	メッセージ Excelを利用した計量経済分析に習熟するだけでなく、金融経済論の学習に興味を持ち続けられるよう、工夫します。
	到達目標 ダミー変数を利用した検証の計算結果を説明できる。 多重共線性の原因と対応について説明できる。 系列相関とダービン・ワトソン比の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	専門演習基礎の復習	Excelファイルを復習する
	3	マネタリー・ベースとコール・レートの検証①	散布図と計算結果を対応
	4	マネタリー・ベースとコール・レートの検証②	計算結果のWord記述と理解
	5	貨幣需要関数の検証①：回帰分析	参考文献[3]の第10章
	6	貨幣需要関数の検証②：計算結果の理解	参考文献[3]の第10章
	7	学習内容の復習1	貨幣需要の理論と実際を復習
	8	ダミー変数を利用した検証①：定数項ダミー	参考文献[4]の第7章第1～3節
	9	ダミー変数を利用した検証②：係数ダミー	参考文献[4]の第7章第1～3節
	10	貨幣需要関数の検証③：多重回帰分析	参考文献[3]の第10章
	11	貨幣需要関数の検証④：多重共線性	参考文献[4]の第7章第4節
	12	学習内容の復習2	貨幣需要の理論と実際を復習
	13	貨幣需要関数と系列相関	参考文献[4]の第9章第1節
	14	貨幣需要関数とダービン・ワトソン比	参考文献[4]の第9章第2節
15	学習内容の復習3	貨幣需要の理論と実際を復習	
16	予備時間		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。		
	評価 提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：ダミー変数、ダービン・ワトソン比のExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、③計算結果を理解する演習を続けます。 関連科目として、「産業情報分析 I・II」、「データ解析論 I・II」、「ファイナンシャルエコノミクス I・II」を受講しておくとい良いでしょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい EPIC Games社のUnreal Engineを用いたゲーム開発を通し、VR・AR・MRについて学び基本技術の修得を目指す。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 VR・AR・MRの設計と実装について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 開発環境のUnrealEngine4にてゲームの作成を通して画面デザインやプログラミングについて学習していく。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：荒川巧也「作れる！学べる！Unreal Engine4 ゲーム開発入門」翔泳社（2017） 参考書籍：・長谷川勇，佐藤達磨，南野真太郎「ゲームエンジニア養成読本」技術評論社（2017） ・湊和久「Unreal Engine 4で極めるゲーム開発」株式会社ポーンデジタル（2015） ・鈴木晃「C++でつくるUnreal Engineアプリ開発」ラトルズ（2018） ・株式会社ITAKO，大嶋 剛直，多久島信隆，河野修弘「Unreal Engine&Unityエンジニア養成読本」技術評論社（2017）
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので，必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく，参考文献も適宜調べること。
	評価 演習への参加度，課題の提出，報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-------	------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文作成に向けて、プレゼンテーション、テーマ設定、統計分析の手法などの準備を行う。卒業論文の作成方法を身に付け、自身の卒業論文作成に適用できることを目的とする。	前半ではプレゼンテーションや統計分析、文書表現など卒論の作成に必要な考え方や作業を紹介します。そして徐々に卒業論文の作成に向けての準備作業を行ってまいります。最終的にはテーマを設定し、夏休み中に文献を読み進めてください。

到達目標	1. プレゼンテーションや統計分析など卒論の作成に必要な考え方や準備を行う。 卒論を作成するにはまず卒論がどのようなものかを知る、設計図が必要です。卒論の工程を学び段階的な作業方法を学びましょう。 2. 卒業論文のテーマを設定する。 身の回りや社会、授業で気になった問題点やテーマを見つけ、図書館で文献を探して卒論のテーマを選びましょう。
------	--

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1～5回プレゼンテーションの方法と各自発表 6～10テーマ設定方法と各自発表 11～15統計分析・手法の紹介</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 授業の内容を深めるため課題を与えます。また課題は卒論のテーマ設定やプレゼンなど、時間外の作業を伴い、しかも時間がかかるものもあります。締め切り直前に作業を行うのではなく、早めに少しずつ取り組み、わからないところがあればすぐに相談するようにしてください。
-------	--

学びの実践	評価 平常点3割・授業内課題4割・最終課題3割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。 日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 上位科目：専門演習Ⅱ・卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ 関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。</li> <li>・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、次の専門演習Ⅱ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>最終課題（100点満点）および授業参加度をもとに以下のように評価を算定する。 （最終課題得点）×（授業参加度）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、専門演習基礎で習得した技能、調査をもとに、各自がテーマを設定して個別の研究に取り組む。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組む。	メッセージ 本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。
	到達目標 ・個別の研究テーマに基づいた、調査・研究を実施し考察する。 ・研究計画を立案し、課題制作に取り組む。	

学びの準備	到達目標 ・個別の研究テーマに基づいた、調査・研究を実施し考察する。 ・研究計画を立案し、課題制作に取り組む。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回：ガイダンス・研究テーマ調査計画          第2回～10回：個別テーマに関する調査・研究に取り組む。関連技術の学習および課題制作を行い、進捗状況の報告を行う。          第11回～14回：研究計画に基づいた調査研究および発表資料、課題等の作成          第15回：研究成果中間発表          第16回：総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義内で適宜指定する。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜指定する。
-------	-------------------------------

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。 より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>評価は、研究課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「専門演習 I」で設定した研究計画・テーマに基づいて、「専門演習 II」へと継続して取り組む。</p>
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3 年	maemura@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	演習 I では、沖縄県の経済、振興について基本的な知識を学び、レポートをまとめ報告することを学習しました。演習 II では、各自でテーマをしばり、情報収集・整理・分析、論文作成、報告、質疑の能力をよりいっそう高めていきます。これは卒業論文演習で卒業論文をまとめる際の基本的な能力を身につけることとなります。	沖縄県の経済や産業について学び、地域の振興をはかるにはどうするかいっしょに考えていきましょう。

学 び の 準 備	到達目標
	①多くの情報の中から、自分にとって必要な情報を取捨選択する能力をつける ②レポートを作成することにより、テーマの設定、論理展開、情報の取集・分析能力を高める ③レポートの報告を通じて、プレゼンテーション、ディスカッションの能力を高める。

学 び の 実 践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 沖縄県の経済①</li> <li>(2) 沖縄県の経済②</li> <li>(3) 沖縄振興計画①（21世紀プラン）</li> <li>(4) 沖縄振興計画②（21世紀プラン）</li> <li>(5) 沖縄振興計画③（21世紀プラン）</li> <li>(6) レポート・論文計画の作成①</li> <li>(7) レポート・論文計画の作成②</li> <li>(8) レポート・論文計画の作成③</li> <li>(9) 情報収集と整理・分析①</li> <li>(10) 情報収集と整理・分析②</li> <li>(11) 論文計画のプレゼンテーション①</li> <li>(12) 論文計画のプレゼンテーション②</li> <li>(13) 論文計画のプレゼンテーション③</li> <li>(14) 論文計画のプレゼンテーション④</li> <li>(15) 論文計画のプレゼンテーション⑤</li> <li>(16) 演習 II の総括</li> </ol>

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	演習の時間に随時、参考文献を紹介します。また資料を配布します。

学 び の 実 践	学びの手立て
	専門演習基礎で学んだ基本事項を基に、沖縄県の経済、産業を中心として各自が取り組みたいテーマを絞っていきます。各自が関心のある分野、将来、就職して取り組む仕事を想定してテーマ設定を行います。

学 び の 実 践	評価
	授業参加度、課題の取り組み状況、レポートの作成、プレゼンテーション等を総合的に評価します。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-----------------------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、専門演習基礎で学んだ基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。また、実際の企業ではどのような情報技術が必要でどのような人材が求められているのかなどを、インターンシップ企業を紹介しながら説明していく。</p>	<p>夏期休業中に実施される企業インターンシップに向けての心構えや関連技術のeラーニングコンテンツなどの取り上げる。個別研究テーマを掘り下げるというメインテーマに加えて、どのような就職先を選ぶのかも重要な意思決定となる。目標意識を持って積極的に演習に望んでもらいたい。</p>
到達目標	<p>基本的な情報技術の知識をベースに個別研究テーマを進めて行く。どのようなツールや技術を用い、どのレベルのアプリケーションやリサーチ結果を求めるのか客観的に考察しながら目標設定できる能力を養って欲しい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	システム設計系卒論の説明	考察
	3	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の説明	考察
	4	卒業論文と就職希望業種との連携	考察
	5	eラーニングコンテンツの説明	考察
	6	過去の卒論内容紹介 1	考察
	7	過去の卒論内容紹介 2	考察
	8	インターンシップ企業の紹介と将来の職業について	履歴書、エントリーシート課題
	9	インターンシップに向けての心構え 何を学ぶのか？	履歴書、エントリーシート課題
	10	インターンシップに向けての課題(コンテンツ系の場合)	履歴書、エントリーシート課題
	11	インターンシップに向けての課題(システム設計系の場合)	履歴書、エントリーシート課題
	12	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 1	個別テーマの考察
	13	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 2	個別テーマの考察
14	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 3	個別テーマの考察	
15	卒業論文中間発表 1	他の学生のテーマについて考察	
16	卒業論文中間発表 2 および総括	他の学生のテーマについて考察	
実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
学びの手立て	<p>将来の職業や自分の興味をベースにして個別研究テーマを選定できる能力（情報技術や経済経営の知識、考える力）を身につけることがメインテーマとなる。そのためには、自力で情報収集し、自力でツールやプログラム言語を選定し、開発できる能力が必須となるため、様々な経験を積んで欲しい。</p>		
評価	<p>評価は個別プレゼンテーションの内容により判断する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、後期開講の専門演習Ⅱにつなげていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	<p>専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。</p>		
到達目標	卒業論文演習までの全体の半分を終了する。			
学びの実践	学びのヒント	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。今後、それに続いて、テーマに沿った調査・研究をし、専門演習Ⅱに引き継ぎます。この専門演習Ⅰでテーマを確立しておくことを勧めます。</p>		
	テキスト・参考文献・資料など	各自のテーマに沿った文献。論文など。		
	学びの手立て	<p>まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。しっかりしましょう。</p>		
	評価	<p>出席：規定通り。 試験：規定通り。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等） 授業態度50%。提出物25%。プレゼンテーション25%。</p>		
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習Ⅱ。卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ</p>			

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「  
実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、「専門演習Ⅰ」で設定した個別の研究テーマの調査・研究を深め、更なる考察を行っていく。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組み、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」につなげていく。	メッセージ 本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。
	到達目標 ・個別の研究テーマに関する考察を深め、各自で設定した目標達成に向けて計画的に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回：ガイダンス 第2回～10回：個別テーマに関する取り組みについて進捗状況の報告を行う。 第11回～13回：研究計画に基づいた調査研究および発表資料、課題等の作成 第14回：発表会 第15回：発表会 第16回：総括
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜指定する。
	学びの手立て 毎回、個別の研究テーマに関連した課題を設定し取り組むこと。 より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。
	評価 評価は、研究課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「専門演習Ⅱ」で取り組んだ研究テーマを深め、「卒業論文演習Ⅰ」へと継続して取り組む。
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、問題解決力、創造力を養成します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習基礎で学習した沖縄県の経済、地域振興についてさらに掘り下げて学習していく。沖縄県の経済、地域振興についてテーマを絞り、情報収集、整理、分析について学ぶ。これによってレポートや論文としてまとめる基本的な能力を身につけていく。さらに、報告や質疑を通じてディスカッションの能力を高めていく。</p>	<p>演習Ⅰでとり上げたテーマをさらに掘り下げていきます。</p>
到達目標	<p>①テーマを設定し、テーマに沿って論理を展開する能力を高めます。                  ②テーマに関連する情報を取捨選択し活かす能力を養います。                  ③レポートの作成について学習し、卒業論文作成のための基本事項を身につけます。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 沖縄県の経済①</li> <li>(2) 沖縄県の経済②</li> <li>(3) 沖縄振興計画①（21世紀プラン）</li> <li>(4) 沖縄振興計画②（21世紀プラン）</li> <li>(5) 沖縄振興計画③（21世紀プラン）</li> <li>(6) レポート、論文の作成について①</li> <li>(7) レポート、論文の作成について②</li> <li>(8) テーマ設定と情報収集・分析①</li> <li>(9) テーマ設定と情報収集・分析②</li> <li>(10) レポート作成とプレゼンテーション①</li> <li>(11) レポート作成とプレゼンテーション②</li> <li>(12) レポート作成とプレゼンテーション③</li> <li>(13) レポート作成とプレゼンテーション④</li> <li>(14) レポート作成とプレゼンテーション⑤</li> <li>(15) 演習Ⅱの総括①</li> <li>(16) 演習Ⅱの総括②</li> </ul>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>第一回の演習の時間に説明します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>演習Ⅰで取り組んだテーマをさらに掘り下げ、卒業論文のテーマ、論理構成を深めていきます。</p>
	<p>評価</p> <p>授業の参加度、レポートの作成、報告等を総合して評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ</p>
-------	-----------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は専門演習基礎、専門演習Ⅰおよび企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、特に興味のある事柄にテーマを絞り、各自、考察を進めていく。12月には個別テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その成果を公開する。4年次配当科目の「卒業論文」に向けた最終準備科目である。	個別研究テーマを掘り下げるといふメインテーマに加えて、どのような就職先を選ぶのかも重要な意思決定となる。目標意識を持って積極的に演習に望んでもらいたい。
到達目標	基本的な情報技術の知識をベースに個別研究テーマを進めて行く。どのようなツールや技術を用い、どのレベルのアプリケーションやリサーチ結果を求めるのか客観的に考察しながら目標設定できる能力を養って欲しい。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	過去の卒業論文の紹介	全体考察
	3	システム設計系卒論の目標設定	全体考察
	4	コンテンツ制作系卒論の目標設定	全体考察
	5	個別報告(プレゼン) 1	個別研究の開発作業
	6	個別報告(プレゼン) 2	個別研究の開発作業
	7	個別報告(プレゼン) 3	個別研究の開発作業
8	個別報告(プレゼン) 4	個別研究の開発作業	
9	個別報告(プレゼン) 5	個別研究の開発作業	
10	個別報告(プレゼン) 6	個別研究の開発作業	
11	個別報告(プレゼン) 7	個別研究の開発作業	
12	個別報告(プレゼン) 8	個別研究の開発作業	
13	個別報告(プレゼン) 9	個別研究の開発作業	
14	卒業論文発表会 1	全体考察	
15	卒業論文発表会 2	全体考察	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に個別テーマ毎に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業や自分の興味をベースにして個別研究テーマを選定できる能力（情報技術や経済経営の知識、考える力）を身につけることがメインテーマとなる。そのためには、自力で情報収集し、自力でツールやプログラム言語を選定し、開発できる能力が必須となるため、様々な経験を積んで欲しい。		
	評価 評価は個別プレゼンテーションの内容により判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、4年次開講の卒業論文演習Ⅰにつなげていく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付けます。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、モノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたいと考えます。	毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができず。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。
到達目標	①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：ガイダンス</li> <li>2：基本計画①・・・仕様書</li> <li>3：基本計画②・・・システム化計画書</li> <li>4：基本計画③・・・開発計画書</li> <li>5：外部設計の基本</li> <li>6：内部設計の基本</li> <li>7：プログラム設計の基本①</li> <li>8：プログラム設計の基本②</li> <li>9：モジュール化とインターフェイス</li> <li>10：処理手順のデザイン①</li> <li>11：処理手順のデザイン②</li> <li>12：設計内容の文章化①</li> <li>13：設計内容の文章化②</li> <li>14：設計内容の文章化③</li> <li>15：設計文書のレビュー①</li> <li>16：設計文書のレビュー②</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。以下、参考文献。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</li> <li>② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。</li> <li>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</li> <li>④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</li> </ol>
評価	受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は、「卒業論文演習Ⅱ」そして「卒業論文演習Ⅲ」に向けた基礎的な講義内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 専門演習Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火 4	単位 2	
	担当者 又吉 光邦	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ matayosi@okiu.ac.jp		
	ねらい 「自分のテーマに沿った研究」を遂行すること以外にありません。		メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について引き続き、自ら吸収し、切磋琢磨すること。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。		
	到達目標 自分のテーマに沿った専門演習のテーマを発表してもらいます。				
学びの準備	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。それに続いて専門演習Ⅰで、テーマに沿った調査・研究の概要を修了しています。それを専門演習Ⅱに引き継ぎ、研究発表をしてもらいます。</p> <p>その後、卒業年次の卒業論文演習Ⅰ・Ⅱにおいて、「論文」としてまとめてもらいます。</p>				
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>				
	<p>学びの手立て</p> <p>まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。最新技術動向の調査研究から、技術の習得。あるいは各種統計データから導かれる結論について、積極的に取り組んで自らの解を得ること。</p>				
	<p>評価</p> <p>出席：規定通り。 試験：規定通り。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等） 授業態度50%。提出物25%。プレゼンテーション25%。</p>				
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ</p>				

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「  
実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅰに引き続き、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。</p> <p>（1週目）ガイダンス・担当スケジュールの調整</p> <p>（2-11週目）進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>（12週目）発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>（13週目）発表会 時間外の学習内容：取組課題の整理</p> <p>（14週目）研究論文の作成ポイント</p> <p>（15週目）社会人特別講話</p> <p>（16週目）総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料</p> <p>(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク</p> <p>(2) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ</p> <p>※その他、適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	取組成果（100%）で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習Ⅰ」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ダービン・ワトソン比、コ克蘭・オーカット法のExcel計算を自分で実行できるようになる。 フィリップス曲線の計量経済分析を通じて現実の金融経済を理解する力を身に着ける。	メッセージ Excelを利用した計量経済分析に習熟するだけでなく、金融経済論の学習に興味を持ち続けられるよう、工夫します。
	到達目標 多重共線性、攪乱項の系列相関に対処しながら金融経済の実証分析を行い、計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	専門演習Ⅰの復習	ダービン・ワトソン比の復習
	3	非伝統的金融政策とダミー変数①：単回帰分析	参考文献[3]の第12・15章
	4	非伝統的金融政策とダミー変数②：重回帰分析	参考文献[3]の第12・15章
	5	フィリップス曲線の回帰分析①：データの確認	参考文献[3]の第14章
	6	フィリップス曲線の回帰分析②：ダービン・ワトソン比の計算	参考文献[3]の第14章
	7	フィリップス曲線の回帰分析③：コ克蘭・オーカット法の導入	参考文献[4]の第9章
	8	フィリップス曲線の回帰分析④：コ克蘭・オーカット法の計算	参考文献[4]の第9章
	9	学習内容の復習1	ファイルから計算方法を復習
	10	学習内容の復習2	フィリップス曲線の理論と実際
	11	計算結果の記述と理解①：フィリップス曲線とコ克蘭・オーカット法	参考文献[4]の第9章
	12	計算結果の記述と理解②：貨幣需要関数とコ克蘭・オーカット法	参考文献[4]の第9章
	13	コ克蘭・オーカット法の繰返し計算①	計算方法の確認を何度も行う
	14	コ克蘭・オーカット法の繰返し計算②	計算方法の確認を何度も行う
15	学習内容の復習3	異なるデータによる試算	
16	4年次卒業論文発表会	最終的な到達目標を知る	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。		
	評価 提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：ダービン・ワトソン比、コ克蘭・オーカット法のExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、③計算結果を理解する演習を続けます。 関連科目として、「産業情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「データ解析論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」を受講しておくといでしょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 卒業研究を行うにあたり、基礎的な技術修得、ならびに、文献検索などの情報収集能力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  専門演習Ⅰに引き続き、これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。 各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらおう。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する 参考書籍： ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
	評価 出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅰ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。まずは前期で選んだテーマ設定をもとに必要な文献・資料を入手し、先行研究を整理、解説しテーマの研究手法や問題点を文章にまとめることである。これらの作業は卒業論文における文章の書き方やテーマの基本的な知識を身に着けることを目的としている。</p>	<p>専門演習Ⅱでは卒論の作業を本格的に進めていきます。とはいっても、いきなり執筆できるものではありません。これから卒業までの1年半、卒論工程を計画的に進めていく必要があります。前期からの準備をもとに段階的に作業を進めていきましょう。</p>
到達目標	<p>1. プレゼンテーション統計分析など卒論に向けた準備を行う。 発表の仕方、データの分析方法、文献検索など卒論の作成方法を学び作業に反映させましょう。</p> <p>2. 卒業論文のテーマを設定する。 授業や身の回りで気になった問題点やテーマについて深く考え、図書館で文献を読み卒論のテーマを選びましょう。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談とメールによって文献検索や作業の指示を行う。</li> <li>・先行研究部分の執筆方法について開設を行う。</li> <li>・各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。</li> </ul> <p>発表者は事前に資料を準備して、当日のプレゼンに臨み、参加者は資料と発表をもとに意見交換を行うものとする。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の作成は一朝一夕にできるものではありません。部分部分を少しずつ考え作成して行くことで完成することができます。まずは自分の意見を主張するのではなく、文献を通じて筆者の主張を整理することで、問題点が浮かび上がってきます。この問題点こそ最初に抱く自分の意見や考えです。こうしてまず自分の意見や疑問が浮かびやすい作業から自分の主張を思い付き、執筆することで、高次の自分の意見や主張を考え、卒論に書くことができます。</p>
	<p>評価</p> <p>受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>上位科目：卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。</li> <li>・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習Ⅰに引き続き、卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、次の卒業論文演習Ⅰ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>最終課題（100点満点）および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。 （最終課題得点）×（授業参加度）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、社会人としての問題解決力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	4年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習 I、II において取り組んだ研究テーマを深く掘り下げ、研究の集大成となる卒業論文の作成および論文内容の更なる充実を図る。	メッセージ ・個別に設定した研究テーマについて主体的に取り組むこと。 ・演習時間外における活動（調査研究、開発、発表会等）も必要となるため計画的に取り組むこと。
	到達目標 ・個別に設定した研究テーマについて深く掘り下げ、卒業研究論文を作成する。 ・研究テーマに沿った課題の制作に取り組む。	

学びの準備	到達目標 ・個別に設定した研究テーマについて深く掘り下げ、卒業研究論文を作成する。 ・研究テーマに沿った課題の制作に取り組む。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回：ガイダンス／卒業論文・研究計画の作成 第2回～10回：個別に設定した研究テーマに関する論文作成。関連技術の習得および課題制作を行い、進捗状況の報告を行う。 第11回～15回：研究計画に基づいた調査研究および発表資料、課題等の作成。 第16回：総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>・研究テーマに関連した課題を個別に設定し、専門演習 II で取り組んだ研究内容を掘り下げ、論文としてまとめる。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>評価は、研究課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習 II」がある。</p>
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業論文演習 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4 年	maemura@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい これまでの演習(専門演習基礎、演習 I II) で論文のテーマ設定と展開、情報収集と分析、論文のまとめ方について学習してきました。これを基に、各自のテーマにそって卒業論文を作成していきます。卒業論文演習 I では、主にテーマの確定と情報収集、分析を中心として各自で論文をとりまとめ、概要報告およびディスカッションを通じて論文を仕上げしていきます。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第 1 回 卒業論文のテーマと展開① 第 2 回 卒業論文のテーマと展開② 第 3 回 卒業論文のテーマと展開③ 第 4 回 情報収集と分析① 第 5 回 情報収集と分析② 第 5 回 情報収集と分析③ 第 6 回 卒業論文概要報告① 第 7 回 卒業論文概要報告② 第 8 回 卒業論文概要報告③ 第 9 回 情報収集・分析と論文構成① 第 1 0 回 情報収集・分析と論文構成② 第 1 1 回 情報収集・分析と論文構成③ 第 1 2 回 情報収集・分析と論文作成④ 第 1 4 回 情報収集・分析と論文作成⑤ 第 1 5 回 中間発表準備① 第 1 6 回 中間発表準備②
	テキスト・参考文献・資料など 第一回の演習の時間に参考文献、資料を紹介します。
	学びの手立て 演習 I ・ II で取り組んだきた論文テーマを継続して進めていきます。
	評価 演習への出席状況、論文作成の取り組み、論文の概要報告、中間発表の内容に総合的に評価します。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II
-----------------------	--------------------------

※ポリシーとの関連性

産業社会の課題を分析し、自らの社会的責任を自覚し積極的に貢献  
できることを目的として、個別の卒業論文制作する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	4年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習基礎、専門演習 I・II および企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、個別テーマを選定し研究成果をプレゼンテーションにより公開したが、本演習では、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。	メッセージ 4年間学んできた知識や得た技術を使い、卒業論文を制作する。内容も重要であるが、その内容を人に伝える技術も大切である。よって、研究内容の成果プラスプレゼンテーション技術習得を求める。
	到達目標 現代社会における産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、近未来に対する解決力・創造力を養うという目的のために、個別研究テーマを掘り下げて、多くの人達にプレゼンテーションを行い、自らの考えや成果を伝えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	個別報告	開発およびプレゼン準備
	3	個別報告	開発およびプレゼン準備
4	個別報告	開発およびプレゼン準備	
5	個別報告	開発およびプレゼン準備	
6	個別報告	開発およびプレゼン準備	
7	個別報告	開発およびプレゼン準備	
8	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
9	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
10	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
11	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
12	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
13	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
14	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
15	考察	論文制作およびプレゼン準備	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に個別に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業に就くための準備を行い、個別研究テーマも連動させて自分の主張する事を自らの言葉でプレゼンテーションできることが重要である。4年間学んだことの集大成として卒業論文があるので、その内容を相手に効率良く短時間で伝える技術や熱意などが必要である。		
	評価 個別報告内容（論文内容および個別プレゼンテーション資料の内容等）を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、後期開講の卒業論文演習 II につなげていく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	4 年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習基礎」から「専門演習Ⅱ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。本講義において研究テーマを選定し、研究計画を立案した後、先行研究調査、資料収集、言語選定と開発環境整備を行いながら、続く「卒業論文演習Ⅱ」に備えます。</p>	<p>就職活動も重なり多忙となりますが、毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。また進捗が思わしくない、あるいは何かの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマに沿ったシステム開発を必須とする。</li> <li>卒業研究発表会への参加を義務づける。</li> <li>卒業論文を執筆し、製本する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文演習 I について	
	2	具体的な研究テーマの検討と決定①	様々観点から熟考する。
	3	具体的な研究テーマの検討と決定②	様々観点から熟考する。
	4	研究テーマのレビュー①	積極的に報告する。
	5	研究テーマのレビュー②	積極的に報告する。
	6	研究計画の立案①	様々な観点から熟考する。
	7	研究計画の立案②	様々な観点から熟考する。
	8	研究計画のレビュー①	積極的に報告する。
	9	研究計画のレビュー②	積極的に報告する。
	10	先行研究の調査と整理	自主的に取り組む。
	11	開発に用いる言語の選定	研究テーマとの関連を考慮する。
	12	開発環境の構築と整備①	積極的に取り組む。
	13	開発環境の構築と整備②	積極的に取り組む。
14	開発に用いる言語の習得①	自主的に取り組む。	
15	開発に用いる言語の習得②	自主的に取り組む。	
16	開発に用いる言語の習得③	自主的に取り組む。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</p> <p>② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。</p> <p>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</p> <p>④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>		
評価	<p>受講態度、レポート、各種報告を総合的に判断する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は、「卒業論文演習Ⅱ」に向けた基礎的な講義内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 また、論文演習なので、成果物として紙媒体とPDFで提出してもらいます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 イメージとしては、卒業論文演習までの全体の半分を終了する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎週、適宜報告をしてもらいます。また、プレゼンテーションも2回ほど行います。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った文献。論文など。
	学びの手立て 学びの手立て まじめにコツコツやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。 しっかりしましょう。
	評価 出席：規定通り。 試験：規定通り。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等） 授業態度50%。提出物25%。プレゼンテーション25%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅱ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	調査結果・取組成果を文書として取りまとめる確に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の習得を目指す。	本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習で取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料は、適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	取組成果（100%）で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習 II」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	4年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済財政白書をヒントに、卒業論文のテーマを決定する。 卒業論文の検証の対象になる、現実の金融経済の状況を大まかに理解する。	メッセージ 現実の金融経済への興味から卒業論文の作業を持続できるよう、工夫します。
	到達目標 卒業論文で利用する分析方法の経済学的な考え方を説明できるようになる。 卒業論文で利用する計量経済分析の考え方を説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	専門演習Ⅱの復習	ファイルから学習内容を復習
	3	データの観察と記述	参考文献[1]の第12章
	4	代表的な金融データの紹介	参考文献[1]の第13章
	5	卒業論文執筆例の紹介	参考文献[3]の第10章
	6	経済財政白書の参照①	内閣府HP経済財政白書
	7	経済財政白書の参照②	内閣府HP経済財政白書
	8	卒業論文の分析対象の決定①	経済財政白書の要約
	9	卒業論文の分析対象の決定②	経済財政白書の要約
	10	卒業論文のテーマと経済学①	参考文献[1]・[3]の概要
	11	卒業論文のテーマと経済学②	参考文献の要約
	12	卒業論文のテーマと経済学③	参考文献の要約
	13	計量経済分析の復習①	ダミー変数の復習
	14	計量経済分析の復習②	ダービン・ワトソン比の復習
15	計量経済分析の復習③	コ克蘭・オーカット法の復習	
16	夏期休暇中の作業へ	本格的な計量経済分析の開始	
テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本拓・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。			
学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なると卒業論文の執筆が大幅に遅れるので注意すること。			
評価 提出課題50%：到達目標の達成度を測る。 実習状況30%：卒業論文作成のためのExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活での金融経済に対する理解、そして「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。 各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する 参考書籍： ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
	評価 演習への参加状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅱ
-------	------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	4年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅱに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。卒業論文の作成は情報処理、分析能力を高め、テーマについての問題点を発見・整理し、解決策や提言を文章にまとめること目標とする。卒業論文の作成で客観的な視点から、自らの主張を展開し聞き手に理解を深められるような能力を養うことができる。</p>	<p>4年生前期は就職活動と卒業研究の両立（さらに単位取得）で忙しい時期です。どちらも時間がたくさん必要ですが、手帳などで予定を管理し、空いている時間を見つけてその時間で何ができるかを効率的に考える必要があります。</p>
到達目標	<p>1. 専門演習Ⅱに引き続き、次の作業を行い適宜指導を行う。 ・先行研究部分の執筆（文献収集・整理と問題点の指摘） ・上記に基づく、自分の意見・主張を展開させる</p> <p>2. さらに卒業論文演習Ⅰでは自分の意見や主張を裏付ける客観的事実（事例や統計データ）を収集し、論の展開と執筆を行う。この際統計分析を行うことが望ましい。</p> <p>3. 講義最後の中間発表会で発表を行い、問題点についてゼミ生との間で議論・意見交換を行う。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。 また出席者は発表者の内容を聞き意見や議論に参加しなければならない。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の作成は一朝一夕にできるものではありません。部分部分を少しずつ考え作成して行くことで完成することができます。今すこしでもできることは何かを常に考え、就活や授業の合間に時間を作り、文献を読み、テーマのことについて考え、行き詰ったらゼミ生と意見を述べ合ったり、すぐに指導教授に相談してください。考えず何もしないのは就活・人生においても有効な時間の使い方ではありません。</p>
評価	<p>発表者への意見質問などの受講態度、発表状況、卒業論文の進捗状況について下記の3点総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒論指導における指摘個所の改善</li> <li>2. 事前発表の参加・貢献（自分の発表会とそれ以外を含めて）</li> <li>3. 中間発表会での発表（準備状況を含めて評価）</li> </ol>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：卒業論文演習Ⅱ、専門演習Ⅱ 上位科目：卒業論文演習Ⅱ 類似科目：データ解析論Ⅱ、産業情報分析Ⅱ</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。</li> <li>・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>専門演習Ⅱに引き続き、卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>最終課題 (100点満点) および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。 (最終課題得点) × (授業参加度)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である卒業論文演習Ⅱ、および卒業論文発表へと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。</p>	<p>原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。</p>

到達目標	テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する</p> <p>参考書籍：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006）</li> <li>・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）</li> <li>・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）</li> </ul>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。</p>
	<p>評価</p> <p>演習への参加状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅰで論文のテーマ・展開について確定し、情報収集、分析、概要報告を通じて論文作成に取りかかっている。卒業論文演習Ⅱでは、情報収集、分析をより進め、論文の作成を進めていく。中間報告で論文の全体的な進み具合を確認し、ディスカッションを通じてより良い論文となるよう取り組んでいく。最終報告で研究した知見を報告し、質疑を通じて知見を深める。	大学における学習の成果としての卒業論文をしっかりと完成させよう。
到達目標	テーマ、論理構成のしっかりした論文を作成し、卒業論文の中間・最終報告を通じて報告能力を高めます。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 情報収集・分析と論文作成①</li> <li>第2回 情報収集・分析と論文作成②</li> <li>第3回 情報収集・分析と論文作成③</li> <li>第4回 情報収集・分析と論文作成④</li> <li>第5回 情報収集・分析と論文作成⑤</li> <li>第6回 卒業論文中間報告①</li> <li>第7回 卒業論文中間報告②</li> <li>第8回 卒業論文中間報告③</li> <li>第9回 卒業論文中間報告④</li> <li>第10回 卒業論文の修正①</li> <li>第11回 卒業論文の修正②</li> <li>第12回 卒業論文の修正③</li> <li>第13回 卒業論文最終報告①</li> <li>第14回 卒業論文最終報告②</li> <li>第15回 卒業論文最終報告③</li> <li>第16回 卒業論文の総括</li> </ul>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>演習のはじめの時間に紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒用論文演習Ⅰで論文の構成を立て情報収集、論文作成の基本を学びました。卒業論文演習Ⅱでは、中間報告、最終報告に向けて取り組みます。</p>
	<p>評価</p> <p>授業参加度、論文の取り組み、中間報告、最終報告の状況を総合的に判断して評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文で学んだ論理構成力、報告能力を実社会の職業の場で生かします。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業社会の課題を分析し、自らの社会的責任を自覚し積極的に貢献できることを目的として、個別の卒業論文制作する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	4年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰに引き続き、卒業論文演習Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、最終的な卒業研究論文を完成させる。	メッセージ 4年間学んできた知識や得た技術を使い、卒業論文を制作する。内容も重要であるが、その内容を人に伝える技術も大切である。よって、研究内容の成果プラスプレゼンテーション技術習得を求める。
	到達目標 現代社会における産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、近未来に対する解決力・創造力を養うという目的のために、個別研究テーマを掘り下げて、多くの人達にプレゼンテーションを行い、自らの考えや成果を伝えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	個別報告	
	2	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	3	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	4	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	5	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	6	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	7	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	8	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
9	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
10	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
11	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
12	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
13	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
14	卒業論文最終発表会	全体考察	
15	全体考察	全体考察	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に個別に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業に就くための準備を行い、個別研究テーマも連動させて自分の主張する事を自らの言葉でプレゼンテーションできることが重要である。4年間学んだことの集大成として卒業論文があるので、その内容を相手に効率良く短時間で伝える技術や熱意などが必要である。		
	評価 提出された卒業論文を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年間学んだ知識および技術より個別テーマを自ら選定し、自ら作成したスケジュールを基にして論文を作成し、多くの人達の前でプレゼンテーションを実施する。この経験により、問題発見力、分析力を身につけ、現代社会の情報化に対応し、近未来に対する解決力・想像力を得ることが可能となる。このような複合的、総合的能力を次のステージである卒業後の実社会において発揮することを希望する。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、社会人としての問題解決力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	4年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰにおいて取り組んだ内容を深化させて、最終的な卒業研究論文を完成させる。	メッセージ ・個別に設定した研究テーマについて主体的に取り組むこと。 ・演習時間外における活動（調査研究、開発、発表会等）も必要となるため計画的に取り組むこと。
	到達目標 ・個別に設定した研究テーマについて深く掘り下げ、卒業研究論文を完成させる。 ・研究テーマに沿った課題の制作に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回：ガイダンス／卒業論文・研究計画の作成 第2回～10回：個別に設定した研究テーマに関する論文作成。関連技術の習得および課題制作を行い、進捗状況の報告を行う。 第11回～15回：研究計画に基づいた調査研究および発表資料、課題等の作成。 第16回：総括
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。
	学びの手立て ・研究テーマに関連した課題を個別に設定し、卒業論文演習Ⅰで取り組んだ研究内容を掘り下げ、論文としてまとめる。
	評価 評価は、研究課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして、専門演習基礎から専門演習（Ⅰ、Ⅱ）、卒業論文演習（Ⅰ、Ⅱ）を通して学んだ知識、習得した技術を統括し、卒業後の就業に活かす。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	4年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習基礎」から「卒業論文演習Ⅰ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。「卒業論文演習Ⅰ」において作成された研究計画書に基づきシステム開発を行い、有用性をはじめとしたフィージビリティスタディを検証した後、卒業論文として整理し、卒業論文研究発表会に備えます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマに沿ったシステム開発を必須とする。</li> <li>卒業研究発表会への参加を義務づける。</li> <li>卒業論文を執筆し、製本する。</li> </ul>	<p>就職活動も重なり多忙となりますが、毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。また進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文演習Ⅱについて	
	2	システム開発①	自主的にシステム開発にあたる。
	3	システム開発②	自主的にシステム開発にあたる。
	4	システム開発③	自主的にシステム開発にあたる。
	5	システム開発④	自主的にシステム開発にあたる。
	6	システム開発⑤	自主的にシステム開発にあたる。
	7	システムレビュー①	積極的にレビューに参加する。
8	システムレビュー②	積極的にレビューに参加する。	
9	システムレビュー③	積極的にレビューに参加する。	
10	卒業論文作成①	卒業論文を執筆する。	
11	卒業論文作成②	卒業論文を執筆する。	
12	卒業論文作成③	卒業論文を執筆する。	
13	卒業論文作成④	卒業論文を執筆する。	
14	卒業論文作成⑤	卒業論文を執筆する。	
15	卒業論文中間発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
16	卒業論文研究発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
	テキスト・参考文献・資料など	適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。	
	学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</p> <p>② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。</p> <p>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</p> <p>④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>	
	評価	受講態度、レポート、各種報告、卒業論文、卒業論文研究発表会等を総合的に判断する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒業論文の作成において、培った情報収集力、読解力、文章力、プレゼン力、システム開発力といった様々な能力を、社会人となって大いに発揮してもらいたいと思います。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 また、論文演習なので、紙媒体とPDFで研究成果を提出してもらいます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 卒業論文を作成し提出する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎週、適宜、報告をしてもらいます。また、プレゼンテーションを適宜してもらい、最終発表をしてもらいます。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った文献。論文など。
	学びの手立て 学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。 しっかりしましょう。
	評価 出席：規定通り。 試験：規定通り。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等） 授業態度20%。提出物40%。プレゼンテーション40%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 就職
-------	-------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	4年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅰに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。卒業論文の作成は情報処理、分析能力を高め、テーマについての問題点を発見・整理し、解決策や提言を文章にまとめること目標とする。卒業論文の作成で客観的な視点から、自らの主張を展開し聞き手に理解を深められるような能力を養うことができる。さらに最終的には卒業論文を完成し、最終発表会で発表を行う。	卒業論文演習Ⅱは卒論論文の完成させ卒業を確定させる最後の必修科目です。これまでの計画性や単位修得や就職活動次第で難易度は個人によって変わってきます。もう卒業は目前です。油断せずに作業を進めましょう。もちろん取得単位の確認も忘れずに。
到達目標	1. 卒業論文演習Ⅰにひき続き、卒業論文の作業を行い適宜指導を行い卒業論文を完成させる。 ・様式、表現への指導 ・自分の意見・主張を展開させる ・客観的根拠や合理性を、科学的手法を用いていること。 2. 最終発表会で発表を行い、自分の主張など卒論の内容をプレゼンを行う。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。 卒論作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要であるため、講義時間外でも適宜指導・添削・助言のための時間と機会を設置する。
	テキスト・参考文献・資料など 講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。
学びの手立て	卒業論文の作成は一朝一夕にできるものではありません。部分部分を少しずつ考え作成して行くことで完成することができます。今すこしでもできることは何かを常に考え、就活や授業の合間に時間を作り、文献を読み、テーマのことについて考え、行き詰ったらゼミ生と意見を述べ合ったり、すぐに指導教授に相談してください。
評価	発表者への意見質問などの受講態度、発表状況、卒業論文内容について下記の点で総合的に評価する。 1. 卒論指導における指摘個所の改善 2. 事前発表の参加・貢献 (自分の発表会とそれ以外を含めて) 3. 最終発表会での発表と修正版 (様式への適合) の提出 4. 科学的手法を用い合理性や客観性のある卒業研究にふさわしい内容であること。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：卒業論文演習Ⅰ
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。</li> <li>・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびプログラムをはじめとした実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、卒業論文発表および卒業論文の制作に臨む。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や欠席の多い者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>卒業論文発表（50点満点）と卒業論文（50点満点），および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。          （卒業論文発表得点＋卒業論文得点）×（授業参加度）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習までに学んだことを礎として、今後も学習に臨み、更なる知識と技術を身に付けていくこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。	本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習および卒業論文演習Ⅰで取り組んだ内容を基に、卒業研究として取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料は、適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	取組成果（100%）で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージは、大学で学んだ知識・技能を就職先の業務に活かすことである。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	4年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の完成のために必要な参考文献・資料、およびデータを追加する。 卒業論文の完成のために必要な計量経済分析の修正を行う。	メッセージ 現実の金融経済への興味から卒業論文の作業を持続できるよう、工夫します。
	到達目標 卒業論文の作成、報告会での発表を通じて、金融経済の検証結果を自分の言葉で説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	分析対象の再確認	経済財政白書を確認する
	3	モデルの再確認	参考文献を確認する
	4	グラフ記述の再確認①	計量経済分析につながるか確認
	5	グラフ記述の再確認②	計量経済分析につながるか確認
	6	計量経済分析の修正①	モデルに誤りがないか確認する
	7	計量経済分析の修正②	モデルに誤りがないか確認する
	8	計量経済分析の修正③	適切な計算結果を抽出する
	9	計量経済分析の修正④	適切な計算結果を抽出する
	10	計算結果の文章記述①	計算結果を文章化する
	11	計算結果の文章記述②	計算結果を文章化する
	12	結論の執筆①	計算結果を解釈する
	13	結論の執筆②	計算結果を解釈する
	14	パワーポイント作成①	卒論内容を視覚的にまとめる
15	パワーポイント作成②	卒論内容を視覚的にまとめる	
16	卒業論文発表会	プレゼンテーションの練習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なると卒業論文の執筆が大幅に遅れるので注意すること		
	評価 卒業論文60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：卒業論文作成のためのExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活での金融経済に対する理解、そして「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多変量解析論	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文やレポートの作成において原因と結果・因果関係を証明・主張するためには、客観的な情報やデータに基づいて論拠をしめす必要がある。こうした因果関係を統計的に明らかにする手法として多変量解析が存在する。本講義では多変量解析の手法として一般的な回帰分析を中心に行う。	「気温と温かい飲料は関係がある」ではなく、「気温が1度減少すると温かい飲料は、いくつ・いくら売れる」がわかると仕入れは助かります。このように原因と結果といった因果関係を探るとき関係の有無だけではなく、「どれくらい」の関係があるかを数値で示すことが必要です。ここで学んだツールは売上予測から卒業論文までや自分の主張を大きく支える、論拠づける道具になります。
到達目標	<p>1. 二変数・多変数の関係を統計的に分析する。 異なる複数のデータを使うことで、相関関係や因果関係など背景や原因を明らかにすることが可能となります。しかしその分析手法はデータの性質や求めたい結果によって異なります。分析手法の使用条件と限界（明らかにできること）を理解しましょう。</p> <p>2. 回帰分析の手法を習得し、応用能力を身につける。 売上予測や卒業論文作成に応用できるような事例・データを使い、回帰分析を実践できる知識・能力を身につけましょう。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要	
	2	散布図・相関係数①相関係数の計算	Excelの操作と課題
	3	散布図・相関係数②実践例	Excelの操作と課題
	4	単回帰分析①回帰式	Excelの操作と課題
	5	単回帰分析②重相関・寄与率	Excelの操作と課題
	6	単回帰分析③誤差項の仮定	講義内容の復習
	7	単回帰分析④統計的仮説検定	Excelの操作と課題
8	単回帰分析⑤信頼区間	Excelの操作と課題	
9	単回帰分析⑥まとめ	これまでの復習と課題	
10	重回帰分析①回帰式と単回帰分析の違い	単回帰分析①の復習	
11	重回帰分析②自由度調整済み寄与率	単回帰分析②の復習と課題	
12	重回帰分析③検定・信頼区間・予測	単回帰分析③～⑤の復習と課題	
13	重回帰分析④ダミー変数	Excelの操作と課題	
14	回帰分析の実践例	Excelの操作と課題	
15	まとめ	これまでの復習と課題	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学回帰分析編』オーム社2005年		
学びの手立て	<p>数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。そのためデータ解析論Ⅰ・Ⅱなどの数学・統計学に関連する講義の履修が望ましい。受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。</p>		
評価	<p>平常点3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：データ解析論Ⅱ・産業情報分析Ⅱ
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域産業概論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	1 年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、地域産業の構造変化や振興のあり方について各種データなどを用いて概観する。具体的に前半では地域と産業の関わり方、地域の産業構造、産業の立地および集積などに関する基礎的理論を学ぶ。後半では沖縄を事例に、地域産業の実態および今日的課題について学ぶ。</p>	<p>目まぐるしく変化する現代社会において、将来的にどのような職種に就くにしても専門的な見地からの説明力（客観性）、自律性や問題解決力（実行力）は必須条件となっています。本講義を通してあらゆる情報を自分なりに読み解く、分析する力を養ってほしい。</p>
到達目標	<p>①専門性の確保：各種データ分析などから今起きていることを自ら整理し、それらを読み解くことで地域経済の個性（産業構造など）を読み解けるようにしたい。さらに地域経済の個性を牽引するものは何なのか、当該産業のみならずそれらを取り巻く環境（他者とのつながり）を踏まえたマクロ的な視点での分析力を身につけることができるようにしたい。</p> <p>②自律性と問題解決力の向上：毎回の講義テーマなどを通して、先述①の視点を踏まえた上で自らの考えをまとめながらアウトプットし、ビジネスシーンで求められる客観的な視点での提案力を培うことができるようにしたい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	地域と産業・経済	当日内容の復習と次回の予習
	3	地域と産業構造	同上
	4	産業の立地	同上
	5	産業集積	同上
	6	産業ネットワーク	同上
	7	産業クラスター	前半の復習
8	中間まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検	
9	沖縄の産業・経済の全体像	当日内容の復習と次回の予習	
10	沖縄の産業経済政策	同上	
11	沖縄の産業構造	同上	
12	沖縄の第一次産業	同上	
13	沖縄の第二次産業	同上	
14	沖縄の第三次産業	当日内容の復習	
15	まとめと復習	後半の復習	
16	期末テスト	期末テスト結果の点検	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しないが、講義時に必要な資料やデータを提供する。 参考文献：伊藤正昭『新版 地域産業論』学文社、田中史人『地域企業論』同文館出版、内田真人『現代沖縄経済論』沖縄タイムズ社など。</p>		
学びの手立て	<p>①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と無関係なこと（私語、スマートフォンの操作など）は減点となる。</p>		
評価	<p>平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎、専門演習Ⅱ
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域財政論Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地方公共団体はこれまで国の財政と連携して、地域公共財の供給といった重要な役割を果たしてきました。今日、国と地方公共団体の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっており、また、地方公共団体の地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方財政の基本的しくみ、財政依存の高い沖縄県の財政と地域振興について学習します。	メッセージ 都道府県や市町村の役割は重要であり、自治体の財政を理解することが重要になっています。皆さんの住んでいる市町村や沖縄県の財政を理解する基本を学びます。
	到達目標 ①地方財政の基本的なしくみを理解する。 ②財政依存の高い沖縄県の財政の実情について理解する。 ③地域振興における地方公共団体の取り組みについて理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  (1) 地域と財政①（地方財政について） (2) 地域と財政②（都道府県、市町村の役割） (3) 地方分権と国、地方の役割① (4) 地方分権と国、地方の役割② (5) 地域公共財① (6) 地域公共財② (7) 地方歳入について (8) 地方歳出について (9) 地方交付税による財源調整① (10) 地方交付税による財源調整② (11) 国庫支出金のしくみと課題① (12) 国庫支出金のしくみと課題② (13) 沖縄県の財政と課題① (14) 沖縄県の財政と課題② (15) 地域振興と沖縄振興開発 (16) 講義の総括
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献は以下のとおりです。第一回の講義の時間に参考文献の紹介を行います。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文社 ②『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス ③『地方財政白書』、総務省
	学びの手立て 制度を調べる場合は、比較的新しい参考文献を利用してください。また、地方財政を所管する総務省HP、都道府県、市町村のHPも参考になります。新聞報道などで実情を知ることができます。
	評価 課題レポートの提出状況、授業参加度、試験の結果を基に総合的に行います。

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域財政論Ⅱ
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域財政論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域財政論Ⅰで学んだ地方財政の基本的しくみの理解を基に、地方分権と税財源の拡充、地方債、地方公営企業、第三セクター、都市の財政問題について学習します。次に地方公共団体の地域振興における役割と産業振興における政策展開について取り上げます。特に沖縄県の振興開発について取り上げ、地方公共団体の地域振興における取組について理解を深めます。	都道府県や市町村の役割が高まっており、これを理解することが重要になっています。皆さんの住んでいる市町村や、沖縄県の財政、地域振興について理解を深めましょう。
到達目標		
準備	①地方財政の基本的なしくみを理解する。 ②沖縄県の財政の実情について理解する。 ③地域振興における地方公共団体の取り組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地方分権と税財源の拡充①</li> <li>(2) 地方分権と税財源の拡充②</li> <li>(3) 地方債と財源調達弾力化</li> <li>(4) 地方公営企業と第三セクターについて</li> <li>(5) 地方公営企業と第三セクターの課題</li> <li>(6) 都市財政①（わが国の都市の概況）</li> <li>(7) 都市財政②（都市化と財政需要）</li> <li>(8) 高齢社会と地方財政①（高齢化の現状）</li> <li>(9) 高齢社会と地方財政②（医療・介護保険）</li> <li>(10) 財政分析の概要</li> <li>(11) 財政分析（沖縄県と41市町村）</li> <li>(12) 地域振興と沖縄振興計画①</li> <li>(13) 地域振興と沖縄振興計画②</li> <li>(14) 地域振興と沖縄振興計画③</li> <li>(15) 講義の総括①</li> <li>(16) 講義の総括②</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献は以下の通りです。第一回の講義の時間に紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文堂</li> <li>②『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス</li> <li>③『地方財政白書』、総務省</li> </ol>
	<p>学びの手立て</p> <p>「地域財政論Ⅰ」をできるだけ履修し、地方財政の基本的なしくみを理解してください。「地域財政論Ⅱ」は「地域財政Ⅰ」で学習した基本内容を踏まえて、地方財政の個別の課題についてとりあげます。</p>
評価	課題レポートの提出状況、授業参加度、試験の結果を基に総合的に行います。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>パブリックファイナンス、ツーリズムビジネス論Ⅰ・Ⅱ、アジア経済論、環境資源経済論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱなどを履修すると経済、産業についての理解がさらに深くなります。</p>
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域発展論	前期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當銘 栄一	3年	ptt467@okiu.ac.jp (電子メール)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、地域の視点から科学的に発展について分析・議論できる素養を身につけることを目的としている。具体的には、経済発展論や地域分析論などの視点から地域の経済システムの全体像を把握させる。さらに、トピックスとして「シェアリング・エコノミー」などのホットな事例もおりませながら、今後における地域発展とは何かについて共有していきたい。</p>	<p>目まぐるしく変化する経済社会の中において、将来的にどのような職種に就くにしても専門的な見地からの説明力(客観性)、自律性や問題解決力(実行力)は必須条件となっている。本講義を通して、あらゆる情報を自分なりに読み解き、分析する力などを養ってほしい。</p>
到達目標	<p>①専門性の確保：各種データ分析などから今起きていることを自ら整理し、それらを読み解くことで地域経済の個性(産業構造など)を読み解けるようにしたい。さらに、地域経済の個性を牽引するものは何なのか、当該産業のみならずそれらを取り巻く環境(他者とのつながり)を踏まえたマクロ的な視点での分析力を身につけることができるようにしたい。②自律性と問題解決力の向上：講義で毎回行う予定の演習などを通して、先述①の視点を踏まえた上で自らの考えをまとめながらアウトプットし、ビジネスシーンで求められる客観的な視点での提案力を培うことができるようにしたい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域の定義や地域分析の視点	
	2	地域の産業構造の把握と整理	
	3	地域経済の成長・発展について	
	4	地域人口分析	
	5	人口減少社会と地域経済	
	6	小テスト①	
	7	地域の産業政策について	
8	産業ネットワーク		
9	産業クラスター		
10	地域振興政策		
11	小テスト②		
12	まちづくりコミュニティ		
13	経済特区		
14	地域政策の評価		
15	持続的な経済発展にむけて		
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義時に必要な資料やデータを提供する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義内容は積み上げ方式で進行するので、なるべく休まないこと。(欠席する場合は翌週までに欠席届と添付資料を提出すること)</li> <li>講義中の私語は厳禁とする。</li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価配分：期末試験70%、授業への参加度30%</li> <li>評価基準：毎回の演習や定期的なテストにおいて、講義内容をベースとして客観性を踏まえた上で自らの考えが述べられているか、受講態度(講義への参加や熱意)などを評価する。</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文や各種レポート作成時に、本講義で習得した手法や考え方などを活かしてほしい</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	知的情報処理	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高良 富夫	3年	E-mail: takara@ie.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、ヒトの最も知的な情報処理である言語情報処理について、その基本から応用まで講義する。話し言葉は、物理的、生理的、心理的、および言語的側面をもつ。まず各側面について解説し、なぜヒトは言語音を聞き分けられるかを説明する。次に身近な琉球語について、さらに応用として音声合成と音声認識について、そして最後に言語を獲得する赤ん坊のモデルについて解説する。	内容は物理的世界から心的世界、言語的世界まで多岐にわたりますが、毎回音を使ったデモを行うので、気楽に聞いてください。中学生でも読めるショートコラムの教科書を使いますので、あらかじめ読んで、あの音を聞きたいなどと疑問を持って授業に参加してください。ハートのこもった声や、音が無いのに聞こえる声、世界初の声などを聴いてみませんか。
到達目標	人間の知的情報処理とは何かを理解し、その科学的アプローチを習得する。音声の物理世界が人間の心的世界および言語的世界とどのようにしてつながっているのか、また、なぜ人は言語を介して心と心をつなぐことができるのかを情報処理モデルを通して理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入：科目の紹介 音声の物理、生理、心理、言語	予習：教科書の対応するところを読んでおく。
	2	音の物理I：静けさの音と音の大きさ	復習：そこで考えたことを400字程度で報告する。
	3	音の物理II：音を構成する部品	〃
	4	音の物理III：スペクトルそして美しい音とは	〃
	5	音の心理物理：ハートのこもった声	〃
	6	音の生理：脳が音色を感じる仕組み	〃
	7	音声生成の生理：気管と食道がつながっているおかげで	〃
8	言語音声の分析：言語音声の特徴づけるフォルマント	〃	
9	中間試験		
10	言語の獲得：ヒトとサルの違い	〃	
11	琉球語の音声分析：君と豚は似たもの同士	〃	
12	琉球語の言語処理：琉球語を話す人工知能	〃	
13	音声合成：琉球語をしゃべるコンピュータ	〃	
14	音声認識：自動的に進化していく認識機械	〃	
15	言語獲得のモデル：聴き話す赤ん坊コンピュータ	〃	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：高良富夫「音とことばの実験室」琉球新報社。毎回資料を配布する。		
学びの手立て	教科書の対応するところを読んでおき、あの音が聞きたいなどと疑問を持って取り組むこと。		
評価	中間試験30%、期末試験30%、レポート40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「経営科学」がある。
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性 ツーリズム・ビジネスに係わる様々な理論とケースを学習することで、観光・サービス分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ツーリズムビジネス論 I	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 現代の観光産業を実質的に引っ張っていく様々なツーリズムビジネスの状況とその特徴に関して基礎的な知識を習得する。</p> <p>2. 世界の多様な観光目的地の環境と観光資源によって、ツーリズムビジネスはどのような違いがあるのかを理解する。</p>	<p>本講義はツーリズムビジネスにおいて多様な役割を果たしている主体が観光客に利便性と楽しさを伝えるためのどのような活動を行っているのかを説明します。</p>
到達目標	<p>1. 現在のツーリズムビジネスについての基礎的な知識を理解することになる。</p> <p>2. 観光目的地のツーリズムビジネスの特徴を学習することで、観光分野で活躍できるような力を得ることになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ツーリズム・マネジメントの特性	
	3	観光イノベーション	
	4	グローバル観光経営	
	5	ツーリズム・マネジメント	
	6	旅行業ビジネス	
	7	宿泊業ビジネス	
	8	航空輸送業ビジネス	
	9	テーマパーク・ビジネス	レポートの課題
	10	総合型リゾート・ビジネス	
	11	地域の観光まちづくり	
	12	地域ブランドの構築	レポートの提出
	13	地域のインバウンド・ビジネス	
14	ベスト・レポート発表会		
15	学習内容のまとめ		
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>1. テキスト：高橋一夫・柏木千春 編著『1からの観光事業論 第1版』碩学舎、2016年。</p> <p>2. その他、読んでもらいたい資料は適宜授業で紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。</p> <p>2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。</p>		
評価	<p>1. 出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</p> <p>2. レポート1回20%</p> <p>3. 期末テスト30%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『観光マーケティング』や『サービス・マーケティング』のような科目を履修すると、さらに観光ビジネスや観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p> <p>次のステージ：『ツーリズムビジネスⅡ』</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ツーリズムビジネス論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@oku.ac.jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ツーリズムビジネスにおいて、観光マーケティングの役割とその意義を学ぶとともに、新たな観光商品の開発・企画に関する演習を通じて観光産業で活躍できる実務的な感覚を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <p>1. ツーリズムビジネスにおいて、観光マーケティングの必要性を理解できるようになる。</p> <p>2. 日本または沖縄のツーリズムビジネスの将来において、新しい観光市場を創出するために必要な観光商品やサービスとは何かについて理解できるようになる。</p>	<p>本講義では、日本または沖縄のツーリズムビジネスの発展に何が必要なのかを受講生と一緒に考えてみます。本講義は履修する受講生とともに日本または沖縄のツーリズムビジネスの将来について一緒に考えてみる時間です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ツーリズム・マーケティングとは何か	
	3	観光市場の細分化	
	4	戦略的ポジショニングと目標市場	
	5	新商品開発戦略	
	6	ホスピタリティ・サービス品質管理戦略	
	7	ツーリズム・ビジネス・パッケージング戦略	
8	ツーリズム・ビジネス流通ミックス戦略		
9	グループ別ディスカッション	グループ分け	
10	新ツーリズムビジネス企画Ⅰ．商品構成要素	グループ課題準備	
11	新ツーリズムビジネス企画Ⅱ．アイデアとコンセプト	同上	
12	新ツーリズムビジネス企画Ⅲ．観光市場需要予測	同上	
13	グループ発表Ⅰ		
14	グループ発表Ⅱ		
15	グループ発表Ⅲ		
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。	
	学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。	
	評価	1. 出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. グループ・レポート(発表)1回20% 3. 期末テスト30%	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：『サービス・マーケティング』や『広告論』のような科目とともに履修すると、さらに観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p> <p>次のステージ：なし。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アポ必要) で対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	統計・統計学についての基本的な概念について解説し、具体的かつ身近に使われている統計学の実例を紹介し、表計算ソフトを使用した統計処理などの実用的な演習などを行います。講義の目的は統計学的な知識を身につけて客観的な根拠に基づく判断を養うことです。また後期科目データ解析論Ⅱにおける卒業論文作成に必要な統計分析能力を身につける講義です。	身長が「高い、低い」というのは人によって違う主観的なものですが、身長「170cm」は誰の基準でも同じ客観的なものです。こうした数値のことをデータや統計といい、自分の主張を理解・納得させる有効な手段です。また体重計で身長はわからないように、理解せずに扱ってしまうと間違った結論や主張になってしまいます。定義や計算方法を学び、統計・データと上手に付き合い使いましょう。
到達目標	<p>1. 記述統計学の基本的な考え方について理解する。 テストが平均点より上か下か一喜一憂するかもしれませんが、統計学ではデータの真ん中、分布の中心を示す指標は3つあります。定義によって真ん中、中心は変わります。さらに中心だけでなくデータの分布、ばらつき、散らばり具合を示す指標も重要です。</p> <p>2. 推測統計学、標本調査の仕組みを理解する。 世の中のデータのほとんどは一部の人を調査したもので、全員（例：日本国民全員）を調べたものではありません。推測統計学ではそれで「ある程度」十分であると保証しています。しかし、その理由と十分である条件を知らないと誤った結論になってしまいます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要、データの性質について	定性と定量の違い
	2	記述統計学①平均	代表値の計算
	3	記述統計学②分散、標準偏差	標準偏差の計算
	4	記述統計学③基準値と偏差値	基準値と偏差値の計算
	5	確率論の基礎（正規分布、確率変数、確率密度関数）	基準値と正規分布の計算
	6	母集団と標本	標本調査・抽出方法の復習
	7	大数の法則、中心基本定理	推測統計学に関する課題
	8	母平均の推定	母平均の推定の計算
	9	母比率の推定	母比率の推定の計算
	10	統計的仮説検定	帰無仮説・対立仮説の設定
	11	t分布、t推定	t推定の計算
	12	t検定、母平均の検定	検定統計量、P値の計算
	13	散布図、相関とは	相関関係の復習
	14	相関係数	相関係数の計算
15	無相関の検定	無相関検定についての課題	
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

学びの手立て	履修の心構えについて ・遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがあります。遅れず毎回出席してください ・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行いますので、課題に取り組むには講義・演習にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめる必要があります。そうすることで試験問題を解答することができます。
--------	--

評価	平常点3割・課題3割・期末試験4割を原則とします。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表します。 授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与えますので毎回授業に出て演習などに取り組むこと。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 類似科目：共通科目、他学部の統計・社会調査科目 関連科目：データ解析論Ⅱ、ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ（田口担当） 上位科目：データ解析論Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アポ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文やレポートの作成において原因と結果・因果関係を証明・主張するためには、客観的な情報やデータに基づいて論拠をしめす必要がある。こうした因果関係を統計的に明らかにする手法として多変量解析が存在する。本講義では多変量解析の手法として一般的である重回帰分析を中心に行う。	原因と結果といった因果関係を探るときどちらが原因でどちらが結果かがわからない場合があります。あるいは間違った原因を断定しているかもしれません。この講義ではデータに基づき、客観的に関係性を特定することができます。難しいかもしれませんが、ここで学んだツールは卒業論文や自分の主張を大きく支える、論拠づけるものになります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>回帰分析とその分析手法を理解する</li> </ul> 異なる複数のデータを使うことで、相関関係や因果関係など背景や原因を明らかにすることが可能となります。しかしその分析手法はデータの性質や求めたい結果によって異なります。分析手法の使用条件と限界（明らかにできること）を理解しましょう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要、前期講義の復習	前期講義内容の復習
	2	単回帰モデル、最小二乗法	変数の定義
	3	重回帰モデル	Excelによる回帰分析
	4	重相関・決定係数	重相関・決定係数の計算
	5	自由度調整済み決定係数	最適な回帰モデルの判別
	6	誤差項の仮定	これまでの復習と演習
	7	統計的仮説検定、t検定	Excelによる検定方法と分析
8	信頼区間、予測	Excelによる演習	
9	回帰分析の応用例	応用問題を解く	
10	ダミー変数	演習問題を解く	
11	数量化理論		
12	非線形回帰	Excelによる演習	
13	ログ・リニア分析	Excelによる演習	
14	ロジスティック回帰分析	Excelによる演習	
15	まとめ	定義・計算方法・分析方法の復習	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年	
	学びの手立て	履修の心構えについて ・遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがあります。遅れず毎回出席してください ・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行いますので、課題に取り組むには講義・演習にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめる必要があります。そうすることで試験問題を解答することができます。	
	評価	平常点3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。 授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：データ解析論Ⅰ・ビジネス情報分析Ⅱ 上位科目：卒業論文演習（卒論におけるデータ分析）

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーの「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基盤技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データベース	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 秀樹	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。	メッセージ データベースの活用、JavaによるWebアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。
	到達目標 関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。 SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。 データベースと連携したアプリケーションを作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データベースの概要	講義の復習・次回講義の予習
	2	データベースの設計	講義の復習・次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの基本	講義の復習・次回講義の予習
	4	データベースのイニシャルコストとランニングコスト	講義の復習・次回講義の予習
	5	データベースとアーキテクチャ構成	講義の復習・次回講義の予習
	6	データベース管理システムとデータ定義	講義の復習・次回講義の予習
	7	データ操作 (参照)	講義の復習・次回講義の予習
	8	データ操作 (グループ化・整列)	講義の復習・次回講義の予習
	9	データ操作 (結合)	講義の復習・次回講義の予習
	10	データ操作 (挿入・更新・削除)	講義の復習・次回講義の予習
	11	データ操作 (副照会)	講義の復習・次回講義の予習
	12	トランザクション	講義の復習・次回講義の予習
	13	いろいろなデータベース	講義の復習・次回講義の予習
	14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)	DB連携アプリの作成
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)	DB連携アプリの作成	
16	総まとめ・学期末試験	講義の復習	
テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ(2017), ミック, 木村明治「おうちで学べる データベースの基本」翔泳社 参考書：アंक「SQLの絵本」翔泳社(2004), 谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえないデータベース基礎の基礎」技術評論社(2009), 柴田 望洋「新・明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ(2016)			
学びの手立て 以下の理由により、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。ウェブプログラミングではPHPとMySQLによるウェブアプリケーションの構築を行った。本講義ではデータベース管理システムであるMySQLについてさらに深く学びます。Javaによるアプリケーションの作成があります。そのため、Javaに関するある程度の知識が必要です。			
評価 出席回数が3分の2未満は不可。講義への参加状況・調査課題(20%)・小テスト(20%)・期末試験(60%)の成績を重視し、総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、情報処理システム論、プログラミングⅠ・Ⅱ、ウェブプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーの「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基盤技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データベース	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 秀樹	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。	メッセージ データベースの活用、JavaによるWebアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。
	到達目標 関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。 SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。 データベースと連携したアプリケーションを作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データベースの概要	講義の復習・次回講義の予習
	2	データベースの設計	講義の復習・次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの基本	講義の復習・次回講義の予習
	4	データベースのイニシャルコストとランニングコスト	講義の復習・次回講義の予習
	5	データベースとアーキテクチャ構成	講義の復習・次回講義の予習
	6	データベース管理システムとデータ定義	講義の復習・次回講義の予習
	7	データ操作 (参照)	講義の復習・次回講義の予習
	8	データ操作 (グループ化・整列)	講義の復習・次回講義の予習
	9	データ操作 (結合)	講義の復習・次回講義の予習
	10	データ操作 (挿入・更新・削除)	講義の復習・次回講義の予習
	11	データ操作 (副照会)	講義の復習・次回講義の予習
	12	トランザクション	講義の復習・次回講義の予習
	13	いろいろなデータベース	講義の復習・次回講義の予習
	14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)	DB連携アプリの作成
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)	DB連携アプリの作成	
16	総まとめ・学期末試験	講義の復習	
テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ、ミック、木村明治「おうちで学べる データベースのきほん」翔泳社、 参考書：アंक「SQLの絵本」翔泳社 (2004)、 谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえないデータベース基礎の基礎」技術評論社 (2009)、 柴田 望洋「新・明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016)			
学びの手立て 以下の理由により、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。 ウェブプログラミングではPHPとMySQLによるウェブアプリケーションの構築を行った。本講義ではデータベース管理システムであるMySQLについてさらに深く学びます。 Javaによるアプリケーションの作成があります。そのため、Javaに関するある程度の知識が必要です。			
評価 出席回数が3分の2未満は不可。講義への参加状況・調査課題 (20%)・小テスト (20%)・期末試験 (60%) の成績を重視し、総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、情報処理システム論、プログラミングⅠ・Ⅱ、ウェブプログラミング
-------	--



科目基本情報	科目名	ハイブリッド型人材育成特別講義	期別	曜日・時限	単位
	担当者	山崎 暁、常磐木 龍治、山路 康文、鈴木 康元	後期	金 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	090-9960-9593	

学びの準備	ねらい	様々な産業分野がテクノロジーの発展に伴い、変化やイノベーションを求められている。2020年には小学生にプログラミングが義務づけられることが決定するなど、未来を生きる人材にとって、テクノロジーは欠かせないアイテムです。最初から難しい技術を学ぶのではなく、ワークショップや講座の中からテクノロジーの必要性や可能性に気づき、技術だけでなく、デザインやプレゼンテーションな	メッセージ	株式会社レキサスの主要講師とRyukyufrogs協賛企業やサポーターがゲストスピーカーを務めるという豪華ラインナップです。インプットだけでなく、体感型のワークショップもあり、楽しみながら、自分たちでも未来を創れる、変えられるということを実感してもらいたいと考えてます。 ※受講対象：産業情報学科1・2年次
	到達目標	1) 既存産業の課題と向き合い、テクノロジーを掛け合わせることで課題解決を行うワークショップを通じて、日常に流されない問題意識を持つ自立人材を育む。 2) テクノロジーの可能性に気づくことで、技術習得に興味を湧かす。 3) 文系・理系の枠を超えた、ハイブリッド人材を育む。		

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション		
	2	テクノロジーの可能性と未来（講話）		
	3	〇〇×ITの事例紹介と各産業界の課題を考える（講話とワークショップ）		
	4	課題発表とチームビルディング（ワークショップ）		
	5	チームで新サービスを考える①（ワークショップ）		
	6	デザインワークショップ		
	7	チームで新サービスを考える②（ワークショップ）		
	8	中間プレゼンテーション		
	9	プレゼンテーションの基礎を学ぶ		
	10	チームで新サービスを考える③（ワークショップ）		
	11	プロトタイプを作るには（講義）		
	12	チームでサービスを創る①（ワークショップ）		
	13	チームでサービスを創る②（ワークショップ）		
14	プレゼンテーションワークショップ			
15	最終成果報告会			
16				
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストはありませんが、スマートフォンやノートPCなどを所有している人は持参してください。		
	学びの手立て	インプットとアウトプットを繰り返しながら学ぶスタイルです。能動的かつ積極的に参加できる学生を希望します。定員は50名とし、登録希望者多数の場合には事前に選考を行います。初回講義時には必ず出席するようにしてください。		
	評価	最終成果報告のクオリティと、全講座を通じ受講時の言動などを評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目	創ることの楽しみに気づいた学生には、レキサスが運営する勉強会情報を提供し、参加を促します。
-------	-------------	---

※ポリシーとの関連性 産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高めるために、経済における財政の役割を学習します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	パブリックファイナンス	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国の財政の役割は、市場を通じては供給不可能か困難である公共財を供給すること及び民間部門（家計、企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにある。はじめに国の財政の役割、しくみを学習し、次に所得税、消費税、法人税、公債といった歳入を取り上げる。さらに、社会保障、公共事業といった歳出についてふれる。最後に日本の財政の諸課題について取り上げる。</p> <p>到達目標</p> <p>①市場の働きを補完する財政のしくみを理解する。 ②基本的な歳入、歳出の内容を理解する。 ③財政赤字や社会保障について理解を深める。</p>	<p>経済は企業や家計のほかに、財政が関係しています。日本の財政のしくみや今後の課題を理解することが重要になってきています。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	市場と公共部門の役割①	参考文献①の該当箇所を読む
	2	市場と公共部門の役割②	参考文献①の該当箇所を読む
	3	財政のしくみ①	参考文献②の該当箇所を読む
	4	財政のしくみ②	参考文献②の該当箇所を読む
	5	歳入と租税①（所得税）	財務省HP等からの資料閲覧
	6	歳入と租税②（消費税、法人税）	財務省HP等からの資料閲覧
	7	歳入と公債について	財務省HP等からの資料閲覧
	8	公共支出について①（公共事業）	参考文献①の該当部分読む
	9	公共支出について②（社会保障）	参考文献①の該当部分読む
	10	財政赤字と財政の持続可能性①	参考文献②の該当部分読む
	11	財政赤字と財政の持続可能性②	参考文献②の該当部分読む
	12	社会保障と財政①（年金）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧
	13	社会保障と財政②（医療）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧
14	情報化と公共部門の役割①	情報通信白書、該当部分閲覧	
15	情報化と公共部門の役割②	情報通信白書、該当部閲覧	
16	講義の総括		
テキスト・参考文献・資料など			
<p>教科書は特に指定しません。以下の書籍を参考文献としてあげておきます。</p> <p>①「財政学」林宜嗣，新世社、②図説「日本の財政」東洋経済</p>			
学びの手立て			
<p>経済原論Ⅰ、Ⅱで基本的な経済学の知識を理解しておくことが重要です。経済学の基本的知識を基に市場の働きを補完する政府の役割について理解を深めます。</p>			
評価			
<p>成績評価は、授業参加度、課題レポートの提出状況、定期試験の結果を基に総合的に行います。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	地域財政論Ⅰ、地域財政論Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス英語	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	2年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスシーンに登場する様々なシチュエーションやトピックを通して英語の4 Skills (Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。国際的な職場で仕事をするを想定したアクティビティやロールプレイを取り入れ、実践的な授業を行う。またビジネスマナー、外国人対応、異文化の知識と理解を深めることを目指す。</p>	<p>皆さんの周りに英語が出来なくて困っている社会人はいませんか？最近では日本（沖縄）にいても仕事で英語を使う機会が増えています。就職後、「ビジネス英語を取って良かった！」と思ってもらえるように楽しく、有意義な授業にしたいと思います。 【重要】受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や授業で学んだ英単語や表現の理解ができる。</li> <li>ビジネスシーンで基本的な英語を使い、意思疎通ができる。</li> <li>ビジネスシーンで想定される問題を自分なりに考え、行動し、解決できる。</li> <li>異文化に対する理解を深める。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance	Unit 1予習
	2	Unit 1: You	Unit 1復習、Unit 2予習
	3	Unit 2: Company	Unit 2復習、Unit 3予習
	4	Unit 3: Workplace	Unit 3復習
	5	Unit 3: Workplace	Unit 3復習、Unit 4予習
	6	Unit 4: Departments	Unit 4復習
	7	Unit 4: Departments	Unit 4復習、Unit5予習
	8	Unit 5: Products	Unit 5復習
	9	Unit 5: Products	Unit 5復習、Unit 6予習
	10	Unit 6: Entertaining	Unit 6復習
	11	Unit 6: Entertaining	Unit 6復習、Unit 7予習
	12	Unit 7: Technology	Unit 7復習
	13	Unit 7: Technology	Unit 7復習、Unit 8予習
	14	Unit 8: Travel	Unit 8復習
15	Unit 8: Travel	Unit 1-8復習	
16	Final Examination 期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Business Result Starter Student Book Pack and DVD-ROM（朝野書房やアマゾンなどで購入可） その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。</li> <li>ほぼ毎回クイズ又はテストを行い学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection（25%）②課題（25%）③クイズ・小テスト（25%）④ 期末テスト（25%）を総合的に判断して評価する。</p> <p>また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日常生活に英語を取り入れる方法を自分なりに考え、工夫し、学習の継続に努めてほしい。自分の目的にあった共通英語の授業や他の英語関連の教科も積極的に受講すること。特にV-VI（英検）とVII（TOEIC）は、資格取得と同時にモチベーション向上にもなるので是非チャレンジしてほしい。英語のコミュニケーション力を更に高めるため3、4年次に「グローバルオフィスコミュニケーション」を受講することを強く勧める。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスエコノミクス I	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新任教員	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的にインターネットなどから経済ビジネスに関わるデータを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。</p>	<p>本講義は、パソコンを用いた演習形式で行います。授業中のみならず、中業外でも不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。</p>
到達目標	<p>①表計算ソフトExcelによる視覚的なデータ処理の技法を身につける。 ②視覚的なデータ処理の結果を読み取る能力を身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	推移・比較分析	当日内容の復習と次回の予習
	3	順位・比較分析	同上
	4	内訳・比較分析	同上
	5	関係分析	同上
	6	比較・関係分析	同上
	7	階層分析	同上
	8	集中度・格差分析	同上
	9	原因の影響度分析	同上
	10	売上傾向分析	同上
	11	伸び率分析	同上
	12	データの集計分析	同上
	13	CS分析	同上
14	データの基本的統計分析（1）	同上	
15	データの基本的統計分析（2）	復習とテスト準備	
16	テスト	テスト結果の点検	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。		
学びの手立て	<p>①遅刻や無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容は時間外で学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と関係ないこと（スマートフォンの操作、講義内容と関係のないサイトの閲覧など）は減点となる。 ③疑問点や不明な点があったら、授業時間のみならず、授業時間外においても積極的に質問し、解決に努めてほしい。</p>		
評価	平常点：40%、テスト点：60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス情報分析Ⅱ、専門演習ⅠⅡ
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的にインターネットなどから経済ビジネスに関わるデータを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。	メッセージ 本講義は、パソコンを用いた演習形式で行います。授業中のみならず、授業外でも不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。
	到達目標 ①表計算ソフトExcelによる視覚的なデータ処理の技法を身につける。 ②視覚的なデータ処理の結果を読み取る能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	推移・比較分析	当日内容の復習と次回の予習
	3	順位・比較分析	同上
	4	内訳・比較分析	同上
	5	関係分析	同上
	6	比較・関係分析	同上
	7	階層分析	同上
	8	集中度・格差分析	同上
	9	原因の影響度分析	同上
	10	売上傾向分析	同上
	11	伸び率分析	同上
	12	データの集計分析	同上
	13	CS分析	同上
	14	データの基本的統計分析（1）	同上
15	データの基本的統計分析（2）	復習とテスト準備	
16	テスト	テスト結果の点検	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。		
	学びの手立て ①遅刻や無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容は時間外で学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と関係ないこと（スマートフォンの操作、講義内容と関係のないサイトの閲覧など）は減点となる。 ③疑問点や不明な点があったら、授業時間のみならず、授業時間外においても積極的に質問し、解決に努めてほしい。		
	評価 平常点：40%、テスト点：60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス情報分析Ⅱ、専門演習ⅠⅡ
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネット上からのビジネスおよび経済産業データの収集、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>①統計分析の手法を把握する。授業は統計学やデータ分析の概説部分から始まり、定義・計算の方法や背景、理由を解説します。背景や理由を知ることによって分析手法が必要な理由や応用事例を知ることができる。</p> <p>②統計分析を実践する。ただ知識として把握するだけでなく、練習問題や課題を行うことで社会などの現場やそぐ張論文のデータ分析に応用できる能力を身につける。</p>	<p>前期のビジネス情報分析Ⅰとは異なり、視覚的なデータ処理ではなく、数量分析や統計分析を開講し演習を行う授業です。また演習形式で行いますが、授業中のみならず、授業外でも不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	講義概要ガイダンス	
		2	既存統計資料の収集と読み方	当日内容の復習と次回の予習
		3	記述統計量（平均）	同上
		4	記述統計量（分散、標準偏差）	同上
		5	記述統計量（変動係数）	同上
		6	時系列データの分析指標（指数化、成長率、寄与率）	同上
		7	単純集計と度数分布	同上
		8	クロス集計とクロス集計表	同上
		9	散布度、散布図	同上
		10	相関関係、疑似相関、因果関係の概念	同上
		11	相関分析（相関係数）	同上
		12	相関分析（相関比）	同上
		13	相関分析（連関係数）	同上
		14	因果関係分析（直線回帰）	同上
		15	因果関係分析演習（直線回帰）	復習とテスト準備
		16	テスト	テスト結果の点検
	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。</p> <p>参考文献：菅民郎『らくらく図解統計分析教室』オーム社、渡辺美智子・神田智弘『実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析』秀和システムなど。</p>		
	学びの手立て	<p>①遅刻や無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容は時間外で学習し、不明な点は積極的に質問する。</p> <p>②講義中に講義内容と関係ないこと（スマートフォンの操作、講義内容と関係のないサイトの閲覧など）は減点となる。</p> <p>③疑問点や不明な点があったら、授業時間のみならず、授業時間外においても積極的に質問し、解決に努めてほしい。</p>		
	評価	平常点：40%、テスト点：60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：ビジネス情報分析Ⅰ、データ解析特論ⅠⅡ</p> <p>上位科目：専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習ⅠⅡ</p>

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、IT技術における基礎知識を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジュアル情報処理	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい CG技術に関する基礎的な理解と、プログラミングなどに知識を利用する技術を修得することを目指します。	メッセージ アニメーション、映像、ゲーム、VR、ARアプリなどのソフトウェア開発を行うために必要な知識です。
	到達目標 CG分野において簡単な開発や設計を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回講義の予習
	2	デジタルカメラモデル (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	デジタルカメラモデル (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	モデリング (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	モデリング (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	レンダリング (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	レンダリング (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	アニメーション (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
9	アニメーション (2)	当該講義の復習/次回講義の予習	
10	画像の濃淡変換とフィルタリング処理	当該講義の復習/次回講義の予習	
11	画像の解析	当該講義の復習/次回講義の予習	
12	パターン・特徴の検出とパターン認識	当該講義の復習/次回講義の予習	
13	シーンの復元	当該講義の復習/次回講義の予習	
14	ビジュアル情報処理システム (1)	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	ビジュアル情報処理システム (2)	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「ビジュアル情報処理 -CG・画像処理入門- [改訂新版]」画像情報教育振興協会 (2017) 参考書：「コンピュータグラフィックス[改訂新版]」画像情報教育振興協会 (2015) 「CGエンジニア検定エキスパート・ベーシック公式問題集 [改訂第三版]」画像情報教育振興協会 (2018)		
	学びの手立て 難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献、またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：3DCGアニメーション演習、ゲーム開発演習
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャルエコノミクス I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>預金による貯蓄に必要な基本的な考え方を理解する。                  企業の投資プロジェクトに必要な基本的な考え方を理解する。                  株式による貯蓄に必要な基本的な考え方を理解する。</p>	<p>ファイナンスは「貯める・借りる」を考える計算のことです。                  「実生活に役立つExcel計算」としてファイナンスを身に着けるきっかけにしてください。</p>

到達目標
<p>株式を保有して貯蓄する時のリスク・リターンを説明できる。                  株式を保有して貯蓄する時の分散効果の計算結果を説明できる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済活動とファイナンス：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	現在価値と将来価値①	金額と利子率を変えて試算する
	3	現在価値と将来価値②	第3回練習問題(プリント配布)
	4	NPV法とIRR①	第4回練習問題(プリント配布)
	5	NPV法とIRR②	第5回練習問題(プリント配布)
	6	投資収益率①	第6回練習問題(プリント配布)
	7	投資収益率②	第7回練習問題(プリント配布)
	8	学習内容の復習 1	第8回配布プリントの復習
	9	期待収益率・分散・標準偏差①	公式の復習
	10	期待収益率・分散・標準偏差②	第9回との違いを確認する
	11	共分散・相関係数①	公式の復習
	12	共分散・相関係数②	第11回との違いを確認する
	13	分散効果①	分散効果の意味を復習する
	14	分散効果②	第14回練習問題(プリント配布)
15	学習内容の復習2	第15回配布プリントの復習	
16	期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など
<p>教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。                  参考文献                  [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。                  [2]齋藤誠『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』有斐閣、2000年。                  [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。</p>

学びの手立て
<p>履修の心構え                  講義中のスマートフォンの操作は減点とする。                  欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。                  欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。                  遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。</p>

評価
<p>期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。                  提出課題20%：リスクとリターン、分散効果についてExcel計算できるかを測る。                  平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているか、特にExcelファイルの作成状況を測る。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目                  学習した内容を、将来の実生活で「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。                  証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャルエコノミクスⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 株式を利用した貯蓄の諸計算を自分で実行できるようになる。 ファイナンスの考え方・計算に基づいて株価の変動を観察する力を身に着ける。 金融商品が様々な貯蓄の契約であることを理解する。	メッセージ ファイナンスは「貯める・借りる」を考える計算のことです。 「実生活に役立つExcel計算」としてファイナンスを身に着けるきっかけにしてください。
	到達目標 効率的に複数の株式を保有して貯蓄する比率の計算結果を説明できる。 効率的に貯蓄の資金を預金と株式に配分する比率の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済活動とファイナンス：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	期待収益率・標準偏差(分散)・相関係数①	第2回内容を別の株価データで計算
	3	期待収益率・標準偏差(分散)・相関係数②	第3回内容を別の株価データで計算
	4	分散効果①	第4回内容を別の株価データで計算
	5	分散効果②	第5回内容を別の株価データで計算
	6	投資比率とポートフォリオの標準偏差①	第6回内容を別の株価データで計算
	7	投資比率とポートフォリオの標準偏差②	第7回内容を別の株価データで計算
	8	投資比率とポートフォリオの標準偏差③	第8回内容を別の株価データで計算
	9	学習内容の復習1	第9回配布プリントの復習
	10	3種類のポートフォリオの比較①	第10回練習問題(配布プリント)
	11	3種類のポートフォリオの比較②	第10回までのExcelシートの確認
	12	機会曲線	機会曲線の課題内容
	13	有効フロンティア	有効フロンティアの課題内容
14	資本市場線	資本市場線の課題内容	
15	学習内容の復習2	課題の計算結果を理解する	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]齋藤誠『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』有斐閣、2000年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：機会曲線、資本市場線についてExcel計算できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているか、特にExcelファイルの作成状況を測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活で「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングにおける基礎知識を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング理論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい データの表現形式、データ構造とアルゴリズムなど、情報処理技術の基礎的な内容を修得する。	メッセージ 2017年度以降の入学生は、上級情報処理士の資格取得、基本情報技術者試験 午前試験免除制度の適用に必要な科目です。 プログラミングの基本を本講義では学ぶが、入学時のベースがかなり異なるため、今までに全く学んだことがない者は予習・復習を必ず行うこと。それでも、わからない場合は授業外に質問すること。
	到達目標 探索や整列など基本的なアルゴリズムを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	データの表現
	2	基数と基数変換
	3	データの表現形式：〈文字データ／数値データ〉
	4	データの表現形式：〈誤差／シフト演算〉
	5	ファイルとレコード
	6	配列／リスト
	7	データ探索処理
	8	データ整列処理
9	さまざまなアルゴリズム	
10	ソフトウェアの分類	
11	OSの基本と構成	
12	OSの管理機能	
13	情報セキュリティの概念	
14	情報セキュリティ技術	
15	さまざまなセキュリティ対策	
16	総まとめ・期末試験	
		時間外学習の内容
		次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2017） 参考文献：・石田保輝、宮崎修一「アルゴリズム図鑑 絵で見てわかる26のアルゴリズム」翔泳社（2017） ・アंक「アルゴリズムの絵本」翔泳社（2003） ・アंक「OSの仕組みの絵本」翔泳社（2011） ・杉山行浩「Javaで学ぶデータ構造とアルゴリズム」東京電機大学出版局（2012） ・近藤嘉雪「定本Javaプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」ソフトバンククリエイティブ（2011）	
	学びの手立て 予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献、またWeb上の資料を積極的に利用するようにしてください。	
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義形式：プログラミング理論、情報処理システム論、情報通信ネットワーク論 演習形式：プログラミングI・II、ウェブプログラミング、データベース、情報処理システム演習、ロボットシミュレーション
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	1 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、手続き型プログラミングの基礎的な理解を目指す。	プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語とは何か、その概要と仕組みを理解し、説明できる。</li> <li>・統合開発環境を利用することができる。</li> <li>・画面出力・入力プログラムを実装することができる。</li> <li>・基本的な演算プログラムを実装することができる。</li> <li>・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。</li> <li>・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装することができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・Javaをはじめよう	ガイダンスの理解
	2	画面時文字を表示しよう (1) Javaプログラムの作成と実行	教科書の理解・課題の提出
	3	画面時文字を表示しよう (2) 画面への表示とストリーム	教科書の理解・課題の提出
	4	変数を使おう (1) 型	教科書の理解・課題の提出
	5	変数を使おう (2) 初期化と代入	教科書の理解・課題の提出
	6	プログラムの流れと分岐 (1) if文	教科書の理解・課題の提出
	7	プログラムの流れと分岐 (2) アルゴリズム	教科書の理解・課題の提出
8	プログラムの流れと繰り返し (1) do文	教科書の理解・課題の提出	
9	プログラムの流れと繰り返し (2) 多重ループ	教科書の理解・課題の提出	
10	基本型と演算 (1) 基本型と参照型	教科書の理解・課題の提出	
11	基本型と演算 (2) 演算と型	教科書の理解・課題の提出	
12	配列 (1) 配列と多次元配列	教科書の理解・課題の提出	
13	配列 (2) 配列の操作と拡張for文	教科書の理解・課題の提出	
14	メソッド	教科書の理解・課題の提出	
15	プログラム言語と言語プロセッサ	教科書の理解・課題の提出	
16	期末試験	試験勉強・採点後の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)</li> <li>・「ITワールド」インフォテック・サーブ (2018)</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8)</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・課題(締め切り厳守)を提出しない者には期末試験の受験を認めない。</li> <li>・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。</li> </ul>		
評価	<p>各課題(合計50点満点)・期末試験(50点満点)および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。 (課題合計点+期末試験の点数)×(授業参加度)</p> <p>但し、課題提出を怠った時点で期末試験の受験は認めない。受験したとしてもその結果は受理しない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングIIに臨む場合、2ヵ月の期間が空くので、その間は自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めること。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 実際のソフトウェア開発スキルの修得を目指す。 プログラミング言語にはJavaを用いる。 Javaの文法をきちんと理解した上で、基本的なプログラムを読み書きできるようにすることを旨とする。	メッセージ 履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する基本的な知識を有し、簡単なプログラムが書ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション, 画面に文字を表示しよう
	2	変数を使おう (1)
	3	変数を使おう (2)
	4	プログラムの流れの分岐 (1)
	5	プログラムの流れの分岐 (2)
	6	プログラムの流れの分岐 (3)
	7	プログラムの流れの繰り返し (1)
	8	プログラムの流れの繰り返し (2)
	9	総合問題
	10	基本形と演算
	11	配列
	12	メソッド (1)
	13	メソッド (2)
	14	クラスの基本 (1)
15	クラスの基本 (2)	
16	期末試験	
		時間外学習の内容
		次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習 / 次回講義の予習
		当該講義の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：柴田望洋「新・明解Java入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016) 「ITワールド」インフォテック・サーブ (2018) 参考書籍：柴田 望洋, 由梨 かおる「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ (2017) アンク「プログラミングの絵本」翔泳社 (2016) アンク「Javaの絵本第3版」翔泳社 (2016) リンダ・リウカス「ルビオのぼうけん こんにちは！プログラミング」翔泳社 (2016)	
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。	
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：プログラミング理論, データベース, ロボットプログラミング 次のステージ：プログラミングII, ウェブプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となるため、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つこととなります。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、基本的なプログラミング技術の習得を目指します。プログラミング言語としてJavaを採用していますが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮します。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指します。</p>	<p>プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語とは何か、その概要と仕組みを理解し、説明できる。</li> <li>・画面出力・入力の実装プログラムを実装できる。</li> <li>・基本的な演算プログラムを実装できる。</li> <li>・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。</li> <li>・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	プログラミング言語とJava	配布資料の読み込みと理解
	2	変数における識別子と型	教科書の読み込みと理解
	3	変数における宣言と利用	課題への真摯な取り組み
	4	式と演算子	教科書の読み込みと理解
	5	演算子の優先順位と型変換	課題への真摯な取り組み
	6	関係演算子とif文	教科書の読み込みと理解
	7	if-else文とswitch文	課題への真摯な取り組み
8	for文とwhile文	教科書の読み込みと理解	
9	do-while文	課題への真摯な取り組み	
10	配列	教科書の読み込みと理解	
11	多次元配列	課題への真摯な取り組み	
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解	教科書の読み込みと理解	
13	フィールドとメソッド	課題への真摯な取り組み	
14	オブジェクトの作成	教科書の読み込みと理解	
15	オブジェクトの利用	課題への真摯な取り組み	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ITワールド」インフォテック・サーブ(2018)</li> <li>・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)</li> <li>・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8)</li> <li>・アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005)</li> </ul> <p>また理解の手助けとなる資料を随時配布します。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。</p> <p>② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。</p> <p>③ 配布される参考資料そしてデータファイルは、毎回の講義に持参してください。</p> <p>④ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。</p> <p>⑤ 講義に関する疑問は放置せず、講義中に教員に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解消してください。</p>		
評価	<p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(10点)、課題レポート(20点)、タイピング(10点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングⅡに臨む場合、2ヵ月の期間が空きますので、その間は自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めてもらいたいと考えます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、オブジェクト指向プログラミングの基礎的な理解を目指す。</p>	<p>プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> <li>・クラス変数とクラスメソッドの仕組みを理解し、利用・開発できる。</li> <li>・パッケージの仕組みを理解し、利用・開発できる。</li> <li>・クラスの派生と多相性の仕組みを理解し、活用できる。</li> <li>・抽象クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> <li>・インタフェースの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習	ガイダンスの理解・教科書の復習
	2	クラスの基本（1）クラス・クラス型変数・メンバアクセス演算子	教科書の理解・課題の提出
	3	クラスの基本（2）フィールドとインスタンス変数	教科書の理解・課題の提出
	4	日付クラスの作成（1）アクセッサ（ゲッターとセッター）	教科書の理解・課題の提出
	5	日付クラスの作成（2）文字列化とtoStringメソッド	教科書の理解・課題の提出
	6	クラス変数とクラスメソッド（1）クラス変数（静的フィールド）	教科書の理解・課題の提出
	7	クラス変数とクラスメソッド（2）静的初期化子とインスタンス初期化子	教科書の理解・課題の提出
	8	パッケージ（1）パッケージ・型インポート宣言（単一／オンデマンド）	教科書の理解・課題の提出
	9	パッケージ（2）パッケージとアクセス制御	教科書の理解・課題の提出
	10	クラスの派生と多相性（1）派生による資産の継承	教科書の理解・課題の提出
	11	クラスの派生と多相性（2）参照型のキャスト（アップ／ダウン）	教科書の理解・課題の提出
	12	抽象クラス（1）抽象メソッド	教科書の理解・課題の提出
	13	抽象クラス（2）文書化コメント	教科書の理解・課題の提出
14	インタフェース	教科書の理解・課題の提出	
15	期末試験	試験勉強および復習	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2007）</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2008）</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス（2014/8）</li> <li>・アंक「Javaの絵本」翔泳社（2005）</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した教科書の第1章から第7章までの内容は、前もって完全に理解しておくこと。</li> <li>・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・課題（締め切り厳守）を提出しない者には期末試験の受験を認めない。</li> <li>・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。</li> </ul>		
評価	<p>各課題（合計50点満点）・期末試験（50点満点）および授業参加度をもとに以下のような評価を算定する。  （課題合計点＋期末試験の点数）×（授業参加度）  但し、課題提出を怠った時点で期末試験の受験は認めない。受験したとしてもその結果は受理しない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>情報コースに進むには、まずプログラミングⅡで十分に基礎を身に付けるべきである。但し、プログラミングⅡまではあくまで基礎でしかないため、今後は自身でプログラミングの学習を進める必要がある。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となるため、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つこととなります。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。よって、プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。	プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングⅠの学習範囲を習得している。</li> <li>・オブジェクト指向について基本的な事柄が理解できる。</li> <li>・オブジェクトとクラスの理解に基づいた実装ができる。</li> <li>・パッケージ、派生と多相性、抽象クラスを実装できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	構造化プログラミングの復習①	配布資料の読み込みと理解
	3	構造化プログラミングの復習②	配布資料の読み込みと理解
	4	オブジェクト指向の基本的理解	配布資料の読み込みと理解
	5	クラスの基本①	教科書の読み込みと理解
	6	クラスの基本②	教科書の読み込みと理解
	7	単純なクラスの実装	課題への真摯な取り組み
8	クラス変数とクラスメソッド①ー理解	教科書の読み込みと理解	
9	クラス変数とクラスメソッド②ー実装	課題への真摯な取り組み	
10	パッケージ①ー理解	教科書の読み込みと理解	
11	パッケージ②ー実装	課題への真摯な取り組み	
12	クラスの派生と多相性①ー理解	教科書の読み込みと理解	
13	クラスの派生と多相性②ー実装	課題への真摯な取り組み	
14	抽象クラス①ー理解	教科書の読み込みと理解	
15	抽象クラス②ー実装	課題への真摯な取り組み	
16	学期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)</li> <li>・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8)</li> <li>・アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005)</li> </ul> また理解の手助けとなる資料を随時配布します。		
	学びの手立て <ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。</li> <li>② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。</li> <li>③ 配布される参考資料そしてデータファイルは、毎回の講義に持参してください。</li> <li>④ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。</li> <li>⑤ 講義に関する疑問は放置せず、講義中に教員に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解消してください。</li> </ol>		
	評価 <p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(10点)、課題レポート(20点)、タイピング(10点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 <p>本演習においてプログラミングの基礎力を習得したことを前提とし、その展開として、「ウェブプログラミング」、「情報処理システム演習」、「データベース」、「UIデザイン論」、「ビジュアル情報処理」の履修を推奨します。</p>
-------	--



※ポリシーとの関連性

「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。	メッセージ プログラミングⅠを履修済みの者、もしくは、同等の知識を有している者のみが登録することができる。また、履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する一般的な知識を有し、小規模なプログラムが適切に書ける。オブジェクト指向についての一般的な概念を理解している。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・プログラミングⅠの復習	次回講義の予習
	2	メソッド (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	メソッド (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	クラス (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	クラス (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	クラス (3)	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	クラス (4)	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	クラス変数とクラスメソッド (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	クラス変数とクラスメソッド (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	パッケージ	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	クラスの派生と多相性 (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	クラスの派生と多相性 (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	抽象クラス (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	抽象クラス (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
15	インタフェース	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：柴田望洋「新・明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016) 「ITワールド」インフォテック・サーブ (2018) 参考書籍：柴田望洋、由梨 かおる「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ (2017) アंक「プログラミングの絵本」翔泳社 (2016) アंक「Javaの絵本第3版」翔泳社 (2016) リンダ・リウカス「ルビィのぼうけん こんにちは！プログラミング」翔泳社 (2016)		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：プログラミング理論、プログラミングⅠ、ウェブプログラミング、データベース、ロボットプログラミング
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	1年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 「簿記Ⅰ」は簿記入門を扱っており、簿記会計の基礎となる教科である。「なぜそうなるのか」「どうして、こうするのか」常に考えながら原理・原則を学講義としたい。	メッセージ 簿記を初めて学習する人達が、簿記を正しく、かつ楽しみながら理解できるように、簿記の基礎原理・原則に基づいてわかりやすく講義をすすめて行く。
	到達目標 簿記の基礎的な知識を有し、特にサービス等における基本的な記帳処理ができる。	

学びの準備	到達目標 簿記の基礎的な知識を有し、特にサービス等における基本的な記帳処理ができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	複式簿記の意義と目的	
	2	資産・負債・純資産	練習問題
	3	貸借対照表	同上
	4	収益・費用と損益計算書	同上
	5	取引と勘定	同上
	6	仕訳・転記	同上
	7	仕訳・転記	同上
	8	試算表	同上
	9	精算表	同上
	10	決算(その1)	同上
	11	決算(その1)	同上
	12	現金・預金	同上
	13	現金・預金	同上
	14	商品売買の処理	同上
	15	商品売買の処理	同上
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記Ⅱを続けて受講することにより、簿記検定試験3級の範囲となる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	1年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 簿記Ⅰで学んだ簿記の基礎を踏まえ、更に進んだ簿記システム理論と記帳技術を講義する。つまり、「簿記Ⅰ」が入門編で、「簿記Ⅱ」は初級編となる。	メッセージ 企業は簿記会計の知識を有した人材を強く求めており、多数の学生の受講を望む。
	到達目標 小規模企業における経営者又は経理担当者として、最低限必要な簿記に関する知識を有し、かつ簡易な実務処理ができる。	

学びの準備	到達目標 小規模企業における経営者又は経理担当者として、最低限必要な簿記に関する知識を有し、かつ簡易な実務処理ができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	簿記Ⅰのまとめ	
	2	商品売買	練習問題
	3	売掛金・買掛金元帳	同上
	4	手形	同上
	5	手形記入帳	同上
	6	その他の債権・債務	同上
	7	有価証券	同上
	8	有価証券	同上
	9	固定資産	同上
	10	固定資産	同上
	11	資本金と引出金	同上
	12	税金	同上
	13	決算(その2)	同上
	14	決算(その2)	同上
	15	決算(その2)	同上
16	期末テスト	同上	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記検定2級の勉強に進むことを望む。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア論	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	3年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報とメディア、コミュニケーションとメディアテクノロジーとの関係を中心に講義を行う。特にマルチメディアの特性について考察し、その利用による効果を考える。情報の表現、つまり各種メディアをコンピュータで処理するためのデータの表現方法や、マルチメディア情報を取り扱う上での基礎知識、マルチメディアとインターネットを活用したビジネスについての説明も行う。	テキストだけでなく、実際にサービスが行われている画面やコンテンツ、CGアニメーションや特撮のメイキング紹介を用いる事で、視覚と聴覚の両方で情報を感じてもらえる講義を行う。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツを構成する要素の成立ちと技術について理解する事で、サービスやコンテンツの提案ができるようになる。</li> <li>インターネットを活用したビジネスモデルの内容と動向を学ぶ事で、新しいプランの提案ができるようになる。</li> </ul>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス マルチメディアとは	講義概要の確認
	2	コミュニケーションと情報	テキスト内容の事前確認
	3	インターネットとマルチメディア	同上
	4	マルチメディアの構成要素 (1) 音声情報	同上
	5	マルチメディアの構成要素 (2) 画像情報	同上
	6	マルチメディアの構成要素 (3) 映像情報	同上
	7	CG作成技術について (1) グラフィックソフト、CAD	テキスト内容の事前確認、試験準備
	8	中間試験	
	9	CG作成技術について (2) 3Dモデリングソフト	テキスト内容の事前確認
	10	CG作成技術について (3) アニメーション	同上
	11	CG、特撮作品についての紹介、解説	特撮に関するコンテンツ鑑賞(題材自由)
	12	マルチメディアの発達をもたらす社会 (1)	同上
	13	マルチメディアの発達をもたらす社会 (2)	同上
	14	マルチメディアの発達をもたらす社会 (3)	同上
15	最終試験	テキスト内容の事前確認、試験準備	
16	試験解答・総括		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル ~公益財団法人 画像情報教育振興協会 (CG-ARTS協会) ~  <a href="https://www.cgarts.or.jp/book/multimedia/index.html">https://www.cgarts.or.jp/book/multimedia/index.html</a></p> <p>併せて、各講義の2日前までにpdfファイルを沖国大ポータル授業共有フォルダにアップロードする</p>
----	--

学びの手立て	<p>講義に使用するテキストは、各回のテーマに関連した参考となるコンテンツやwebサイトのURLを記載したPDFファイルを用いる。可能な学生はインターネットにアクセスできるノートPC、タブレットなどで随時内容が確認しながらの受講をお願いしたい。</p>
--------	--

評価	<p>試験および出席状況を総合的に判断し評価する。                  中間試験45%、期末試験45%、平常点10%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>普段から映画やゲーム、webコンテンツなどに積極的に、継続的に触れ、ハードやインフラの進化によりどのように表現が変わっていくのかを実感してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、UIデザインの基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	UIデザイン概論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	E-mail: k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、UI（ユーザーインターフェースデザイン）の概念と手法について理解し、その機能と役割について学ぶ。また、デザインの基礎となる色彩設計および心理的効果、管理手法等、情報の視覚化とデザインについて理解を深める。	ユーザー視点に立ったデザインやユーザー体験について理解し、技術や手法を応用した創造力や問題解決力を身につけてほしい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザーインターフェースデザインに関する基本的な概念と役割について理解する。</li> <li>ユーザー視点に立った、デザインプロセスやユーザー体験について深く理解しデザイン手法について学ぶ。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ユーザーインターフェースとデザイン	基本概念の理解および講義の復習
	3	デザイン概論	基本概念の理解および講義の復習
	4	デザイン (1) - 視覚と色彩	基本概念の理解および講義の復習
	5	デザイン (2) - 情報と図像、構成	基本概念の理解および講義の復習
	6	デザイン (3) - 社会とデザイン	基本概念の理解および講義の復習
	7	情報アーキテクチャと構造	基本概念の理解および講義の復習
8	インターフェースデザインと心理 (1)	基本概念の理解および講義の復習	
9	インターフェースデザインと心理 (2)	基本概念の理解および講義の復習	
10	ユーザーと行動	基本概念の理解および講義の復習	
11	ナビゲーションモデル	基本概念の理解および講義の復習	
12	ユーザーインターフェースデザインとコンセプト	基本概念の理解および講義の復習	
13	ユーザーインターフェースデザインとデザインプロセス	基本概念の理解および講義の復習	
14	ユーザーインターフェースデザインの視覚化	基本概念の理解および講義の復習	
15	ユーザーエクスペリエンス	基本概念の理解および講義の復習	
16	統括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。          参考書：「誰のためのデザイン？」D. A. Norman著、野島久雄訳、新曜社、「人間中心設計」黒須正明著、近代科学社</p>		
学びの手立て	<p>欠席した場合は、必ず欠席届を提出すること。          資料、参考書等をもとに講義を進めるため、講義内容を理解するためのノート記述を行うこと。</p>		
評価	<p>講義内で課題レポートの提出（80%）、授業参加度（20%）を総合的に評価する。          総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：ウェブデザイン演習、情報リテラシー演習、ゲーム開発演習、コンテンツマネジメント論</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ロボットシミュレーション	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>LEGO MINDSTORMSを用いた移動自律ロボットを題材として、チームによる課題解決に取り組む。</li> <li>センサからの外部入力に応じたロボットの制御に、メンバーとの協力を以て臨むことで、プログラミング能力・協調性・課題解決能力の向上を図る。</li> </ul>	<p>ロボットを構想の通りに制御するには多くの試行錯誤と創意工夫が必要になります。実行結果と粘り強く向き合い、チームのメンバーと知恵を出し合い、自ら積極的に行動することで、ロボット制御の基本および協働性・課題解決能力を身に付けましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで課題を共有し、協力して解決に臨むことができる。</li> <li>ロボットの構造・動作の仕組みが説明できる。</li> <li>自作のロボットを実装・稼働させることができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ロボットの基礎	課題の理解・提出
	3	チームビルディング	課題の理解・提出
	4	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (1)	課題の理解・提出
	5	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (2)	課題の理解・提出
	6	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (3)	課題の理解・提出
	7	プロジェクト1 走行会	課題の理解・提出
	8	プロジェクト2 ライントレース (1)	課題の理解・提出
	9	プロジェクト2 ライントレース (1)	課題の理解・提出
	10	プロジェクト2 ライントレース (1)	課題の理解・提出
	11	プロジェクト2 走行会	課題の理解・提出
	12	プロジェクト3 自由課題 (1)	課題の理解・提出
	13	プロジェクト3 自由課題 (1)	課題の理解・提出
14	プロジェクト3 自由課題 (1)	課題の理解・提出	
15	プロジェクト3 走行会	課題の理解・提出	
16	総括	課題の理解・提出	
	テキスト・参考文献・資料など	講義にて指定する。	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1週目には出席しない場合には登録を取り消す。</li> <li>ある程度のシステム開発の知識、プログラミング技術が必要なため情報処理システム論、プログラミング理論、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。</li> <li>チームの和を貴ぶこと。</li> </ul>	
	評価	各プロジェクトにおける業績およびチーム貢献度をもとに以下のような評価を算定する。 (各プロジェクトにおける業績) × (チーム貢献度)	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	センサと制御に関する技術は利用価値が高い。将来的に使う機会があれば、本講義で学んだことをもとに、更なる研鑽を望む。